令　和　５　年　度
文部科学省委託調査

令和５年度
幼児教育の好事例の収集・蓄積・活用に関する調査研究

調査報告書

令和６年３月

株式会社 リベルタス・コンサルティング

目次

第 1 章 調査概要 1

1－1 調査目的 1

1－2 調査概要 1

第 2 章 幼児教育施設へのアンケート調査 3

2－1 調査概要 3

2－2 施設概要について 4

2－3 保育者育成の取組（園内研修）について 9

2－4 保育者育成の取組（園内研修以外）について 33

2－5 保育者育成の取組（園外研修）について 36

2－6 学校評価（自己評価）の実施状況 43

2－7 学校評価（関係者評価）の実施状況 56

2－8 学校評価（第三者評価）の実施状況 68

第 3 章 若手保育者へのアンケート調査 79

3－1 調査概要 79

3－2 基本属性 80

3－3 勤務している施設で取り組んでいる保育業務について 91

3－4 研修への参加状況について 96

3－5 困ったときの対応について 107

3－6 管理職と若手保育者の意識の差 116

3－7 若手保育者の園内研修の効果 117

第 4 章 ヒアリング調査結果 120

4－1 幼児教育施設へのヒアリング調査 120

4－2 若手保育者へのヒアリング調査 128

第 5 章 まとめ 141

5－1 調査結果からみる園内研修の実施状況、若手保育者の課題 141

5－2 まとめ 147

第 6 章 参考資料 149

6－1 管理職向けアンケート 149

6－2 若手保育者向けアンケート 159

第1章　調査概要

本調査研究は、文部科学省からの委託を受けて実施したものである。調査概要は、以下のとおり。

1－1　調査目的

幼児教育の充実に資する保育の工夫について、幼稚園、保育所、認定こども園等や幼児教育関係団体を対象として幅広い事例を収集し、保育の経験の少ない教職員、小学校教員、保護者等に分かりやすく伝える工夫をするなどの整理を行うとともに、有効な資料の作成、活用の在り方について調査研究を行い、その成果をまとめる。

1－2　調査概要

以下の調査を実施した。

1－2－1 調査研究実行委員会の開催

有識者による委員会を開催し、調査の設計・分析等に関するご意見をいただいた。
委員は下記の通り。

※敬称略、五十音順

岡上　直子	全国幼児教育研究協会顧問
河合　優子	聖徳大学教育学部児童学科教授
波岡　千穂	学校法人伸和学園堀川幼稚園副園長
横澤　峰紀子	千代田区立九段幼稚園　園長

委員会の開催概要は、下記の通り。

第一回日時	令和５年 10 月 31 日　16 時 30 分～18 時 30 分
開催場所	オンライン（Zoom）
議題	（１）調査趣旨・内容について （２）アンケート調査項目について （３）その他

第二回日時	令和６年 11 月 29 日　16 時～18 時
開催場所	文部科学省会議室
議題	（１）調査方針について （２）アンケート調査仕様について （３）プレヒアリング結果について （４）アンケート調査項目について （５）その他

第三回日時	令和６年３月 11 日～15 日
開催場所	持ち回り開催
議題	（１）報告書（案）について （２）その他

1－2－2 幼児教育施設アンケート

全国の幼稚園・保育所・認定こども園等を対象にアンケート調査を実施し、幼稚園等における園内研修の実施状況や工夫点、研修実施の課題等について状況を把握する。また、学校評価に関する項目も設定し、実施状況や認識について調査を行う。

1－2－3 若手保育者アンケート

全国の幼稚園・保育所・認定こども園等に勤務する 20 代～30 代の若手保育者を対象にアンケート調査を実施し、園内研修への参加状況や現場における課題等について把握する。

1－2－4 ヒアリング調査の実施

他の園の参考となるような園内研修を実施している幼稚園等にヒアリング調査を行い、どのような工夫をして研修を行っているか等を明らかにする。

また、若手保育者にもヒアリング調査を実施し、園内研修における課題や効果等を把握する。

第2章 幼児教育施設へのアンケート調査

2－1　調査概要

2－1－1　調査対象

全国の幼児教育施設から下記の件数を無作為に抽出した。

・幼稚園・幼稚園型認定こども園　5000 件

・保育所　3,000 件

・幼保連携型認定こども園　1,500 件

・保育所型認定こども園　500 件

2－1－2　調査方法

WEB アンケートの URL・二次元コードを記載した調査依頼文書を作成し、対象施設へ郵送で送付した。対象者は依頼状に記載されている URL・二次元コードよりアンケート回答サイトにアクセスし WEB アンケートへ回答した。

2－1－3　調査時期

令和 6 年 1 月 12 日～令和 6 年 2 月 2 日

2－1－4　回収状況

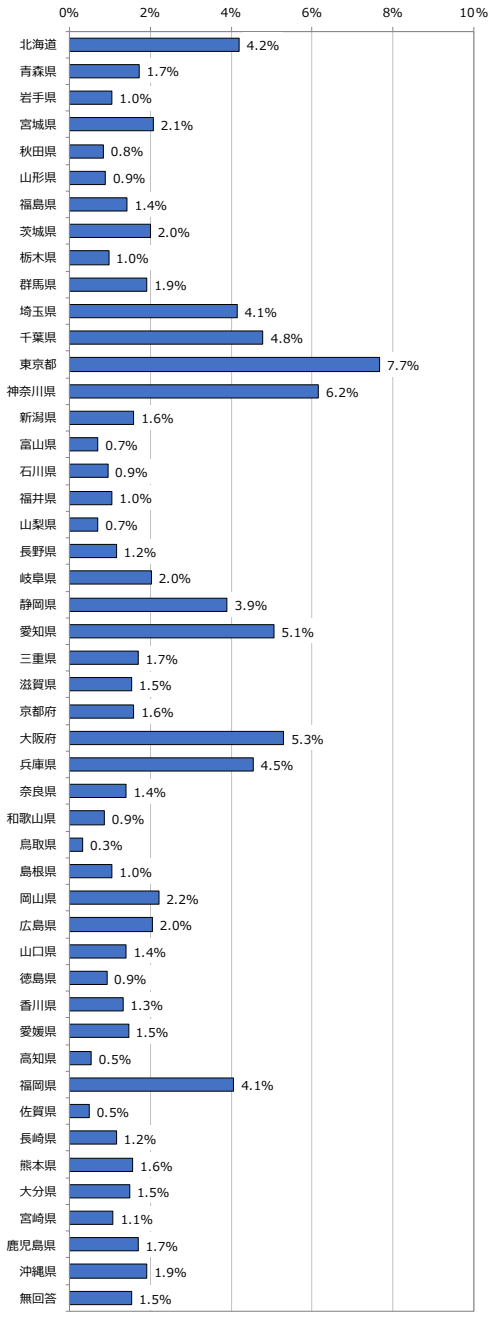
有効回答数

対象	回収数	回収率
・幼稚園・幼稚園型認定こども園	2061/5000	41.2%
・保育所	877/3000	29.2%
・幼保連携型認定こども園	602/1500	40.1%
・保育所型認定こども園	179/500	35.8%

2－2　施設概要について

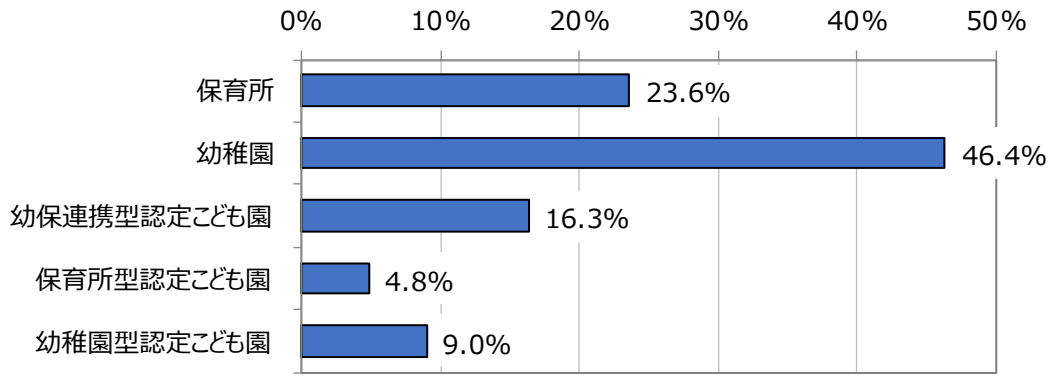
2－2－1　所在地（都道府県）

図表 1　施設の所在地(n=3,719)



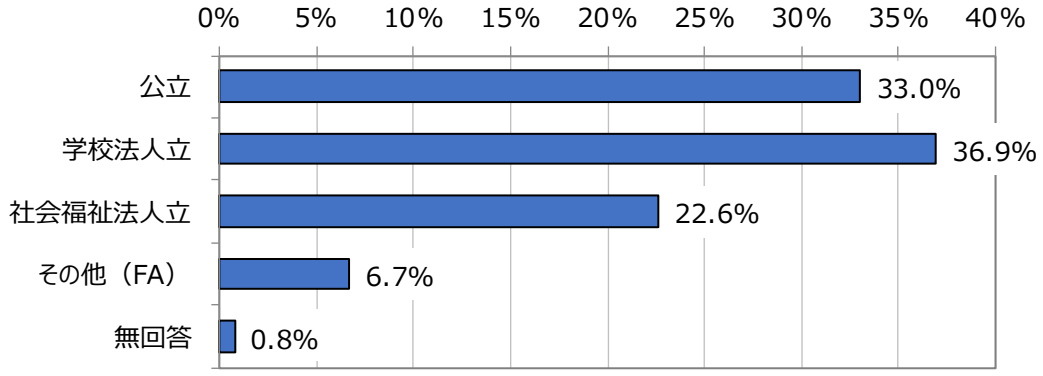
2－2－2　設置形態

図表 2　施設の設置形態(n=3,719)



2－2－3　運営主体

図表 3　施設の運営主体(n=3,719)



設置形態×施設の運営主体

	全体	公立	学校法人立	社会福祉法人立	その他（FA）	無回答
全体	3719 (100.0%)	1228 (33.0%)	1373 (36.9%)	841 (22.6%)	249 (6.7%)	28 (0.8%)
保育所	877 (100.0%)	286 (32.6%)	26 (3.0%)	420 (47.9%)	135 (15.4%)	10 (1.1%)
幼稚園	1724 (100.0%)	737 (42.7%)	891 (51.7%)	3 (0.2%)	84 (4.9%)	9 (0.5%)
幼保連携型認定こども園	606 (100.0%)	117 (19.3%)	168 (27.7%)	313 (51.7%)	0 (0.0%)	8 (1.3%)
保育所型認定こども園	179 (100.0%)	50 (27.9%)	2 (1.1%)	104 (58.1%)	23 (12.8%)	0 (0.0%)
幼稚園型認定こども園	333 (100.0%)	38 (11.4%)	286 (85.9%)	1 (0.3%)	7 (2.1%)	1 (0.3%)

2－2－4　在籍園児数（利用児童数）

図表 4　在籍園児数（平均）

年齢	在籍園児数（平均）（人）
0 歳児（回答数：2,730）	4.7
1 歳児（回答数：2,776）	8.5
2 歳児（回答数：2,994）	12.2
3 歳児（回答数：3,513）	26.0
4 歳児（回答数：3,629）	27.5
5 歳児（回答数：3,630）	29.5

設置形態×在園児数（平均）

	在籍園児数（平均）（人）					
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
全体	4.7	8.5	12.2	26.0	27.5	29.5
保育所	7.4	13.2	14.6	15.9	16.5	16.7
幼稚園	0.0	0.0	6.9	30.1	31.7	35.0
幼保連携型認定こども園	7.8	14.3	17.6	27.2	29.2	29.9
保育所型認定こども園	8.3	13.8	15.8	19.4	19.9	20.4
幼稚園型認定こども園	2.8	5.9	11.8	33.7	35.2	37.8

2−2−5　常勤職員と非常勤職員の割合

図表 5　在籍職員数（平均）

常勤／非常勤	職員数（平均）
常勤（回答数：3,660）	14.2 人
非常勤（回答数：3,549）	9.2 人

設置形態×在籍職員数（平均）

	平均在籍職員数（人）	
	常勤	非常勤
全体	14.2	9.2
保育所	16.4	10.3
幼稚園	10.2	6.6
幼保連携型認定こども園	20.1	13.8
保育所型認定こども園	18.5	10.5
幼稚園型認定こども園	15.7	10.6

2－2－6　保育経験が 5 年以内の保育者の割合

図表 6　在籍 5 年以内職員数（平均）

保育経験が 5 年以内の保育者の平均人数（回答数：3,599）	3.5 人

設置形態×在籍 5 年以内の職員数（平均）

	平均人数
全体	3.5
保育所	3.6
幼稚園	2.7
幼保連携型認定こども園	5.0
保育所型認定こども園	4.2
幼稚園型認定こども園	4.6

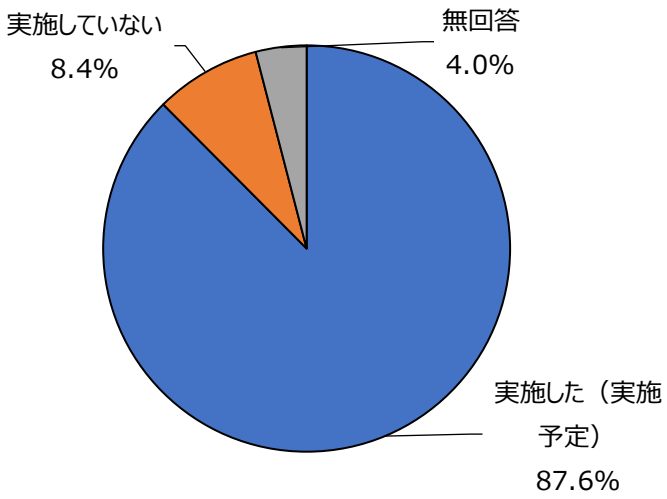
2－3　保育者育成の取組（園内研修）について

2－3－1　園内研修の実施の有無

令和 5 年度に園内研修実施をしているか聞いたところ、全体の 8 割超が「実施した（実施予定）」と回答し（87.6%）、未実施の園は 10%弱となっている。

設置形態別で見ると、各形態すべて実施割合が 8 割を超えており、特に幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園で 9 割以上と割合が高い。

図表 7　園内研修の実施の有無(n=3,719)



設置形態×園内研修の実施の有無

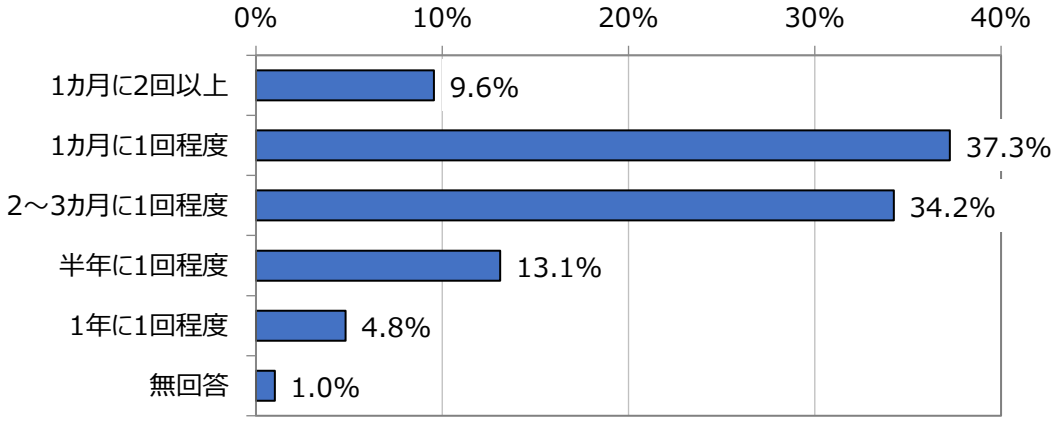
	全体	実施した（実施予定）	実施していない	無回答
全体	3719 (100.0%)	3256 (87.6%)	313 (8.4%)	150 (4.0%)
保育所	877 (100.0%)	776 (88.5%)	45 (5.1%)	56 (6.4%)
幼稚園	1724 (100.0%)	1468 (85.2%)	207 (12.0%)	49 (2.8%)
幼保連携型認定こども園	606 (100.0%)	557 (91.9%)	27 (4.5%)	22 (3.6%)
保育所型認定こども園	179 (100.0%)	164 (91.6%)	7 (3.9%)	8 (4.5%)
幼稚園型認定こども園	333 (100.0%)	291 (87.4%)	27 (8.1%)	15 (4.5%)

2－3－2　園内研修の実施頻度

園内研修の実施頻度を聞いたところ、「1 か月に 1 回程度」が 37.3%と最多となっており、次点で「2~3 か月に 1 回程度」の 34.2%となっている。

設置形態別でみると、保育所の約半数が「1 か月に 2 回以上」または「1 か月に 1 回程度」と回答し（「1 か月に 2 回以上」6.7%、「1 か月に 1 回程度」42.5%）、ほかの設置形態よりも実施頻度が高い。幼稚園は「1 か月に 2 回以上」実施している割合が他の設置形態よりも高い。

図表 8　園内研修の実施頻度(園内研修実施者 n=3,256)



設置形態×園内研修の実施頻度

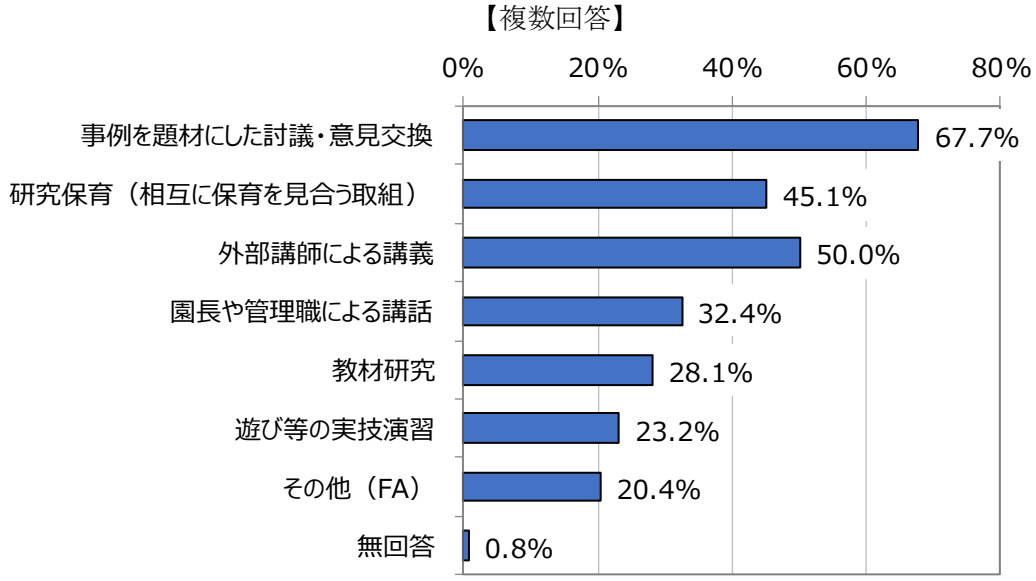
	全体	1カ月に2回以上	1カ月に1回程度	2～3カ月に1回程度	半年に1回程度	1年に1回程度	無回答
全体	3256 (100.0%)	311 (9.6%)	1213 (37.3%)	1115 (34.2%)	427 (13.1%)	157 (4.8%)	33 (1.0%)
保育所	776 (100.0%)	52 (6.7%)	330 (42.5%)	274 (35.3%)	88 (11.3%)	26 (3.4%)	6 (0.8%)
幼稚園	1468 (100.0%)	183 (12.5%)	494 (33.7%)	492 (33.5%)	200 (13.6%)	87 (5.9%)	12 (0.8%)
幼保連携型認定こども園	557 (100.0%)	44 (7.9%)	229 (41.1%)	194 (34.8%)	60 (10.8%)	18 (3.2%)	12 (2.2%)
保育所型認定こども園	164 (100.0%)	10 (6.1%)	65 (39.6%)	63 (38.4%)	20 (12.2%)	5 (3.0%)	1 (0.6%)
幼稚園型認定こども園	291 (100.0%)	22 (7.6%)	95 (32.6%)	92 (31.6%)	59 (20.3%)	21 (7.2%)	2 (0.7%)

2－3－3　園内研修の実施内容

園内研修では、回答者の約 7 割が「事例を題材にした討議・意見交換」を実施していると回答した。その次に「外部講師による講義」が 50.0%と高い割合となっている。

設置形態別でみると、との設置形態でも「事例を題材にした討議・意見交換」を実施している割合が高い。幼稚園については、「教材研究」を実施していると回答したのが 37.8%と、他の形態よりも 10 ポイント近く高い割合となっている。

図表 9　園内研修の実施内容(園内研修実施園 n=3,256)



設置形態×園内研修の実施内容【複数回答】

	全体	事例を題材にした討議・意見交換	研究保育（相互に保育を見合う取組）	外部講師による講義	園長や管理職による講話	教材研究	遊び等の実技演習	その他（FA）	無回答
全体	3256 (2.68)	2205 (67.7%)	1469 (45.1%)	1629 (50.0%)	1056 (32.4%)	915 (28.1%)	754 (23.2%)	663 (20.4%)	26 (0.8%)
保育所	776 (2.57)	551 (71.0%)	299 (38.5%)	354 (45.6%)	235 (30.3%)	133 (17.1%)	202 (26.0%)	220 (28.4%)	3 (0.4%)
幼稚園	1468 (2.75)	986 (67.2%)	723 (49.3%)	743 (50.6%)	476 (32.4%)	555 (37.8%)	319 (21.7%)	227 (15.5%)	10 (0.7%)
幼保連携型認定こども園	557 (2.69)	374 (67.1%)	251 (45.1%)	297 (53.3%)	190 (34.1%)	121 (21.7%)	134 (24.1%)	124 (22.3%)	10 (1.8%)
保育所型認定こども園	164 (2.54)	113 (68.9%)	70 (42.7%)	79 (48.2%)	46 (28.0%)	24 (14.6%)	42 (25.6%)	42 (25.6%)	1 (0.6%)
幼稚園型認定こども園	291 (2.62)	181 (62.2%)	126 (43.3%)	156 (53.6%)	109 (37.5%)	82 (28.2%)	57 (19.6%)	50 (17.2%)	2 (0.7%)

※複数回答の設問における集計表の「全体」の列の下段の数字は、回答者が選択した選択肢の数の平均である。（以下同様）

園内研修の実施内容（その他抜粋）

日常保育に関する研修	・こどもの人権について ・障害児理解について ・給食研修
人材研修	・エンゲージメント研修 ・インクルーシブ、コンプライアンス等 ・キャリアアップ研修報告会 ・マナー研修、教職員の働き方研修 ・メンタルヘルス ・人権・ハラスメントに対する研修 ・若手の疑問対談
安全管理に関する研修	・不適切保育についての研修 ・不審者対応講習 ・清掃・消毒研修 ・水遊びに関する研修 ・虐待防止研修 ・リスクマネジメント研修 ・送迎バス安全対策
緊急時に関する研修	・救命救急研修（AED・エピペン・熱性けいれん・心肺蘇生等） ・アレルギー、食中毒、感染症に関する研修 ・災害時訓練
ICT・WEB 等を活用した研修	・ICT 導入に関する研修 ・WEB 講演の視聴 ・zoom による研修 ・フォトチャットによる子ども理解
他園・他機関との連携を伴う研修	・幼保、こども園、小学校合同研修 ・他園見学 ・療育施設訪問研修
園・地域による独自研修	・CLM 研修（三重県独自）

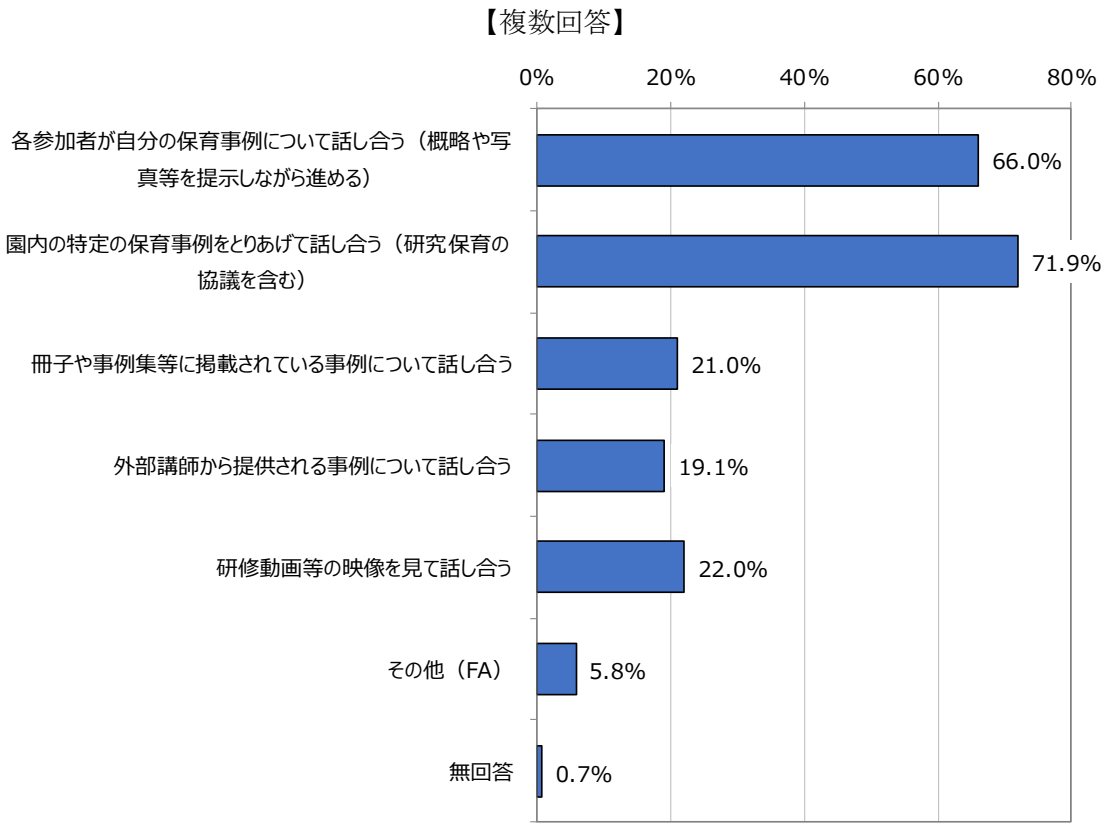
2－3－4　実施方法（「事例を題材にした討議・意見交換」を選択した場合のみ）

「事例を題材にした討議・意見交換」を実施している回答者に対し、実施方法を聞いたところ、「園内の特定の保育事例を取り上げて話し合う（71.9%）」、「各参加者が自分の保育事例について話し合う（66.0%）」と、実際の事例をもとにして実施している。

一方で、冊子や事例集、外部講師、研修動画から提供される事例を取り上げての実施は約 2 割程度に留まっている。

設置形態別で見ても同様の回答傾向であった。

図表 10　実施方法(事例を題材にした討議・意見交換を実施している園 n=2,205)



設置形態×「事例を題材にした討議・意見交換」の実施方法【複数回答】

	全体	各参加者が自分の保育事例について話し合う（概略や写真等を提示しながら進める）	園内の特定の保育事例をとりあげて話し合う（研究保育の協議を含む）	冊子や事例集等に掲載されている事例について話し合う	外部講師から提供される事例について話し合う	研修動画等の映像を見て話し合う	その他（FA）	無回答
全体	2205 (2.07)	1456 (66.0%)	1586 (71.9%)	463 (21.0%)	421 (19.1%)	486 (22.0%)	127 (5.8%)	16 (0.7%)
保育所	551 (2.09)	319 (57.9%)	379 (68.8%)	167 (30.3%)	118 (21.4%)	116 (21.1%)	45 (8.2%)	6 (1.1%)
幼稚園	986 (2.05)	708 (71.8%)	742 (75.3%)	134 (13.6%)	176 (17.8%)	207 (21.0%)	46 (4.7%)	7 (0.7%)
幼保連携型認定こども園	374 (2.10)	237 (63.4%)	270 (72.2%)	94 (25.1%)	70 (18.7%)	92 (24.6%)	20 (5.3%)	2 (0.5%)
保育所型認定こども園	113 (2.12)	66 (58.4%)	80 (70.8%)	31 (27.4%)	23 (20.4%)	29 (25.7%)	9 (8.0%)	1 (0.9%)
幼稚園型認定こども園	181 (1.99)	126 (69.6%)	115 (63.5%)	37 (20.4%)	34 (18.8%)	42 (23.2%)	7 (3.9%)	0 (0.0%)

その他の実施方法（その他抜粋）

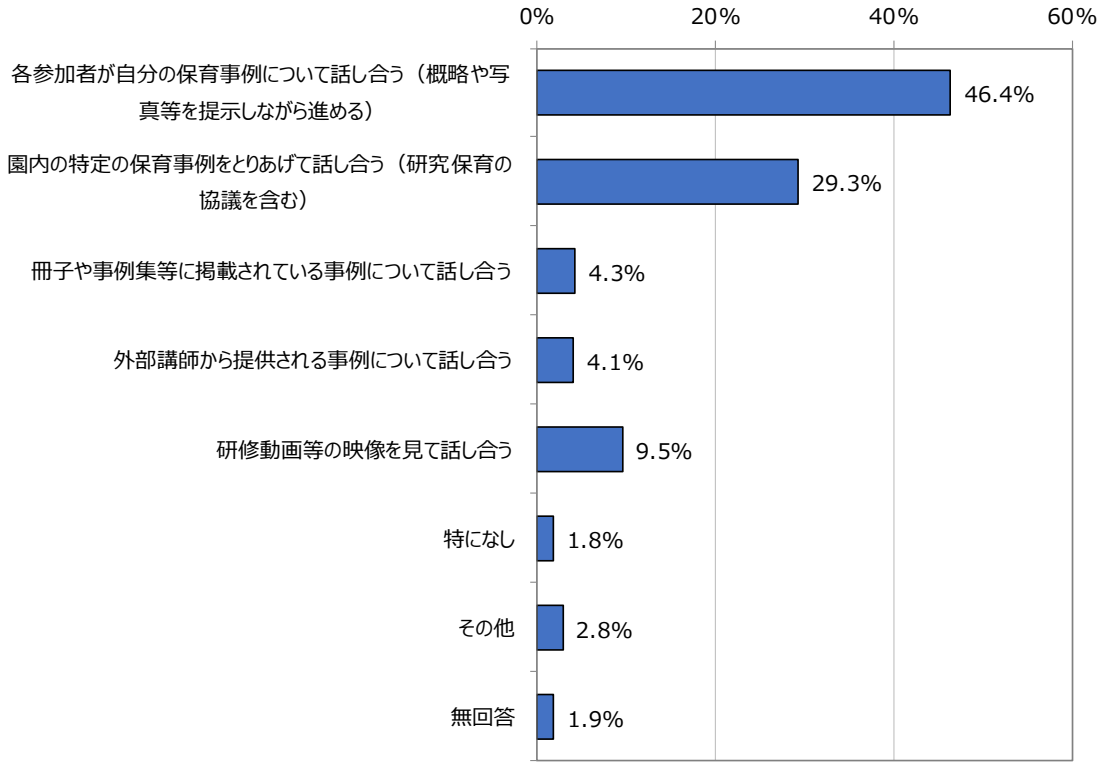
研修資料外の資料や情報（を用いた研修）	・時事ニュースなどで取り上げられた議題について話し合う ・重大事故データベースに記されている事故情報 ・親育ち支援に繋がる事例（年間を通して研修） ・新聞記事から不適切保育について考える ・震災時の経験や体験を話す

2－3－5 若手の保育者が発言しやすいと考えられる方法（「事例を題材にした討議・意見交換」を選択した場合のみ）

若手の保育者が発言しやすいと考えられる方法について聞いたところ、約半数が「各参加者が自分の保育事例について話し合う（46.4%）」と回答した。

次点で「園内の特定の保育事例をとりあげて話し合う（29.3%）」となっており、設置形態別で見ても同様の回答傾向であった。

図表 11　若手の保育者が発言しやすいと考えられる方法(事例を題材にした討議・意見交換を実施している園 n=2,205)



設置形態×若手の保育者が発言しやすいと考えられる方法

（事例を題材にした討議・意見交換）

	全体	各参加者が自分の保育事例について話し合う（概略や写真等を提示しながら進める）	園内の特定の保育事例をとりあげて話し合う（研究保育の協議を含む）	冊子や事例集等に掲載されている事例について話し合う	外部講師から提供される事例について話し合う	研修動画等の映像を見て話し合う	特になし	その他	無回答
全体	2205 (100.0%)	1023 (46.4%)	645 (29.3%)	94 (4.3%)	90 (4.1%)	210 (9.5%)	40 (1.8%)	62 (2.8%)	41 (1.9%)
保育所	551 (100.0%)	226 (41.0%)	162 (29.4%)	35 (6.4%)	20 (3.6%)	54 (9.8%)	15 (2.7%)	24 (4.4%)	15 (2.7%)
幼稚園	986 (100.0%)	504 (51.1%)	301 (30.5%)	17 (1.7%)	36 (3.7%)	75 (7.6%)	12 (1.2%)	23 (2.3%)	18 (1.8%)
幼保連携型認定こども園	374 (100.0%)	158 (42.2%)	107 (28.6%)	26 (7.0%)	18 (4.8%)	46 (12.3%)	6 (1.6%)	9 (2.4%)	4 (1.1%)
保育所型認定こども園	113 (100.0%)	46 (40.7%)	33 (29.2%)	7 (6.2%)	8 (7.1%)	11 (9.7%)	3 (2.7%)	2 (1.8%)	3 (2.7%)
幼稚園型認定こども園	181 (100.0%)	89 (49.2%)	42 (23.2%)	9 (5.0%)	8 (4.4%)	24 (13.3%)	4 (2.2%)	4 (2.2%)	1 (0.6%)

その他の若手の保育者が発言しやすいと考えられる方法（その他抜粋）

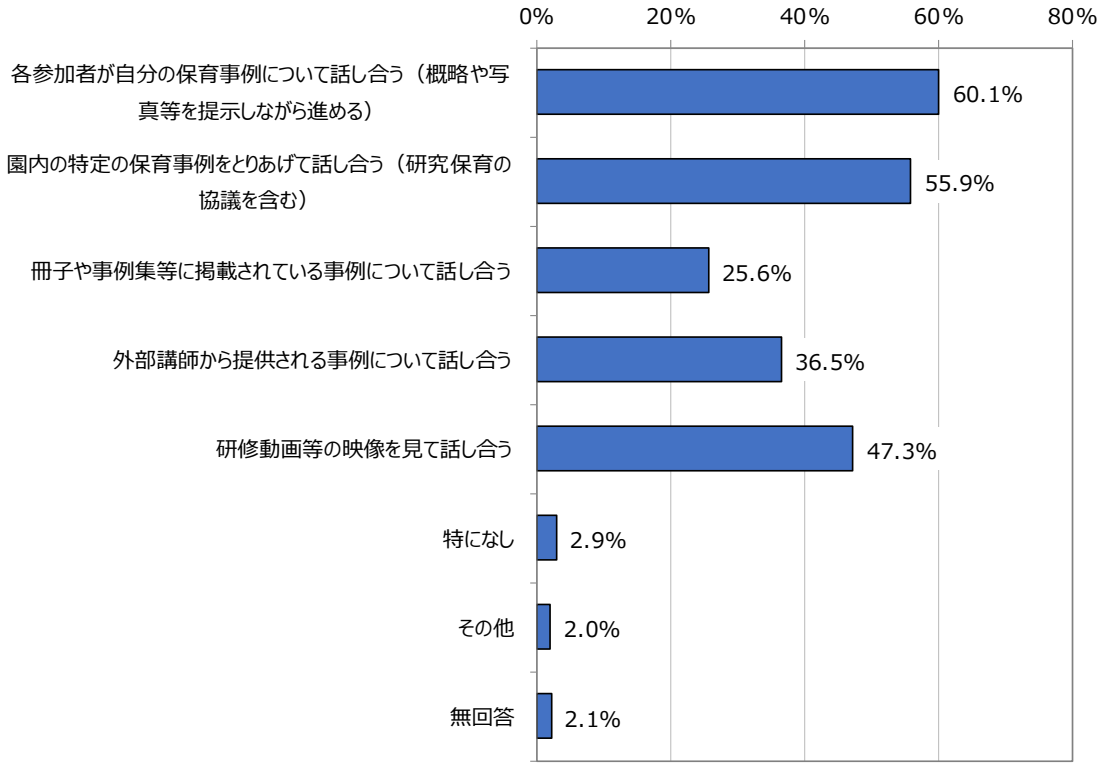
研修の実施の仕方	・少人数での意見交換 ・同年代のグループで行う ・参加者全員が意見を出し合えるように付箋に意見を書いて出しあうなどの話し合い（KJ 法） ・発言する機会を自動的に作る ・同じクラスの担任間で話す時間を作ると話しやすいように思う
研修の内容	・若手保育者の事例について話し合う ・事例をあげて悩み相談会など実施した時は、年上の失敗談等交えて行い話しやすそうだった ・ニュース報道事例

2－3－6　今後、自園で実施してみたい「事例を題材にした討議・意見交換」（「事例を題材にした討議・意見交換」を選択した場合のみ）

「事例を題材にした討議・意見交換」を実施している回答者に対し、今後実施してみたい「事例を題材にした討議・意見交換」について聞いてみたところ、「各参加者が自分の保育事例について話し合う」「園内の特定の保育事例を取り上げて話し合う」で、回答割合が半数を超えている。また、「研修動画等の映像を見て話し合う」は 47.3%と半数近い。

図表 12　今後実施してみたい方法(事例を題材にした討議・意見交換を実施している園 n=2,205)

【複数回答】



設置形態×今後実施してみたい方法(事例を題材にした討議・意見交換)【複数回答】

	全体	各参加者が自分の保育事例について話し合う（概略や写真等を提示しながら進める）	園内の特定の保育事例をとりあげて話し合う（研究保育の協議を含む）	冊子や事例集等に掲載されている事例について話し合う	外部講師から提供される事例について話し合う	研修動画等の映像を見て話し合う	特になし	その他	無回答
全体	2205 (2.32)	1325 (60.1%)	1232 (55.9%)	564 (25.6%)	805 (36.5%)	1042 (47.3%)	64 (2.9%)	44 (2.0%)	46 (2.1%)
保育所	551 (2.40)	350 (63.5%)	325 (59.0%)	174 (31.6%)	186 (33.8%)	236 (42.8%)	15 (2.7%)	20 (3.6%)	16 (2.9%)
幼稚園	986 (2.35)	596 (60.4%)	554 (56.2%)	229 (23.2%)	366 (37.1%)	514 (52.1%)	20 (2.0%)	15 (1.5%)	20 (2.0%)
幼保連携型認定こども園	374 (2.20)	213 (57.0%)	203 (54.3%)	93 (24.9%)	128 (34.2%)	159 (42.5%)	16 (4.3%)	6 (1.6%)	4 (1.1%)
保育所型認定こども園	113 (2.31)	73 (64.6%)	55 (48.7%)	27 (23.9%)	48 (42.5%)	50 (44.2%)	5 (4.4%)	0 (0.0%)	3 (2.7%)
幼稚園型認定こども園	181 (2.23)	93 (51.4%)	95 (52.5%)	41 (22.7%)	77 (42.5%)	83 (45.9%)	8 (4.4%)	3 (1.7%)	3 (1.7%)

今後、自園で実施してみたい「事例を題材にした討議・意見交換」（その他抜粋）

日常保育に関する討議・意見交換	・就学前における人権・同和教育 ・過去の失敗した話を参加者で語り合う。そこから学ぶことや誰にも失敗はあることを分かち合いたい ・教具の使い方の練習 ・要支援児童やパーセンタイル曲線等必要なケース
研修運営に関わる討議・意見交換	・題材にする事例の視点について、園長・主任で慎重に検討する会議を定期的に実施 ・仕事上でのコミュニケーション能力を高めるための取り組み
ICT・WEB 等を活用した討議・意見交換	・ドキュメンテーションを生かしたもの ・ICT システム内でのオンデマンド研修
他園・他機関との連携を伴う討議・意見交換	・系列園の事例を取り上げて話し合う ・小学校との連携をいかして小学校の先生と合同研修する
討議・意見交換の方法	・ワールドカフェ方式の話合い ・KJ 法

2−3−7 さらに研修を充実させることができる情報やツール

どんな情報があればさらに研修を充実させることができるかを聞くと、写真や動画など、保育の具体的なイメージをしやすいものが回答として多く挙げられた。その他、事例集や ICT の活用を望む声も多い。

どんな情報やツールがあればさらに研修を充実させることができるか（抜粋）

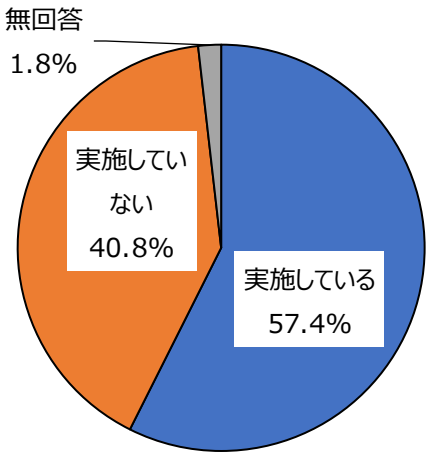
ガイドブック・マニュアル等の紙媒体資料	・子供のエピソードと、教師の援助や言葉掛けの実践例 ・好事例集（QR コードがついていて、その場面の動画を見ることができるもの） ・他園での事例とその事例への対応策、特に成功した事例等の資料 ・新聞記事、外部の専門家によるより科学的・論理的な視点や考え方
画像・写真	・写真や動画など、幼児の姿を視覚的に捉えるもの（音響・研修シートも含む） ・好事例集や動画等がまとめられている、国などから提供される無償のプレゼンテーションソフト用の資料 ・ドキュメンテーション ・動画など、なるべく具体的でイメージしやすいものがよい。文章などはその場の雰囲気が読み取りづらかったり、読み手によって捉え方が変わったりするので、研修会でのねらいを達成するような討議・意見交換が難しいと考えるためである。 ・主体的な保育を学ぶために、保育者からの声かけの事例として「望ましいもの」「望ましくないもの」を具体的に比較できるような事例動画があればと思います。 ・手軽に研修に役立てることができる動画の配信があるといいと思う。 ・好事例を短時間（10～15 分程度）に編集した動画 ・特別支援児保育の動画 ・保護者対応のロールプレイングの参考にできるような動画など
ICT 活用・電子機器等	・園内ＷＩＦＩなどデジタル環境の整備 ・プロジェクター、ビデオデッキ、 専用テレビモニター等 ・一人一人にタブレット端末があると動画などを見ながら研修が行えようになり、充実すると思う。 ・保育の記録に関する電子データ ・パワーポイントによる資料。プロジェクターを投影した研修がしやすくなる ・外部講師や他園の事例や研修をオンラインで視聴できるシステム ・大型スクリーンに動画等を映し振り返りながら討議できる環境 電子黒板
その他の情報やツール	・良い成果を得られたものが「好事例」となるのは容易に理解できますが、結果が思わしくなくても、「保育者の意図」が的を射ていて多くの保育者にとって参考になる内容も好事例として取り上げて研修を深めることができるとよいと思う。 ・時代にあった保育論を具体的に教えてくださる先生の実際の講話や実践発表などを参考にする機会 ・サイグラムの活用（専門知識） ・各園の重大事故、またどの園でも起こりえるような人的ミスの事故などの事例。（身近なもの） ・アレルギーや宗教関係からの対応、保護者による園内生活への要望等 ・タイムリーな保育情報 ・人権の具体的な事例集、よい事例、好ましくない事例も含め、保育士が考え振り返えられるものがよい。

	・園内研修の進め方事例 ・ファシリテーターの育成 ・「不適切保育」「子どもの人権について」「ヒヤリハット事例」「怪我、事故につながる事例」「乳児育児担当保育」等、文章で伝わりにくい事例

2－3－8　継続的な園内研修の実施の有無

継続的な園内研修の実施をしているか聞いたところ、約 6 割が「実施している」と回答した。設置形態別で最も実施していると回答した割合が高かったのが、幼稚園（64.6%）であった。対して、「実施していない」と回答した割合が最も高かった設置形態は、保育所型認定こども園となっている（53.0%）。

図表 13　継続的な園内研修の実施の有無（園内研修実施園 n=3,256）



設置形態×継続的な園内研修の実施の有無

	全体	実施している	実施していない	無回答
全体	3256 (100.0%)	1869 (57.4%)	1328 (40.8%)	59 (1.8%)
保育所	776 (100.0%)	402 (51.8%)	363 (46.8%)	11 (1.4%)
幼稚園	1468 (100.0%)	948 (64.6%)	496 (33.8%)	24 (1.6%)
幼保連携型認定こども園	557 (100.0%)	303 (54.4%)	236 (42.4%)	18 (3.2%)
保育所型認定こども園	164 (100.0%)	75 (45.7%)	87 (53.0%)	2 (1.2%)
幼稚園型認定こども園	291 (100.0%)	141 (48.5%)	146 (50.2%)	4 (1.4%)

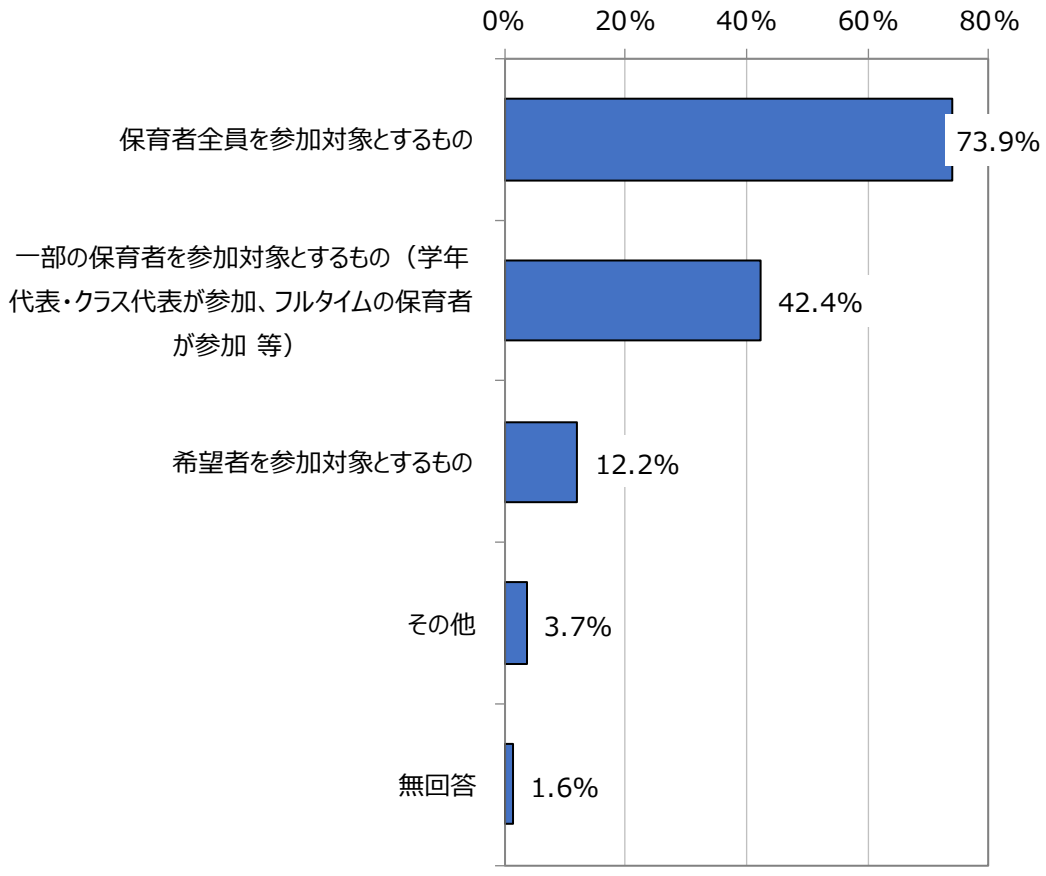
2－3－9　実施した園内研修の形態

年度内に実施した園内研修の形態では、「保育者全員を対象とするもの」が全体の 8 割近くとなっており（73.9%）、次点の「一部の保育者を参加対象とするもの」より 30 ポイント以上高い。

設置形態別では、幼稚園型認定こども園を除いて 7 割超が保育者全員を参加対象としている。中でも、幼稚園が保育者全員対象としている割合が最も高い（76.3%）。

図表 14　実施した園内研修の形態（園内研修実施園 n=3,256）

【複数回答】



設置形態×実施した園内研修の形態【複数回答】

	全体	保育者全員を参加対象とするもの	一部の保育者を参加対象とするもの（学年代表・クラス代表が参加、フルタイムの保育者が参加 等）	希望者を参加対象とするもの	その他	無回答
全体	3256 (1.34)	2406 (73.9%)	1379 (42.4%)	396 (12.2%)	122 (3.7%)	51 (1.6%)
保育所	776 (1.42)	571 (73.6%)	363 (46.8%)	113 (14.6%)	42 (5.4%)	10 (1.3%)
幼稚園	1468 (1.25)	1120 (76.3%)	500 (34.1%)	141 (9.6%)	48 (3.3%)	22 (1.5%)
幼保連携型認定こども園	557 (1.45)	404 (72.5%)	290 (52.1%)	86 (15.4%)	15 (2.7%)	13 (2.3%)
保育所型認定こども園	164 (1.39)	121 (73.8%)	78 (47.6%)	20 (12.2%)	7 (4.3%)	2 (1.2%)
幼稚園型認定こども園	291 (1.33)	190 (65.3%)	148 (50.9%)	36 (12.4%)	10 (3.4%)	4 (1.4%)

今年度実施した園内研修の形態として、あてはまるもの（その他抜粋）

特定の資格保有者・職域の職員を対象としたもの	・会計年度職員(時間外保育) ・市内の幼児教育士が参加する研修 ・出勤時間が 7、8 時間以上の職員
保育士以外の職員等が参加対象となったもの	・学生、他園の保育士 ・子どもに関わる職員も含めた（バス運転手添乗員など） ・調理員を参加対象とするもの ・特別支援を要する幼児の支援員
その他	・義務教育学校と一体化施設なので学校の校内研究会のなかに入れてもらっている

2－3－10　園内研修の実施時間帯

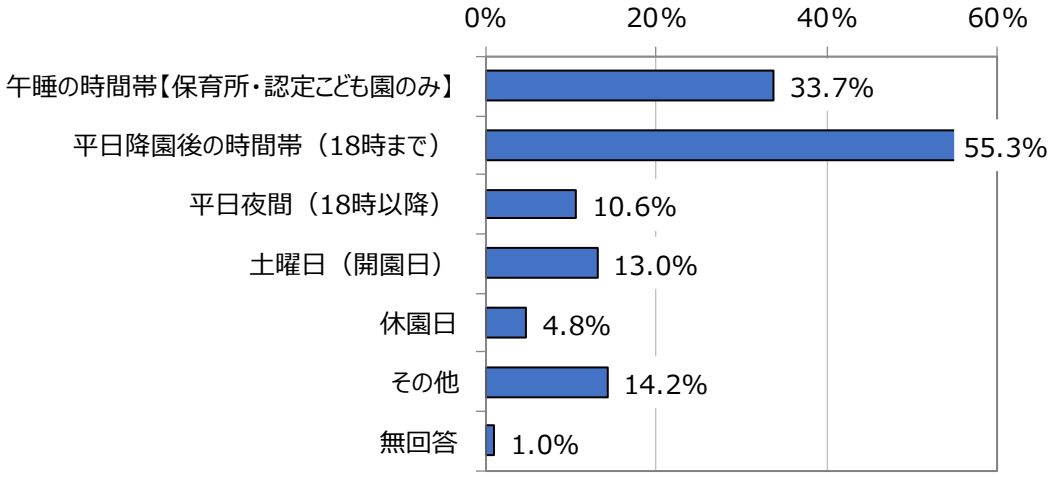
園内研修の実施時間帯は、全体では「平日降園後の時間帯（55.3%）」、「午睡の時間帯（33.7%）」と続く。

設置形態別で見ると、午睡のある設置体の中では保育所が最も午睡時間帯での実施割合が高かった（71.6%）。午睡時間のない幼稚園では、約 9 割が「平日降園後の時間帯」に実施していると回答した。

保育所、幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園では約 2 割が「平日夜間」と回答しており、幼稚園、幼稚園型認定こども園では同回答は 5%未満となっている。

図表 15　園内研修の実施時間帯（園内研修実施園 n=3,256）

【複数回答】



設置形態×園内研修の実施時間帯【複数回答】

	全体	午睡の時間帯【保育所・認定こども園のみ】	平日降園後の時間帯（18時まで）	平日夜間（18時以降）	土曜日（開園日）	休園日	その他	無回答
全体	3256 (1.32)	1097 (33.7%)	1800 (55.3%)	344 (10.6%)	423 (13.0%)	155 (4.8%)	462 (14.2%)	33 (1.0%)
保育所	776 (1.45)	556 (71.6%)	146 (18.8%)	170 (21.9%)	149 (19.2%)	16 (2.1%)	82 (10.6%)	4 (0.5%)
幼稚園	1468 (1.16)	0 (0.0%)	1278 (87.1%)	27 (1.8%)	61 (4.2%)	99 (6.7%)	217 (14.8%)	16 (1.1%)
幼保連携型認定こども園	557 (1.54)	366 (65.7%)	153 (27.5%)	101 (18.1%)	132 (23.7%)	17 (3.1%)	79 (14.2%)	11 (2.0%)
保育所型認定こども園	164 (1.41)	106 (64.6%)	27 (16.5%)	34 (20.7%)	38 (23.2%)	8 (4.9%)	19 (11.6%)	0 (0.0%)
幼稚園型認定こども園	291 (1.38)	69 (23.7%)	196 (67.4%)	12 (4.1%)	43 (14.8%)	15 (5.2%)	65 (22.3%)	2 (0.7%)

園内研修の実施時間帯（その他抜粋）

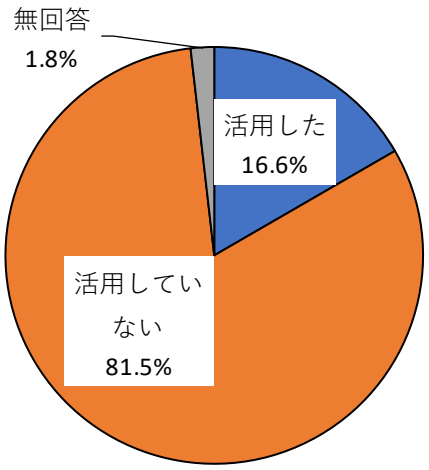
保育時間内	・保育中 ・預かり保育のみ実施日（長期休み明け）
保育時間外	・登園前 ・運動会等の行事終了後（預り保育行わない日）
その他時間帯	・平日午後休園にしておこなった ・入園式の後の子どものいない時間 ・動画をいつでも見られるようにしている ・職員会議の時、朝ミーティングの時 ・子どもの欠席が多い時

2－3－11　文部科学省が作成した資料や事例集の活用の有無

園内研修において、文部科学省が作成した資料や事例集の活用をしているか聞いたところ、「活用した」と回答したのは全体の 16.6%であった。

設置形態別では、幼稚園が最も活用していると回答した割合が高いが、2 割程度に留まっている。

図表 16　文部科学省が作成した資料や事例集の活用の有無（園内研修実施園 n=3,256）



設置形態×文部科学省が作成した資料や事例集の活用の有無

	全体	活用した	活用していない	無回答
全体	3256 (100.0%)	542 (16.6%)	2655 (81.5%)	59 (1.8%)
保育所	776 (100.0%)	88 (11.3%)	670 (86.3%)	18 (2.3%)
幼稚園	1468 (100.0%)	310 (21.1%)	1134 (77.2%)	24 (1.6%)
幼保連携型認定こども園	557 (100.0%)	86 (15.4%)	457 (82.0%)	14 (2.5%)
保育所型認定こども園	164 (100.0%)	14 (8.5%)	149 (90.9%)	1 (0.6%)
幼稚園型認定こども園	291 (100.0%)	44 (15.1%)	245 (84.2%)	2 (0.7%)

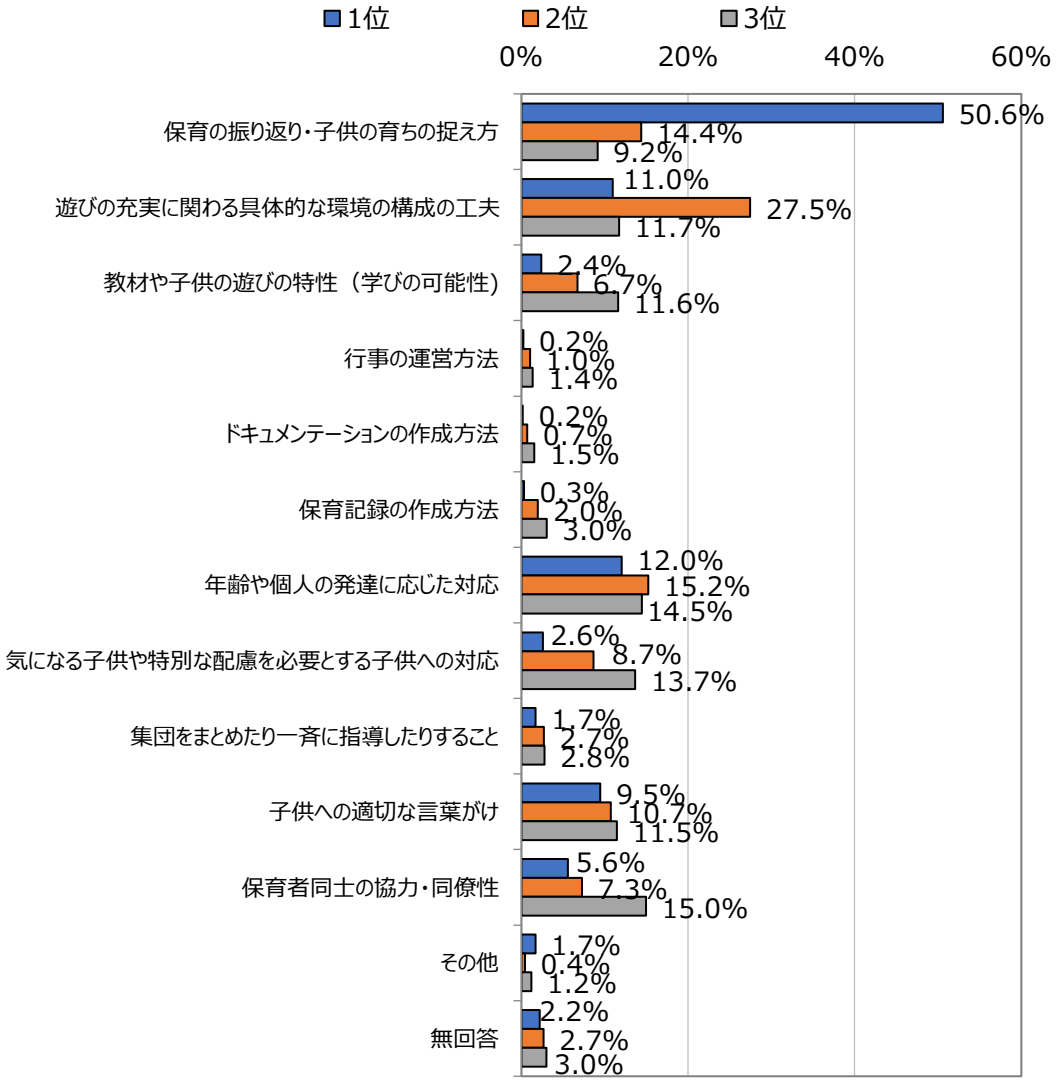
活用した資料（自由記述抜粋）

その他　使用した資料名	・保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン ・幼保小の架け橋プログラム(初版) ・スタートカリキュラム 就学前教育カリキュラム 他　厚生労働省のもの ・園児が心を寄せる環境の構成 ・指導と評価に生かす記録 ・不適切保育について ・幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と展開 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

2－3－12　園内研修を通じて若手の保育者に身に着けてほしいこと

特に若手の保育者に対し、園内研修を通じて最も身に付けてほしいことについて、1～3位まで順位をつけてもらったところ、1位では「保育の振り返り・子供の育ちの捉え方（50.6%）」が最多、2位では「遊びの充実に関わる具体的な環境の構成の工夫（27.5%）」、3位では「保育者同士の協力・同僚性（15.0%）」となっている。

図表 17　園内研修を通じて若手の保育者に身に着けてほしいこと（TOP3）（園内研修実施園 n=3,256）



設置形態×園内研修を通じて若手の保育者に身に着けてほしいこと（TOP3）

（1位）

	全体	保育の振り返り・子供の育ちの捉え方	遊びの充実に関わる具体的な環境の構成の工夫	教材や子供の遊びの特性（学びの可能性）	行事の運営方法	ドキュメンテーションの作成方法	保育記録の作成方法	年齢や個人の発達に応じた対応	気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応	集団をまとめたり一斉に指導したりすること	子供への適切な言葉がけ	保育者同士の協力・同僚性	その他	無回答
全体	3256	1647	357	78	8	6	10	392	84	56	309	182	55	72
	(1.00)	(50.6%)	(11.0%)	(2.4%)	(0.2%)	(0.2%)	(0.3%)	(12.0%)	(2.6%)	(1.7%)	(9.5%)	(5.6%)	(1.7%)	(2.2%)
保育所	776	388	56	8	1	4	1	121	20	9	87	52	17	12
	(1.00)	(50.0%)	(7.2%)	(1.0%)	(0.1%)	(0.5%)	(0.1%)	(15.6%)	(2.6%)	(1.2%)	(11.2%)	(6.7%)	(2.2%)	(1.5%)
幼稚園	1468	770	183	41	3	1	4	148	45	36	124	59	18	36
	(1.00)	(52.5%)	(12.5%)	(2.8%)	(0.2%)	(0.1%)	(0.3%)	(10.1%)	(3.1%)	(2.5%)	(8.4%)	(4.0%)	(1.2%)	(2.5%)
幼保連携型認定こども園	557	259	70	14	2	1	4	68	8	6	49	44	14	18
	(1.00)	(46.5%)	(12.6%)	(2.5%)	(0.4%)	(0.2%)	(0.7%)	(12.2%)	(1.4%)	(1.1%)	(8.8%)	(7.9%)	(2.5%)	(3.2%)
保育所型認定こども園	164	86	11	1	0	0	1	24	5	0	25	10	1	0
	(1.00)	(52.4%)	(6.7%)	(0.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.6%)	(14.6%)	(3.0%)	(0.0%)	(15.2%)	(6.1%)	(0.6%)	(0.0%)
幼稚園型認定こども園	291	144	37	14	2	0	0	31	6	5	24	17	5	6
	(1.00)	(49.5%)	(12.7%)	(4.8%)	(0.7%)	(0.0%)	(0.0%)	(10.7%)	(2.1%)	(1.7%)	(8.2%)	(5.8%)	(1.7%)	(2.1%)

（2位）

	全体	保育の振り返り・子供の育ちの捉え方	遊びの充実に関わる具体的な環境の構成の工夫	教材や子供の遊びの特性（学びの可能性）	行事の運営方法	ドキュメンテーションの作成方法	保育記録の作成方法	年齢や個人の発達に応じた対応	気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応	集団をまとめたり一斉に指導したりすること	子供への適切な言葉がけ	保育者同士の協力・同僚性	その他	無回答
全体	3256	468	894	219	34	23	64	496	282	88	350	237	14	87
	(1.00)	(14.4%)	(27.5%)	(6.7%)	(1.0%)	(0.7%)	(2.0%)	(15.2%)	(8.7%)	(2.7%)	(10.7%)	(7.3%)	(0.4%)	(2.7%)
保育所	776	117	177	39	6	7	12	140	54	11	103	85	6	19
	(1.00)	(15.1%)	(22.8%)	(5.0%)	(0.8%)	(0.9%)	(1.5%)	(18.0%)	(7.0%)	(1.4%)	(13.3%)	(11.0%)	(0.8%)	(2.4%)
幼稚園	1468	198	470	124	17	9	28	185	145	47	124	76	5	40
	(1.00)	(13.5%)	(32.0%)	(8.4%)	(1.2%)	(0.6%)	(1.9%)	(12.6%)	(9.9%)	(3.2%)	(8.4%)	(5.2%)	(0.3%)	(2.7%)
幼保連携型認定こども園	557	88	139	26	7	3	10	95	36	20	71	40	2	20
	(1.00)	(15.8%)	(25.0%)	(4.7%)	(1.3%)	(0.5%)	(1.8%)	(17.1%)	(6.5%)	(3.6%)	(12.7%)	(7.2%)	(0.4%)	(3.6%)
保育所型認定こども園	164	20	38	6	0	3	6	27	17	1	23	20	1	2
	(1.00)	(12.2%)	(23.2%)	(3.7%)	(0.0%)	(1.8%)	(3.7%)	(16.5%)	(10.4%)	(0.6%)	(14.0%)	(12.2%)	(0.6%)	(1.2%)
幼稚園型認定こども園	291	45	70	24	4	1	8	49	30	9	29	16	0	6
	(1.00)	(15.5%)	(24.1%)	(8.2%)	(1.4%)	(0.3%)	(2.7%)	(16.8%)	(10.3%)	(3.1%)	(10.0%)	(5.5%)	(0.0%)	(2.1%)

（3位）

	全体	保育の振り返り・子供の育ちの捉え方	遊びの充実に関わる具体的な環境の構成の工夫	教材や子供の遊びの特性（学びの可能性）	行事の運営方法	ドキュメンテーションの作成方法	保育記録の作成方法	年齢や個人の発達に応じた対応	気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応	集団をまとめたり一斉に指導したりすること	子供への適切な言葉がけ	保育者同士の協力・同僚性	その他	無回答
全体	3256	298	382	378	44	50	99	471	445	91	374	487	39	98
	(1.00)	(9.2%)	(11.7%)	(11.6%)	(1.4%)	(1.5%)	(3.0%)	(14.5%)	(13.7%)	(2.8%)	(11.5%)	(15.0%)	(1.2%)	(3.0%)
保育所	776	91	91	57	8	14	20	120	102	10	102	126	11	24
	(1.00)	(11.7%)	(11.7%)	(7.3%)	(1.0%)	(1.8%)	(2.6%)	(15.5%)	(13.1%)	(1.3%)	(13.1%)	(16.2%)	(1.4%)	(3.1%)
幼稚園	1468	112	168	214	16	19	37	222	224	52	151	187	19	47
	(1.00)	(7.6%)	(11.4%)	(14.6%)	(1.1%)	(1.3%)	(2.5%)	(15.1%)	(15.3%)	(3.5%)	(10.3%)	(12.7%)	(1.3%)	(3.2%)
幼保連携型認定こども園	557	55	65	56	14	6	17	80	75	13	70	81	6	19
	(1.00)	(9.9%)	(11.7%)	(10.1%)	(2.5%)	(1.1%)	(3.1%)	(14.4%)	(13.5%)	(2.3%)	(12.6%)	(14.5%)	(1.1%)	(3.4%)
保育所型認定こども園	164	17	23	13	3	5	12	20	10	5	19	34	1	2
	(1.00)	(10.4%)	(14.0%)	(7.9%)	(1.8%)	(3.0%)	(7.3%)	(12.2%)	(6.1%)	(3.0%)	(11.6%)	(20.7%)	(0.6%)	(1.2%)
幼稚園型認定こども園	291	23	35	38	3	6	13	29	34	11	32	59	2	6
	(1.00)	(7.9%)	(12.0%)	(13.1%)	(1.0%)	(2.1%)	(4.5%)	(10.0%)	(11.7%)	(3.8%)	(11.0%)	(20.3%)	(0.7%)	(2.1%)

特に若手の保育者に対し、園内研修を通じて身に付けてほしいこと（その他抜粋）

園運営に関すること	・自園の保育方針の理解 ・建学の精神
保育に関すること	・保育者それぞれの保育観・子ども観の把握と理解 ・安全面、危機管理 ・保育の楽しさ
個人の能力に関すること	・コミュニケーション力 ・チームワーク ・社会人としてのマナー

2－3－13 園内研修で行っている工夫

園内研修で行っていることについて聞いたところ、退勤前や研修時等に職員同士で話し合える機会や環境を作る工夫をしている回答が多かった。

また、研修でも体験型・実践型を導入したり、お互いの保育を参観しあうなど、講話や討議以外の方法を取り入れている園も見られた。

・「ほっこりエピソード」を語り合う時間を退勤前５分～１０分くらいで、月２回程時間を設けている。メンバーを固定せず、いろいろな人と話す機会を設けている。
・指導案でしっかりと環境構成を考えられるように、事前に提出したものを上席で見て環境構成について研修する
・若手教員が発言できる機会を作っている
・ヒヤリハットや事故報告書などの事例を挙げて話し合っています。若手だけではなく、５年以上の先輩保育士の意見や具体例を聞くことによって若手にもわかりやすく学べる場を作っています。雰囲気作りも大切にしています
・先生方が生き生きと主体的に考え、子供達と一緒に楽しむことを、大切にしている。
・危機管理についての話題にも触れるようにしている
・園内研究会で他職員や外部講師による指導助言
体験型、実践型を行っている
・同僚の保育を参観しあったり、自身の保育のフィードバックをする機会を定期的に設けている
・会計年度職員の人数が多いため、毎年繰り返し、（保育記録の）記入の仕方については研修を行っている。すぐに身につくものでもないため

2－3－14　園内研修を実施するうえでの課題

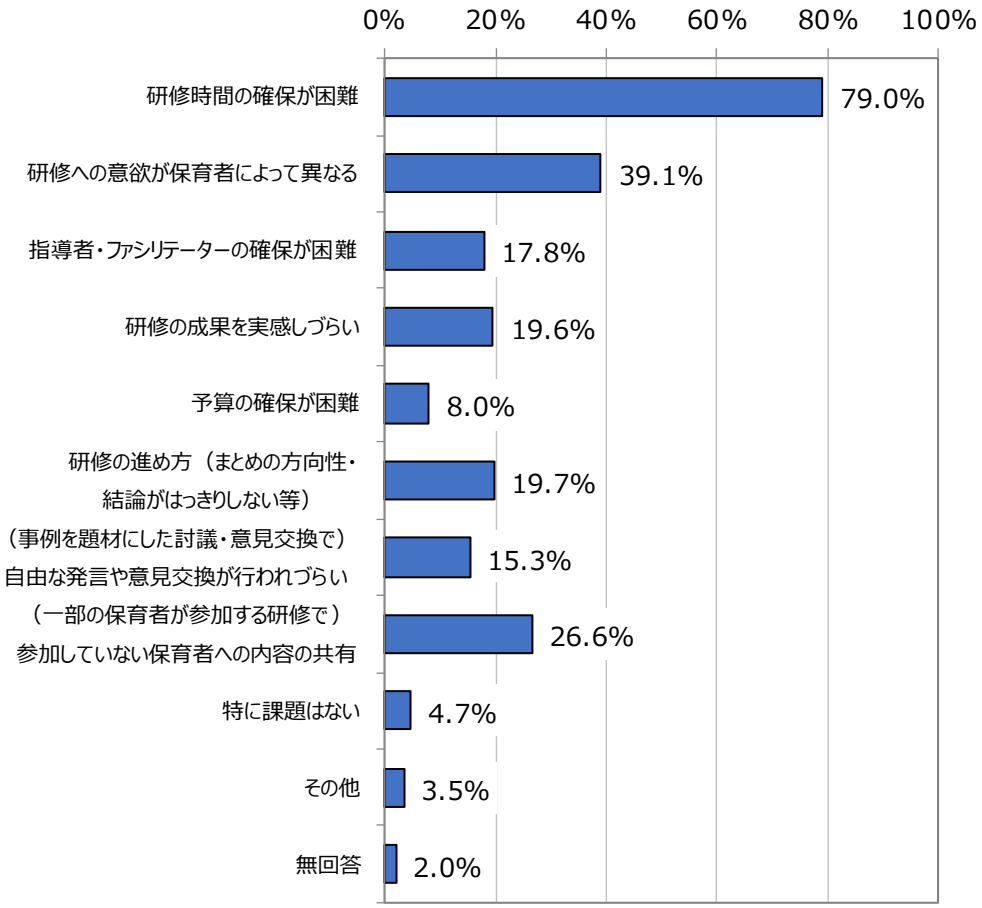
園内研修を実施するうえでの課題については、「研修時間の確保が困難」が最も回答割合が高く（79.0%）、次点の「研修への意欲が保育者によって異なる（39.1%）」よりも 40 ポイント近く高かった。

設置形態別でみると、幼稚園では、「研修の進め方」を課題としている割合が、他の形態よりも約 5 ポイント高かった。

また、「参加していない保育者への内容の共有」を課題としている割合が幼稚園は18.7%となっている一方で、他の形態では3割を超えている。

図表 18　園内研修を実施するうえでの課題（園内研修実施園 n=3,256）

【複数回答】



設置形態×園内研修を実施するうえでの課題【複数回答】

	全体	研修時間の確保が困難	研修への意欲が保育者によって異なる	指導者・ファシリテーターの確保が困難	研修の成果を実感しづらい	予算の確保が困難	研修の進め方（まとめの方向性・結論がはっきりしない等）	（事例を題材にした討議・意見交換で）自由な発言や意見交換が行われづらい	（一部の保育者が参加する研修で）参加していない保育者への内容の共有	特に課題はない	その他	無回答
全体	3256	2573	1273	581	638	262	641	499	865	154	113	65
	(2.35)	(79.0%)	(39.1%)	(17.8%)	(19.6%)	(8.0%)	(19.7%)	(15.3%)	(26.6%)	(4.7%)	(3.5%)	(2.0%)
保育所	776	626	361	136	179	60	138	128	261	24	28	14
	(2.52)	(80.7%)	(46.5%)	(17.5%)	(23.1%)	(7.7%)	(17.8%)	(16.5%)	(33.6%)	(3.1%)	(3.6%)	(1.8%)
幼稚園	1468	1126	486	267	261	132	333	209	273	94	56	28
	(2.22)	(76.7%)	(33.1%)	(18.2%)	(17.8%)	(9.0%)	(22.7%)	(14.2%)	(18.6%)	(6.4%)	(3.8%)	(1.9%)
幼保連携型認定こども園	557	442	238	97	107	30	92	88	180	16	15	21
	(2.38)	(79.4%)	(42.7%)	(17.4%)	(19.2%)	(5.4%)	(16.5%)	(15.8%)	(32.3%)	(2.9%)	(2.7%)	(3.8%)
保育所型認定こども園	164	136	81	29	27	14	28	25	51	6	4	0
	(2.45)	(82.9%)	(49.4%)	(17.7%)	(16.5%)	(8.5%)	(17.1%)	(15.2%)	(31.1%)	(3.7%)	(2.4%)	(0.0%)
幼稚園型認定こども園	291	243	107	52	64	26	50	49	100	14	10	2
	(2.46)	(83.5%)	(36.8%)	(17.9%)	(22.0%)	(8.9%)	(17.2%)	(16.8%)	(34.4%)	(4.8%)	(3.4%)	(0.7%)

園内研修を実施するうえでの課題（その他抜粋）

時間帯・日数等の時間的な課題	・なかなか全員が集まれる時間がない
研修ツールに関する課題	・デジカメ等のデジタル機器の不足 ・動画や zoom での研修を行いたいが、Wi-Fi など整わない
研修の内容に関する課題	・意識、感覚の違いがあるのは当然だが、同じ研修を行っても、受け取り方が違っている事がある事についての課題を感じている ・研究テーマ設定をして継続的な研修 ・支援員との共通理解、少人数なので意見考え等が偏りがち ・幼稚園教諭として必要な情報が文部科学省から発信されたものでなく、保育園を中心とした厚生労働省発信のものが多い点
運営に関する課題	・講師の先生の確保 ・非常勤の職員への周知徹底

園内研修を実施するうえでの課題を解決するために行っている工夫や方策（その他抜粋）

研修時間に関わる工夫	・研修時間の確保のために、曜日を固定せず、職員が参加しやすい日を早めに設定し、各自調整をしてもらうようにしている ・長時間の研修を避け、ショートタイムセミナーを重ねていく
研修内容に関わる工夫	・外部機関との連携により、改善点や適切な言葉がけ、かかわりについての気付きを得る ・研究保育や園内研修に外部指導者に加わっていただく ・グループ単位でテーマを決め、話し合い、各自で意見を出し合いながら実施していく研究保育 ・ビデオカンファレンス 実践的体験型の研修（ワークショップ研修） ・異校種や異形態の幼児教育施設の教職員と交流する機会をもつこと

2－3－15　園内研修をより充実させるために取組んでみたいこと

今後、園内研修をより充実させるために取組んでみたいこと（自由記述抜粋）

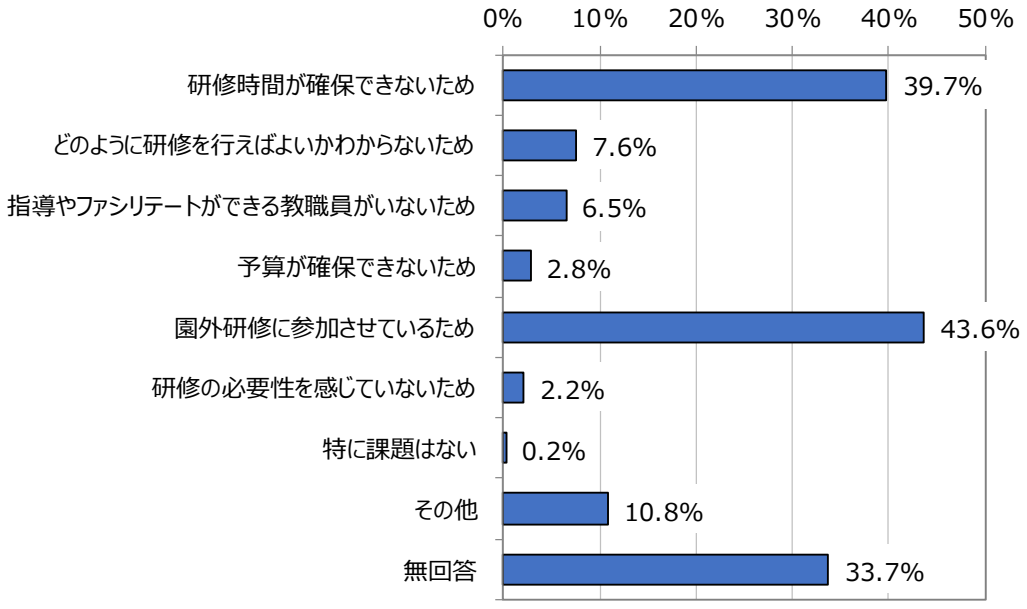
研修の実施方法	・カフェ風にみんなで保育をリラックスしながら語れたらいいなと思います ・計画から保育教諭主体で取り組んでいけるようにしていきたい ・ECEQ（イーセック）の公開保育に取り組んでみたい ・年に数回でよいので、研修日として確保するために、保育時間の工夫をする ・短時間（30 分程）でも効率よく進められるために、事前準備を工夫していく（チェックシート利用等）
研修の内容に関わること	・研修を考えるリーダーの勉強会もできたら ・園内研修で、どのような内容を学びたいか、アンケートをとる ・キャリアパスと連動した個別計画の策定 ・保育士として接遇やマナー ・好事例や参考文献の活用

2－3－16 園内研修を実施していない理由

園内研修を実施していない園にその理由を聞くと、「園外研修に参加させているため(43.6%)「研修時間が確保できないため(39.7%)」の割合が高い。

図表 19　園内研修を実施していない理由（園内を実施していない園 n=463）

【複数回答】



設置形態×園内研修を実施していない理由【複数回答】

	全体	研修時間が確保できないため	どのように研修を行えばよいかわからないため	指導やファシリテートができる教職員がいないため	予算が確保できないため	園外研修に参加させているため	研修の必要性を感じていないため	特に課題はない	その他	無回答
全体	463 (1.47)	184 (39.7%)	35 (7.6%)	30 (6.5%)	13 (2.8%)	202 (43.6%)	10 (2.2%)	1 (0.2%)	50 (10.8%)	156 (33.7%)
保育所	101 (1.32)	30 (29.7%)	6 (5.9%)	2 (2.0%)	2 (2.0%)	25 (24.8%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)	8 (7.9%)	59 (58.4%)
幼稚園	256 (1.57)	114 (44.5%)	24 (9.4%)	25 (9.8%)	11 (4.3%)	135 (52.7%)	8 (3.1%)	0 (0.0%)	33 (12.9%)	52 (20.3%)
幼保連携型認定こども園	49 (1.39)	17 (34.7%)	2 (4.1%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	21 (42.9%)	1 (2.0%)	0 (0.0%)	4 (8.2%)	22 (44.9%)
保育所型認定こども園	15 (1.07)	4 (26.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (26.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (53.3%)
幼稚園型認定こども園	42 (1.48)	19 (45.2%)	3 (7.1%)	2 (4.8%)	0 (0.0%)	17 (40.5%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	5 (11.9%)	15 (35.7%)

園内研修を実施していない理由（自由記述抜粋）

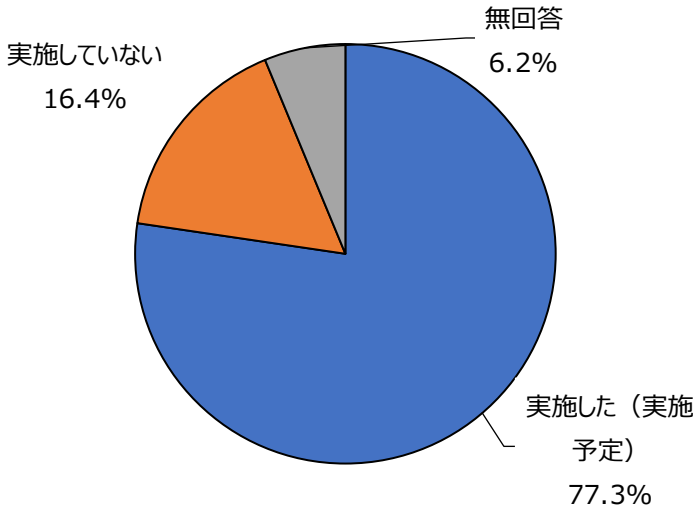
人員に関わる理由	・園長が小中学校との兼務（県費職員）であり、町立の幼稚園であることから、園との関わりを十分にもてていない ・園内研修の開催そのものが教職員の負担になるという矛盾 ・キャリアアップ研修に参加することを優先しているため
時間に関わる理由	・学校のように放課後という概念がなく、全員での会議や研修の時間はない ・処遇改善対応研修が多く、労働協定を超過するため ・少ない職員で８時から１８時まで保育をしているので集まる時間がない

2－4　保育者育成の取組（園内研修以外）について

2－4－1　実施の有無

園内研修以外で子供の様子や保育の事例、課題の共有等を行う取組の実施有無については、全体の 77.3%が実施していると回答している。各設置形態での同様の実施割合である。

図表 20　「園内研修以外で子供の様子や保育の事例、課題の共有等を行う取組」の実施有無（n=3,719）



設置形態×「園内研修以外で子供の様子や保育の事例、課題の共有等を行う取組」の実施有無

	全体	実施した（実施予定）	実施していない	無回答
全体	3719 (100.0%)	2876 (77.3%)	611 (16.4%)	232 (6.2%)
保育所	877 (100.0%)	635 (72.4%)	158 (18.0%)	84 (9.6%)
幼稚園	1724 (100.0%)	1373 (79.6%)	275 (16.0%)	76 (4.4%)
幼保連携型認定こども園	606 (100.0%)	464 (76.6%)	100 (16.5%)	42 (6.9%)
保育所型認定こども園	179 (100.0%)	138 (77.1%)	31 (17.3%)	10 (5.6%)
幼稚園型認定こども園	333 (100.0%)	266 (79.9%)	47 (14.1%)	20 (6.0%)

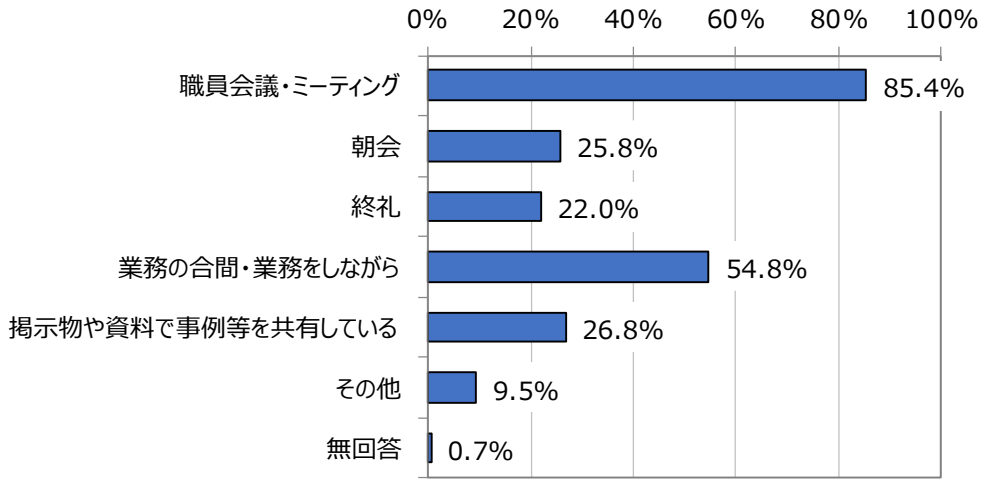
2−4−2　実施のタイミング

園内研修以外で子供の様子や保育の事例、課題の共有等を行う取組を実施している時間について聞いたところ、「職員会議・ミーティング（85.4%）」が最も多く、「業務の合間・業務をしながら（54.8%）」、「掲示物や資料で事例等を共有している（26.8%）」と続く。

設置形態別では、幼稚園、幼稚園型認定こども園で「終礼」で実施している割合がほかの形態と比して 20 ポイント近く高くなっている（幼稚園 32.6%、幼稚園型認定こども園 30.1%）。

図表 21　園内研修以外で子供の様子や保育の事例、課題の共有等を行う取組を実施している時間（園内研修以外取組実施園 n=2,876）

【複数回答】



設置形態×園内研修以外で子供の様子や保育の事例、課題の共有等を行う取組を実施している時間【複数回答】

	全体	職員会議・ミーティング	朝会	終礼	業務の合間・業務をしながら	掲示物や資料で事例等を共有している	その他	無回答
全体	2876 (2.25)	2455 (85.4%)	741 (25.8%)	633 (22.0%)	1575 (54.8%)	771 (26.8%)	272 (9.5%)	19 (0.7%)
保育所	635 (2.09)	555 (87.4%)	136 (21.4%)	42 (6.6%)	294 (46.3%)	204 (32.1%)	94 (14.8%)	3 (0.5%)
幼稚園	1373 (2.36)	1137 (82.8%)	408 (29.7%)	448 (32.6%)	829 (60.4%)	315 (22.9%)	88 (6.4%)	10 (0.7%)
幼保連携型認定こども園	464 (2.14)	408 (87.9%)	95 (20.5%)	52 (11.2%)	236 (50.9%)	140 (30.2%)	58 (12.5%)	4 (0.9%)
保育所型認定こども園	138 (2.09)	125 (90.6%)	30 (21.7%)	11 (8.0%)	75 (54.3%)	37 (26.8%)	11 (8.0%)	0 (0.0%)
幼稚園型認定こども園	266 (2.33)	230 (86.5%)	72 (27.1%)	80 (30.1%)	141 (53.0%)	75 (28.2%)	21 (7.9%)	2 (0.8%)

取組の実施タイミングや内容（その他より抜粋）

取組時間・実施タイミング	・学年会 ・長期休みの前後 ・保育後のちょっとした時間に
取組の方法	・グループラインや共有メール ・周知ノートの利用
実施内容	・県では同じ研究テーマ毎に研究班を構成しており、その中で公開保育や事例発表などを行っている

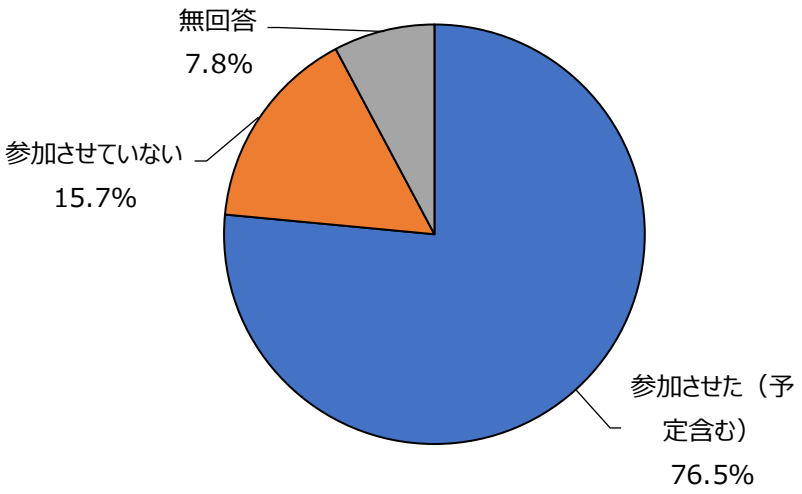
2－5　保育者育成の取組（園外研修）について

2－5－1　「若手の保育者」の園外研修の参加の有無

園外研修の参加の有無については、「参加させた（予定含む）」が全体の約８割を占めている。

設置形態別では、幼保連携型認定こども園で最も参加させた割合が高い（83.1%）

図表 22　「若手の保育者」の園外研修の参加の有無（n=3,719）



設置形態×「若手の保育者」の園外研修の参加の有無

	全体	参加させた（予定含む）	参加させていない	無回答
全体	3719 (100.0%)	2845 (76.5%)	585 (15.7%)	289 (7.8%)
保育所	877 (100.0%)	669 (76.3%)	106 (12.1%)	102 (11.6%)
幼稚園	1724 (100.0%)	1258 (73.0%)	369 (21.4%)	97 (5.6%)
幼保連携型認定こども園	606 (100.0%)	503 (83.0%)	51 (8.4%)	52 (8.6%)
保育所型認定こども園	179 (100.0%)	143 (79.9%)	23 (12.8%)	13 (7.3%)
幼稚園型認定こども園	333 (100.0%)	272 (81.7%)	36 (10.8%)	25 (7.5%)

2－5－2 若手の保育者が参加した園外研修の内容や成果を、園内で共有するために行っている取組や工夫

若手の保育者が参加した園外研修の内容や成果を、園内で共有するために行っている取組や工夫（自由記述抜粋）

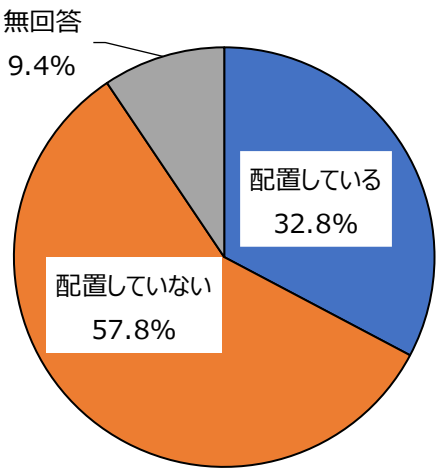
取組	・障害児教育施設への研修を通して実体験の中からの研修報告、共通認識を図る ・比較的若手の職員が集まる研修に参加することで同じような境遇の職員と話をしたり相談することで輪を広げられるようにした ・ワンダーサマースクール２０２３に参加し、楽しく研修を受けた。保育にも役立てている ・園長と教頭は、研修報告書を確認しながら本人から聞き取りを行っている ・県保育士会主催の初任者研修に参加。その後の会議の時に報告をしています ・復命書の回覧したり、研修報告をしたりしている
実施の工夫	・「西幼　つながりデー」シートを作り、自分が聞きたいことを書き、みんなで話し合う場を設ける。水曜日１５分程度 ・若手保育者の負担にならない程度に、研修内容を打ち合わせ時に伝えてもらう、資料を回覧してもらう等

2－5－3　若手の保育者の相談体制について

若手の保育者が保育について悩んだり困ったりしたときに相談できる先輩保育者（管理職以外）の配置について聞いたところ、「配置している」と回答したのは全体の 32.8%であった。

各設置形態別でも、配置していると回答した割合は 30%台程度となっている。

図表 23　先輩保育者（管理職以外）の配置有無（n=3,719）



設置形態×先輩保育者（管理職以外）の配置有無

	全体	配置している	配置していない	無回答
全体	3719 (100.0%)	1218 (32.8%)	2151 (57.8%)	350 (9.4%)
保育所	877 (100.0%)	307 (35.0%)	458 (52.2%)	112 (12.8%)
幼稚園	1724 (100.0%)	531 (30.8%)	1064 (61.7%)	129 (7.5%)
幼保連携型認定こども園	606 (100.0%)	212 (35.0%)	334 (55.1%)	60 (9.9%)
保育所型認定こども園	179 (100.0%)	55 (30.7%)	107 (59.8%)	17 (9.5%)
幼稚園型認定こども園	333 (100.0%)	113 (33.9%)	188 (56.5%)	32 (9.6%)

若手の保育者が保育について悩んだり困ったりしたときに相談しやすくするための体制づくり・工夫（自由記述抜粋）

相談のしやすい体制づくり	・私学事業団による相談窓口等を提示している ・「チューター制度」の導入 ・定期的な面談 ・トレーナー・トレーニー制度 ・メンタルヘルス制度 ・OJT 研修
相談しやすくするための工夫	・「困っているだろうな」と思ったときには声をかけるようにしている ・保育がしやすいように扱い難しい子はもう一人の職員が１対１でつくようにしている ・フリーの主任や話しやすいミドルの先生に気に掛けてもらう。 ・クラス編成時に若手が相談しながらクラス運営をしやすい職員を担任として組ませるように配慮している ・近隣園と、月１回、若手職員同士が保育後に環境を見合う日を設定し、語り合える場を確保

2－5－4　若手の保育者の課題

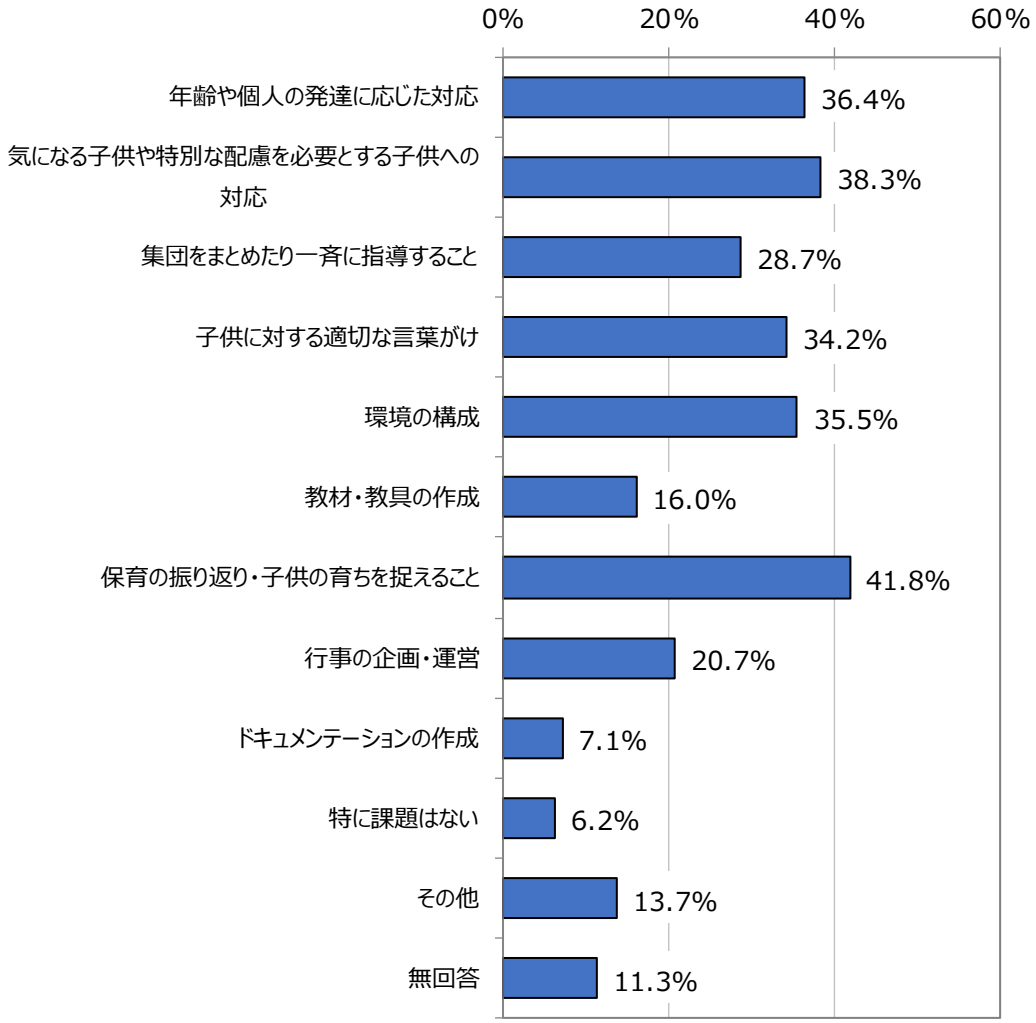
若手の保育者の課題については、「保育の振り返り・子供の育ちを捉えること（41.8%）」がトップとなっており、「気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応（38.3%）」、「年齢や個人の発達に応じた対応（36.4%）」と続いている。

設置形態別で見ると、幼稚園においては「気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応（41.9%）」がトップとなっている。

また、幼稚園、幼稚園型認定こども園では、「集団をまとめたり一斉に指導すること」、「教材・教具の作成」がほかの形態と比べて回答割合が 5～8 ポイント程度高い。

図表 24　若手の保育者の課題（n=3,719）

【複数回答】



設置形態×若手の保育者の課題【複数回答】

	全体	年齢や個人の発達に応じた対応	気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応	集団をまとめたり一斉に指導すること	子供に対する適切な言葉がけ	環境の構成	教材・教具の作成	保育の振り返り・子供の育ちを捉えること	行事の企画・運営	ドキュメンテーションの作成	特に課題はない	その他	無回答
全体	3719 (2.90)	1352 (36.4%)	1425 (38.3%)	1066 (28.7%)	1271 (34.2%)	1320 (35.5%)	595 (16.0%)	1554 (41.8%)	769 (20.7%)	265 (7.1%)	231 (6.2%)	508 (13.7%)	419 (11.3%)
保育所	877 (2.89)	351 (40.0%)	312 (35.6%)	216 (24.6%)	299 (34.1%)	337 (38.4%)	104 (11.9%)	377 (43.0%)	193 (22.0%)	67 (7.6%)	48 (5.5%)	114 (13.0%)	116 (13.2%)
幼稚園	1724 (2.92)	586 (34.0%)	723 (41.9%)	541 (31.4%)	559 (32.4%)	585 (33.9%)	334 (19.4%)	677 (39.3%)	363 (21.1%)	120 (7.0%)	123 (7.1%)	236 (13.7%)	187 (10.8%)
幼保連携型認定こども園	606 (2.88)	242 (39.9%)	202 (33.3%)	162 (26.7%)	224 (37.0%)	230 (38.0%)	78 (12.9%)	274 (45.2%)	114 (18.8%)	41 (6.8%)	28 (4.6%)	87 (14.4%)	63 (10.4%)
保育所型認定こども園	179 (2.72)	68 (38.0%)	57 (31.8%)	42 (23.5%)	64 (35.8%)	58 (32.4%)	18 (10.1%)	87 (48.6%)	27 (15.1%)	7 (3.9%)	15 (8.4%)	21 (11.7%)	22 (12.3%)
幼稚園型認定こども園	333 (2.93)	105 (31.5%)	131 (39.3%)	105 (31.5%)	125 (37.5%)	110 (33.0%)	61 (18.3%)	139 (41.7%)	72 (21.6%)	30 (9.0%)	17 (5.1%)	50 (15.0%)	31 (9.3%)

若手の保育者の課題（その他抜粋）

・コミュニケーション力 ・創造性 ・職員自ら主体的に行動すること ・時間の使い方や環境整理 ・保護者対応 ・言葉使い、文章作成力など基礎的学力の不足や、リアルな人間関係の経験値不足を感じる ・保育の構想や活動の選択から幼児理解まで、正解のない保育に対して、あらゆる場面で戸惑いをもち自信をもてないこと

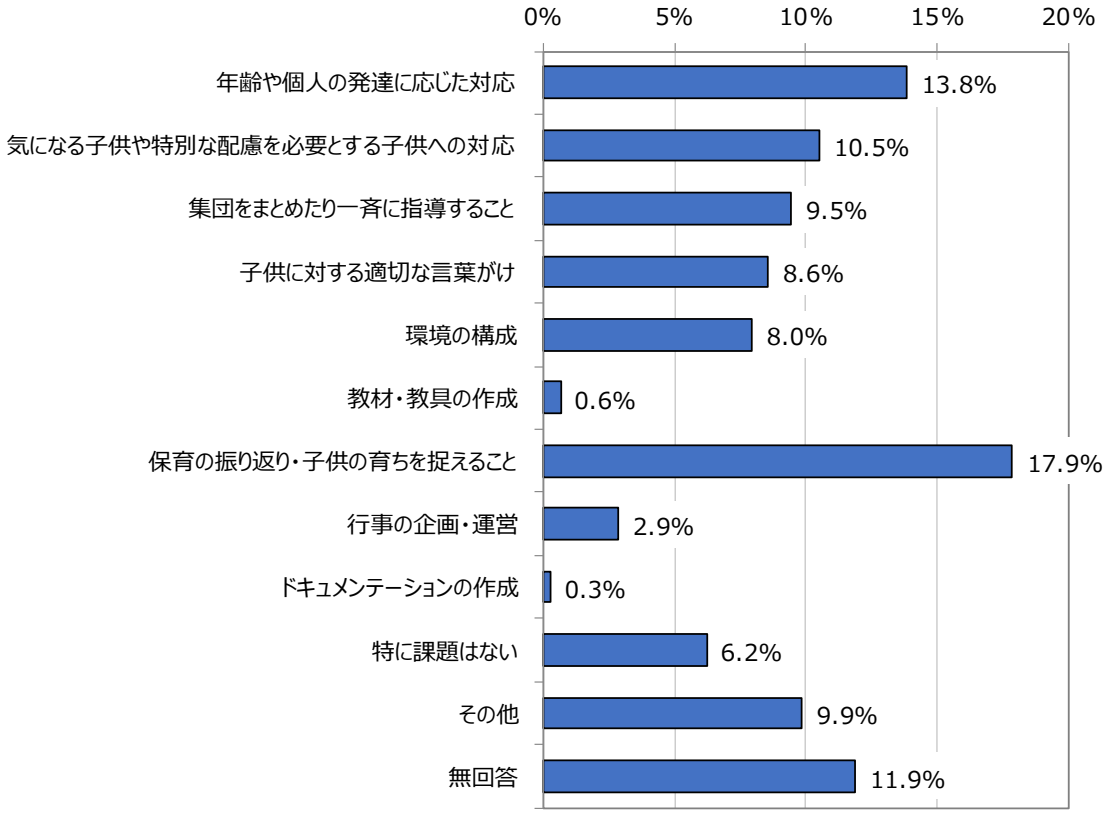
（1）2－5－3　若手の保育者の課題のうち最も大きな課題だと思うもの

若手の保育者の課題のうち最も大きな課題だと思うものについて聞いたところ、「保育の振り返り・子供の育ちを捉えること（17.9%）」が最も高かった。

設置形態別で見ると、各形態すべて「保育の振り返り・子供の育ちを捉えること」の回答割合が高かった。

幼稚園においては「気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応（13.0%）」がほかの形態よりも回答割合が約 4 ポイント高かった。

図表 25　若手の保育者の課題のうち最も大きな課題だと思うもの（n=3,719）



設置形態×若手の保育者の課題のうち最も大きな課題だと思うもの

	全体	年齢や個人の発達に応じた対応	気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応	集団をまとめたり一斉に指導すること	子供に対する適切な言葉がけ	環境の構成	教材・教具の作成	保育の振り返り・子供の育ちを捉えること	行事の企画・運営	ドキュメンテーションの作成	特に課題はない	その他	無回答
全体	3719	515	391	352	319	296	24	665	107	10	231	367	442
	(100.0%)	(13.8%)	(10.5%)	(9.5%)	(8.6%)	(8.0%)	(0.6%)	(17.9%)	(2.9%)	(0.3%)	(6.2%)	(9.9%)	(11.9%)
保育所	877	135	70	69	76	70	3	171	29	0	48	85	121
	(100.0%)	(15.4%)	(8.0%)	(7.9%)	(8.7%)	(8.0%)	(0.3%)	(19.5%)	(3.3%)	(0.0%)	(5.5%)	(9.7%)	(13.8%)
幼稚園	1724	206	225	177	134	139	16	277	49	6	123	171	201
	(100.0%)	(11.9%)	(13.1%)	(10.3%)	(7.8%)	(8.1%)	(0.9%)	(16.1%)	(2.8%)	(0.3%)	(7.1%)	(9.9%)	(11.7%)
幼保連携型認定こども園	606	105	50	55	62	48	2	113	14	1	28	61	67
	(100.0%)	(17.3%)	(8.3%)	(9.1%)	(10.2%)	(7.9%)	(0.3%)	(18.6%)	(2.3%)	(0.2%)	(4.6%)	(10.1%)	(11.1%)
保育所型認定こども園	179	27	14	10	20	11	0	40	5	0	15	15	22
	(100.0%)	(15.1%)	(7.8%)	(5.6%)	(11.2%)	(6.1%)	(0.0%)	(22.3%)	(2.8%)	(0.0%)	(8.4%)	(8.4%)	(12.3%)
幼稚園型認定こども園	333	42	32	41	27	28	3	64	10	3	17	35	31
	(100.0%)	(12.6%)	(9.6%)	(12.3%)	(8.1%)	(8.4%)	(0.9%)	(19.2%)	(3.0%)	(0.9%)	(5.1%)	(10.5%)	(9.3%)

2－6　学校評価（自己評価）の実施状況

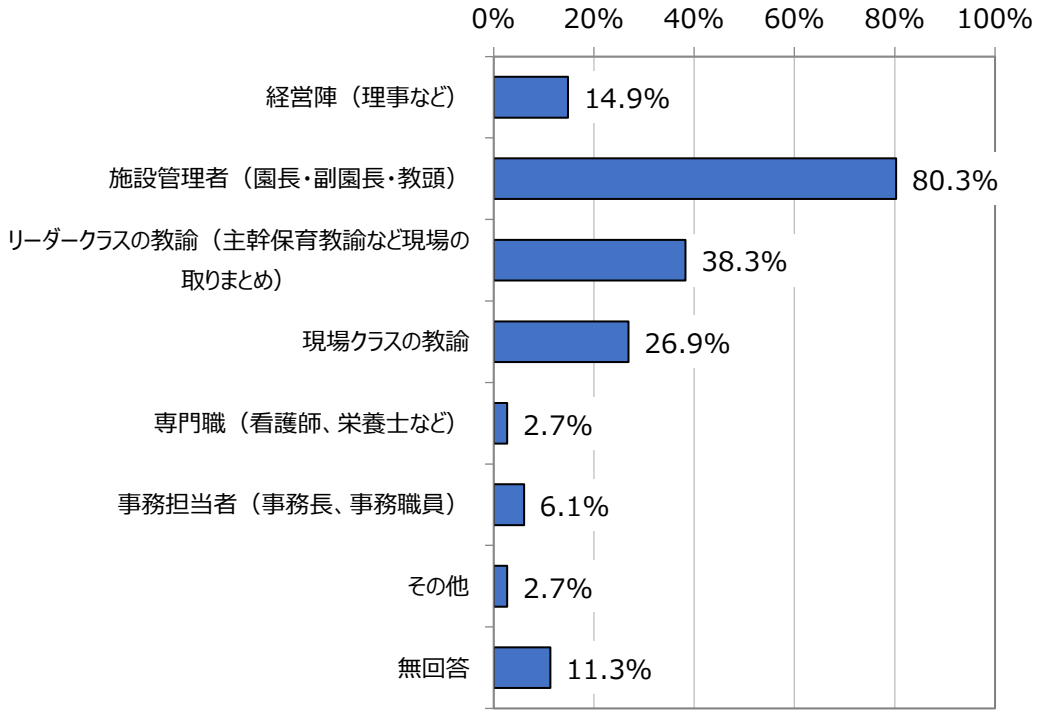
2－6－1　自己評価の目標設定に関わった職員

自己評価の目標設定に関わった職員では、「施設管理者」と回答した割合が約 8 割で最も高い。「リーダークラスの教諭（38.3%）」、「現場クラスの教諭（26.9%）」と続いている。

設置形態別でも、同様の順位であった。幼稚園では、「現場クラスの教諭」が目標設定にかかわっていた割合が約 3 割となっている（29.9%）。

図表 26　自己評価の目標設定に関わった職員（幼稚園、幼保連携型・幼稚園型認定こども園 n=2,663）

【複数回答】



設置形態×自己評価の目標設定に関わった職員【複数回答】

	全体	経営陣（理事など）	施設管理者（園長・副園長・教頭）	リーダークラスの教諭（主幹保育教諭など現場の取りまとめ）	現場クラスの教諭	専門職（看護師、栄養士など）	事務担当者（事務長、事務職員）	その他	無回答
全体	2663 (1.83)	396 (14.9%)	2138 (80.3%)	1019 (38.3%)	717 (26.9%)	73 (2.7%)	162 (6.1%)	73 (2.7%)	301 (11.3%)
幼稚園	1724 (1.83)	249 (14.4%)	1402 (81.3%)	639 (37.1%)	515 (29.9%)	20 (1.2%)	93 (5.4%)	54 (3.1%)	180 (10.4%)
幼保連携型認定こども園	606 (1.85)	84 (13.9%)	474 (78.2%)	254 (41.9%)	131 (21.6%)	43 (7.1%)	41 (6.8%)	13 (2.1%)	84 (13.9%)
幼稚園型認定こども園	333 (1.81)	63 (18.9%)	262 (78.7%)	126 (37.8%)	71 (21.3%)	10 (3.0%)	28 (8.4%)	6 (1.8%)	37 (11.1%)

自己評価の目標設定に関わった職員（その他抜粋）

内部	・会計任用職員 ・全保育者
外部	・PTA ・教育委員会 ・市の担当課
その他	・保護者役員

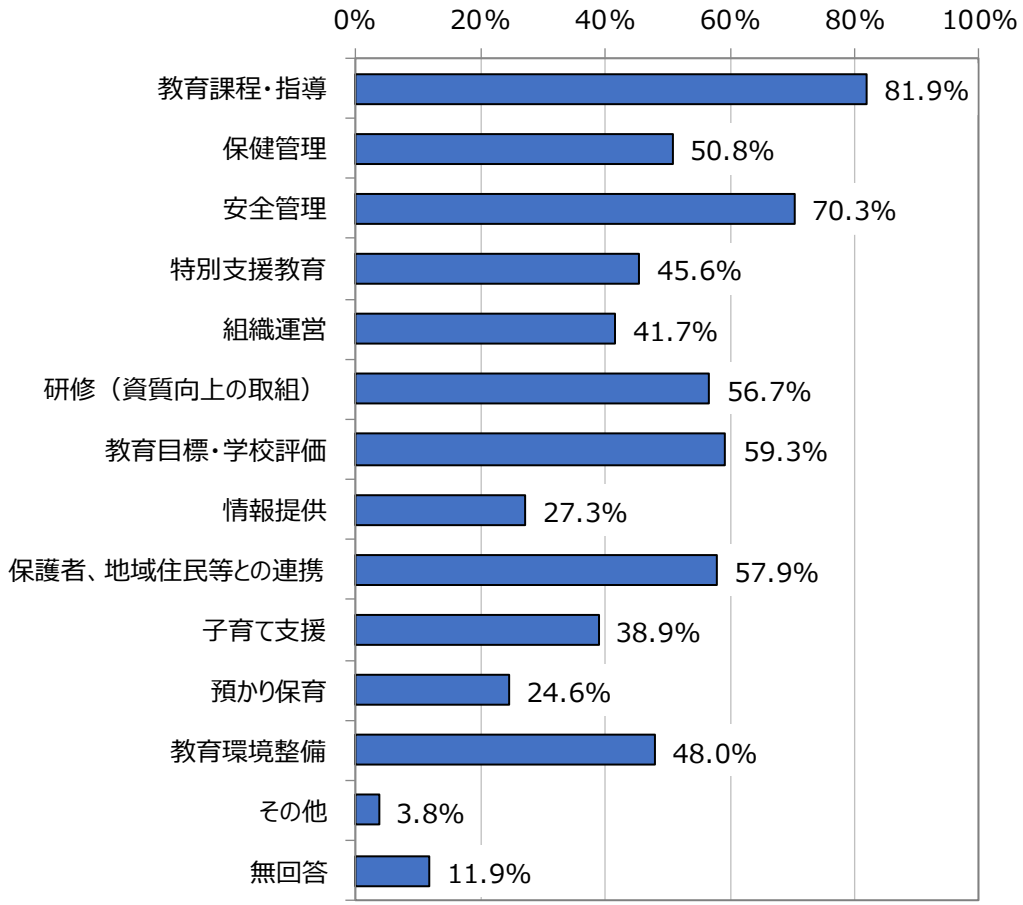
2－6－2　自己評価の評価項目・指標等

自己評価の評価項目・指標等について聞いたところ、「教育課程・指導（81.9%）」が最多となり、次点以降「安全管理（70.3%）」、「教育目標・学校評価（59.3%）と続く。

設置形態別では、回答対象であった 3 形態ともに、「教育課程・指導」がトップであった。幼保連携型認定こども園では、他の形態よりも「保健管理」、「安全管理」の回答割合が高く、それぞれ 5 ポイント以上の差がある。

図表 27　自己評価の評価項目・指標等（幼稚園、幼保連携型・幼稚園型認定こども園 n=2,663）

【複数回答】



設置形態×自己評価の評価項目・指標等【複数回答】

	全体	教育課程・指導	保健管理	安全管理	特別支援教育	組織運営	研修（資質向上の取組）	教育目標・学校評価	情報提供	保護者、地域住民等との連携	子育て支援	預かり保育	教育環境整備	その他	無回答
全体	2663 (6.19)	2181 (81.9%)	1352 (50.8%)	1872 (70.3%)	1213 (45.6%)	1111 (41.7%)	1510 (56.7%)	1580 (59.3%)	726 (27.3%)	1542 (57.9%)	1036 (38.9%)	656 (24.6%)	1279 (48.0%)	101 (3.8%)	317 (11.9%)
幼稚園	1724 (6.23)	1421 (82.4%)	836 (48.5%)	1194 (69.3%)	812 (47.1%)	719 (41.7%)	973 (56.4%)	1073 (62.2%)	482 (28.0%)	1017 (59.0%)	640 (37.1%)	459 (26.6%)	849 (49.2%)	70 (4.1%)	193 (11.2%)
幼保連携型認定こども園	606 (6.23)	484 (79.9%)	358 (59.1%)	450 (74.3%)	259 (42.7%)	257 (42.4%)	353 (58.3%)	317 (52.3%)	163 (26.9%)	353 (58.3%)	285 (47.0%)	112 (18.5%)	279 (46.0%)	19 (3.1%)	86 (14.2%)
幼稚園型認定こども園	333 (5.89)	276 (82.9%)	158 (47.4%)	228 (68.5%)	142 (42.6%)	135 (40.5%)	184 (55.3%)	190 (57.1%)	81 (24.3%)	172 (51.7%)	111 (33.3%)	85 (25.5%)	151 (45.3%)	12 (3.6%)	38 (11.4%)

自己評価の評価項目・指標等（その他抜粋）

園独自の項目・指標	・子どもの人権 ・規則正しい生活習慣、PDCA サイクル ・札幌市研究実践園としての取組
外部と関係する項目・指標	・異校種との連携 ・役場の規定のもの
その他	・会計管理・コンプライアンス遵守 ・保育以外の社会情勢や一般教養全般

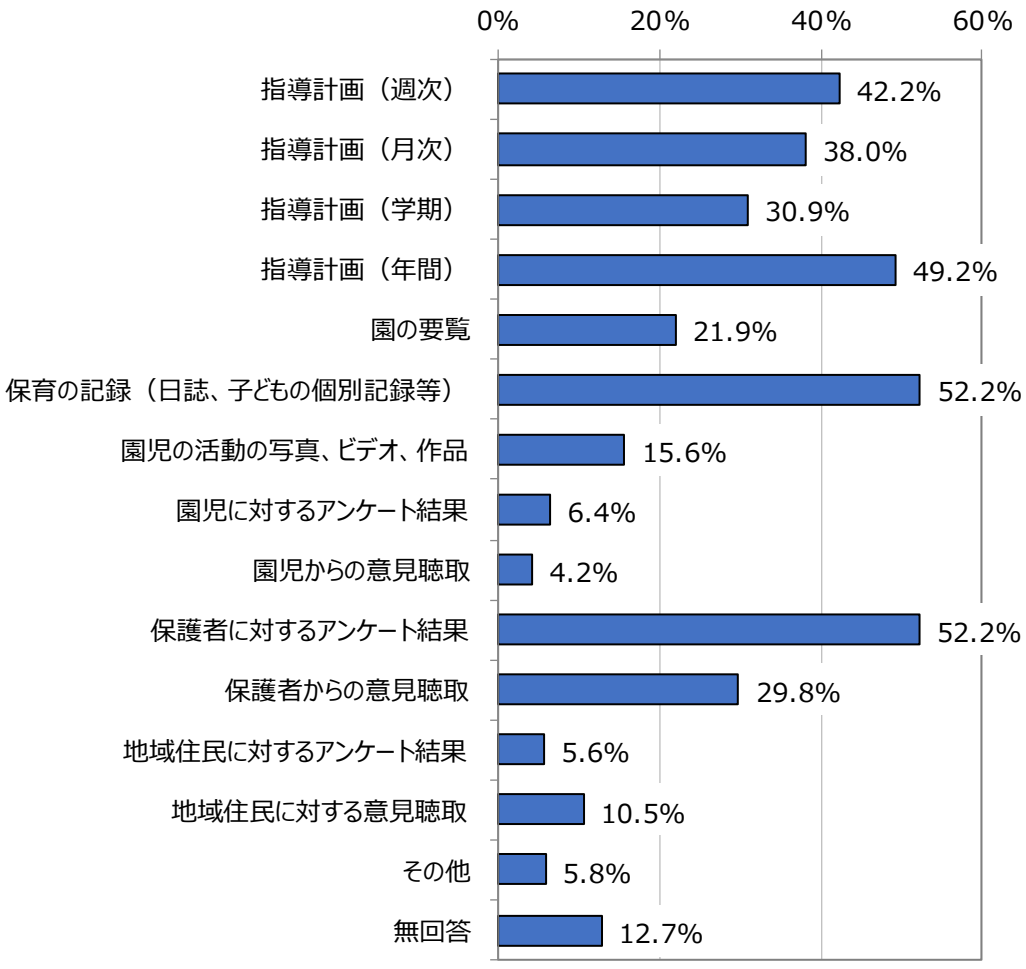
2－6－3　自己評価で活用している資料

自己評価で活用している資料では、「保育の記録（52.2%）」、「保護者に対するアンケート結果（52.2%）」が最も割合が高かった。次いで、「指導計画（年間）（49.2%）」、「指導計画（週次）（42.2%）」「指導計画（月次）（38.0%）」と続いている。

設置形態別でみても、「保育の記録」、「保護者に対するアンケート結果」、他作成された指導計画の回答割合が高い。幼稚園では、「保護者に対するアンケート結果」を活用していると回答した割合が半数を超えており、他の形態と比して約 5 ポイント高くなっている。

図表 28　自己評価で活用している資料（幼稚園、幼保連携型・幼稚園型認定こども園 n=2,663）

【複数回答】



設置形態×自己評価で活用している資料【複数回答】

	全体	指導計画（週次）	指導計画（月次）	指導計画（学期）	指導計画（年間）	園の要覧	保育の記録（日誌、子どもの個別記録等）	園児の活動の写真、ビデオ、作品	園児に対するアンケート結果	園児からの意見聴取	保護者に対するアンケート結果	保護者からの意見聴取	地域住民に対するアンケート結果	地域住民に対する意見聴取	その他	無回答
全体	2663 (3.77)	1125 (42.2%)	1013 (38.0%)	822 (30.9%)	1310 (49.2%)	584 (21.9%)	1391 (52.2%)	416 (15.6%)	171 (6.4%)	112 (4.2%)	1389 (52.2%)	793 (29.8%)	150 (5.6%)	279 (10.5%)	155 (5.8%)	339 (12.7%)
幼稚園	1724 (3.82)	724 (42.0%)	590 (34.2%)	535 (31.0%)	833 (48.3%)	384 (22.3%)	898 (52.1%)	291 (16.9%)	110 (6.4%)	84 (4.9%)	930 (53.9%)	563 (32.7%)	126 (7.3%)	221 (12.8%)	100 (5.8%)	203 (11.8%)
幼保連携型認定こども園	606 (3.71)	257 (42.4%)	290 (47.9%)	179 (29.5%)	310 (51.2%)	127 (21.0%)	314 (51.8%)	75 (12.4%)	42 (6.9%)	18 (3.0%)	295 (48.7%)	149 (24.6%)	18 (3.0%)	40 (6.6%)	40 (6.6%)	96 (15.8%)
幼稚園型認定こども園	333 (3.62)	144 (43.2%)	133 (39.9%)	108 (32.4%)	167 (50.2%)	73 (21.9%)	179 (53.8%)	50 (15.0%)	19 (5.7%)	10 (3.0%)	164 (49.2%)	81 (24.3%)	6 (1.8%)	18 (5.4%)	15 (4.5%)	40 (12.0%)

自己評価で評価に活用している資料（その他抜粋）

園内資料	・CLMという年齢に合わせた発達チェックシートを使い、複数人数で子どもの育ち、クラスの育ちを考えている ・こども園の教育・保育のチェックリスト ・リーダーとの査定内容 ・教員へのアンケート ・保育士自身の主観
外部資料	・学校評議委員からの評価 ・市で作成の自己評価表・業績評価シート・能力評価シート

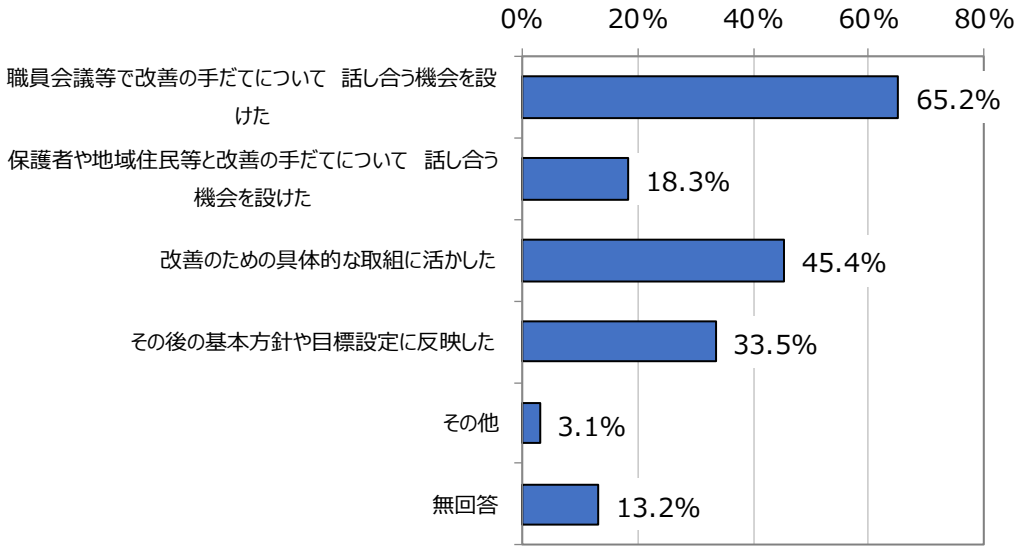
2－6－4 自己評価の活用方法

自己評価の活用方法では、全体の 6 割超が「職員会議等で改善の手だてについて 話し合う機会を設けた（65.2%）」と回答している。次点で、「改善のための具体的な取組に活かした（45.4%）」となっている。

設置形態別でも、「職員会議等で改善の手だてについて 話し合う機会を設けた」回答が最も多い。幼稚園では、上記活用のほかに、「保護者や地域住民等と改善の手だてについて 話し合う機会を設けた」がほかの形態よりも 10 ポイント以上割合が高くなっている（22.2%）。

図表 29　自己評価の活用方法（幼稚園、幼保連携型・幼稚園型認定こども園 n=2,663）

【複数回答】



設置形態×自己評価の活用方法【複数回答】

	全体	職員会議等で改善の手だてについて 話し合う機会を設けた	保護者や地域住民等と改善の手だてについて話し合う機会を設けた	改善のための具体的な取組に活かした	その後の基本方針や目標設定に反映した	その他	無回答
全体	2663 (1.79)	1736 (65.2%)	488 (18.3%)	1209 (45.4%)	891 (33.5%)	83 (3.1%)	351 (13.2%)
幼稚園	1724 (1.89)	1159 (67.2%)	383 (22.2%)	838 (48.6%)	617 (35.8%)	46 (2.7%)	209 (12.1%)
幼保連携型認定こども園	606 (1.59)	368 (60.7%)	65 (10.7%)	233 (38.4%)	173 (28.5%)	26 (4.3%)	99 (16.3%)
幼稚園型認定こども園	333 (1.63)	209 (62.8%)	40 (12.0%)	138 (41.4%)	101 (30.3%)	11 (3.3%)	43 (12.9%)

自己評価の活用方法（その他抜粋）

・アドバイザーの指導を受けた
・それぞれに、目標達成のために、数値化できる事を設定した
・園評議員、園コーディネーターに保護者アンケート結果等をみてもらい、アドバイスをもらう
・保護者、外部評価者に開示、説明した
・評価することで手一杯で、肝心の活用がまだできていない

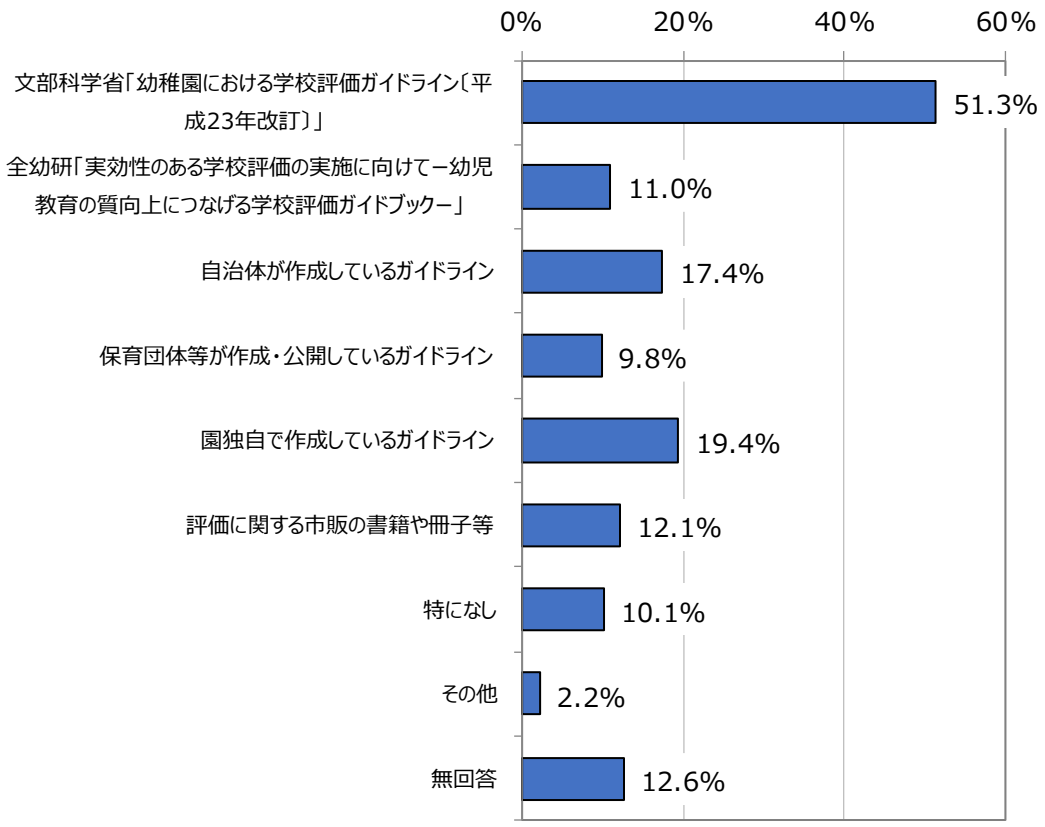
2－6－5　自己評価の実施にあたり参考にしているガイドライン等

自己評価実施において参考にしているガイドライン等では、約半数が文部科学省「幼稚園における学校評価ガイドライン〔平成 23 年改訂〕」を活用していると回答している。

設置形態別でも、幼保連携型認定こども園を除き、半数以上が当該ガイドラインを活用している（幼稚園 54.2%、幼保連携型認定こども園 40.6%、幼稚園型認定こども園 55.9%）。

図表 30　自己評価の実施にあたり参考にしているガイドライン等（幼稚園、幼保連携型・幼稚園型認定こども園 n=2,663）

【複数回答】



設置形態×自己評価の実施にあたり参考にしているガイドライン等【複数回答】

	全体	文部科学省「幼稚園における学校評価ガイドライン〔平成23年改訂〕」	全幼研「実効性のある学校評価の実施に向けてー幼児教育の質向上につなげる学校評価ガイドブックー」	自治体が作成しているガイドライン	保育団体等が作成・公開しているガイドライン	園独自で作成しているガイドライン	評価に関する市販の書籍や冊子等	特になし	その他	無回答
全体	2663 (1.46)	1366 (51.3%)	293 (11.0%)	464 (17.4%)	262 (9.8%)	517 (19.4%)	323 (12.1%)	270 (10.1%)	59 (2.2%)	336 (12.6%)
幼稚園	1724 (1.46)	934 (54.2%)	207 (12.0%)	340 (19.7%)	103 (6.0%)	327 (19.0%)	183 (10.6%)	194 (11.3%)	28 (1.6%)	206 (11.9%)
幼保連携型認定こども園	606 (1.46)	246 (40.6%)	51 (8.4%)	89 (14.7%)	119 (19.6%)	123 (20.3%)	97 (16.0%)	45 (7.4%)	26 (4.3%)	91 (15.0%)
幼稚園型認定こども園	333 (1.44)	186 (55.9%)	35 (10.5%)	35 (10.5%)	40 (12.0%)	67 (20.1%)	43 (12.9%)	31 (9.3%)	5 (1.5%)	39 (11.7%)

自己評価実施において参考にしているガイドライン等（その他抜粋）

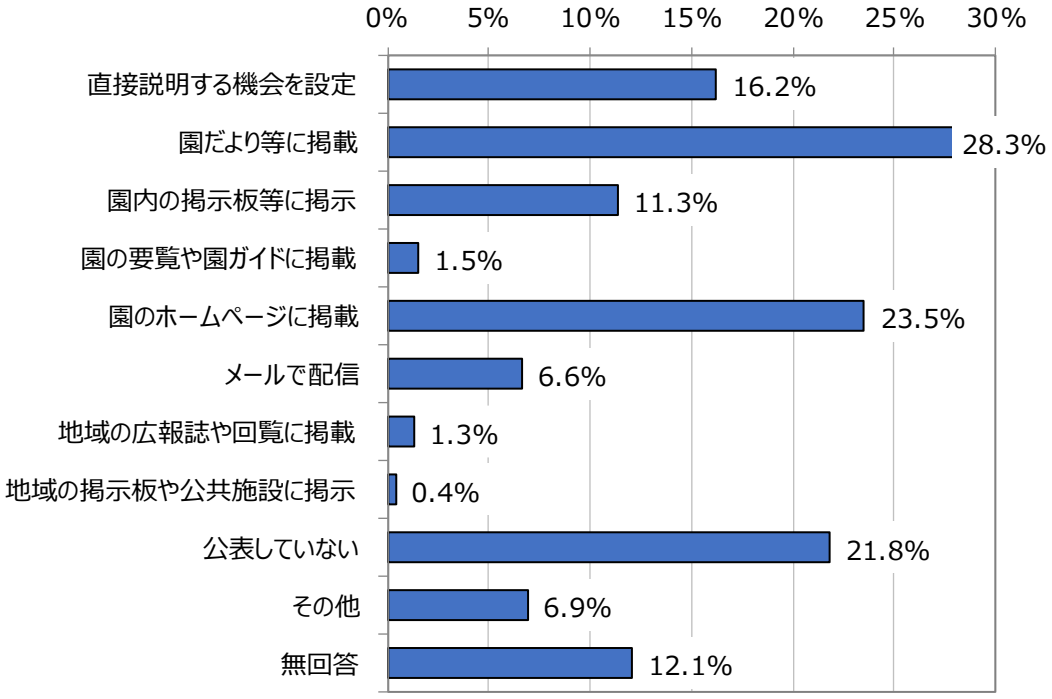
園内独自のガイドライン	・法人で共通のもの
外部のガイドライン	・区のガイドライン ・市が作成している教員育成指標 ・市内公立幼で共通理解したもの ・福祉サービス第３者評価共通評価基準

2－6－6　自己評価結果の公表方法

自己評価結果の公表方法は、「園だより等に掲載(28.3%)」「園のホームページに掲載(23.5%)」の割合が高い。また、「公表していない」施設も約２割存在している。

図表 31 自己評価結果の公表方法(n=2,663)

【複数回答】



設置形態×自己評価結果の公表方法【複数回答】

	全体	直接説明する機会を設定	園だより等に掲載	園内の掲示板等に掲示	園の要覧や園ガイドに掲載	園のホームページに掲載	メールで配信	地域の広報誌や回覧に掲載	地域の掲示板や公共施設に掲示	公表していない	その他	無回答
全体	2663	431	753	302	41	626	177	35	11	580	184	321
	(1.30)	(16.2%)	(28.3%)	(11.3%)	(1.5%)	(23.5%)	(6.6%)	(1.3%)	(0.4%)	(21.8%)	(6.9%)	(12.1%)
幼稚園	1724	335	532	141	25	358	104	25	6	392	135	195
	(1.30)	(19.4%)	(30.9%)	(8.2%)	(1.5%)	(20.8%)	(6.0%)	(1.5%)	(0.3%)	(22.7%)	(7.8%)	(11.3%)
幼保連携型認定こども園	606	49	133	132	12	166	49	9	3	120	33	86
	(1.31)	(8.1%)	(21.9%)	(21.8%)	(2.0%)	(27.4%)	(8.1%)	(1.5%)	(0.5%)	(19.8%)	(5.4%)	(14.2%)
幼稚園型認定こども園	333	47	88	29	4	102	24	1	2	68	16	40
	(1.26)	(14.1%)	(26.4%)	(8.7%)	(1.2%)	(30.6%)	(7.2%)	(0.3%)	(0.6%)	(20.4%)	(4.8%)	(12.0%)

自己評価結果の公表方法（その他抜粋）

・市教育委員会に報告している ・項目により異なっている ・コミュニティスクールで直接説明 ・学校運営協議会で直接説明 ・村長、教育長への説明会有り

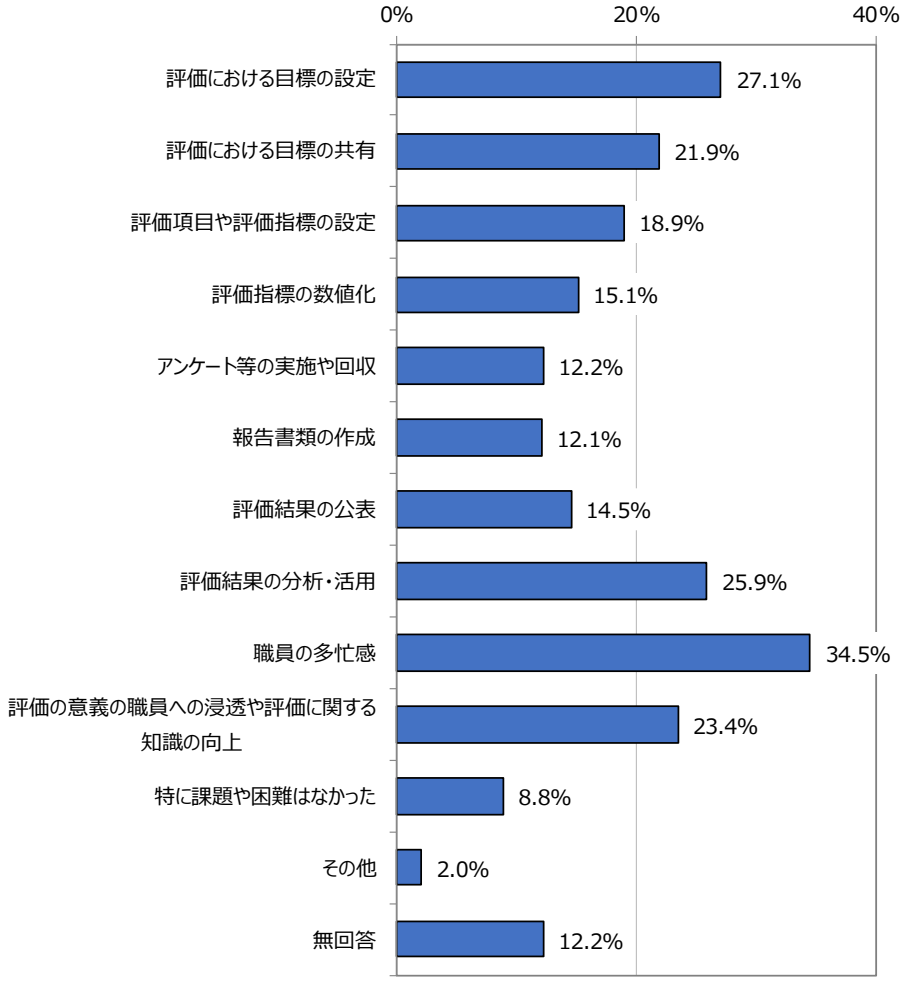
2－6－7 自己評価の実施に対する課題

自己評価を実施するにあたっての課題について聞いてみたところ、「職員の多忙感（34.5%）」が最多となっており、以降「評価における目標の設定（27.1%）」、「評価結果の分析・活用（25.9%）」と続く。

設置形態別にみてみると、幼保連携型認定こども園では「評価における目標の共有（28.2%）」がほかの形態と比して回答割合が高く、他の形態よりも 10 ポイント近く高い。

図表 32　自己評価の実施に対する課題（幼稚園、幼保連携型・幼稚園型認定こども園 n=2,663）

【複数回答】



設置形態×自己評価の実施に対する課題【複数回答】

	全体	評価における目標の設定	評価における目標の共有	評価項目や評価指標の設定	評価指標の数値化	アンケート等の実施や回収	報告書類の作成	評価結果の公表	評価結果の分析・活用	職員の多忙感	評価の意義の職員への浸透や評価に関する知識の向上	特に課題や困難はなかった	その他	無回答
全体	2663 (2.29)	721 (27.1%)	583 (21.9%)	504 (18.9%)	402 (15.1%)	325 (12.2%)	321 (12.1%)	386 (14.5%)	689 (25.9%)	919 (34.5%)	624 (23.4%)	235 (8.8%)	53 (2.0%)	325 (12.2%)
幼稚園	1724 (2.31)	467 (27.1%)	342 (19.8%)	343 (19.9%)	290 (16.8%)	217 (12.6%)	219 (12.7%)	260 (15.1%)	441 (25.6%)	615 (35.7%)	376 (21.8%)	170 (9.9%)	36 (2.1%)	200 (11.6%)
幼保連携型認定こども園	606 (2.24)	169 (27.9%)	172 (28.4%)	102 (16.8%)	76 (12.5%)	55 (9.1%)	58 (9.6%)	78 (12.9%)	156 (25.7%)	197 (32.5%)	161 (26.6%)	39 (6.4%)	7 (1.2%)	87 (14.4%)
幼稚園型認定こども園	333 (2.26)	85 (25.5%)	69 (20.7%)	59 (17.7%)	36 (10.8%)	53 (15.9%)	44 (13.2%)	48 (14.4%)	92 (27.6%)	107 (32.1%)	87 (26.1%)	26 (7.8%)	10 (3.0%)	38 (11.4%)

自己評価の実施に対する課題（その他抜粋）

実施そのものへの課題	・形骸化 ・自己評価の意義
実施内容についての課題	・「評価の必要性」「評価の目的」の検討 ・アンケートの回収率 ・こども園に移行し内容が適切かどうか ・提出先が異なるので、同じような自己を振り返る書類が複数ある

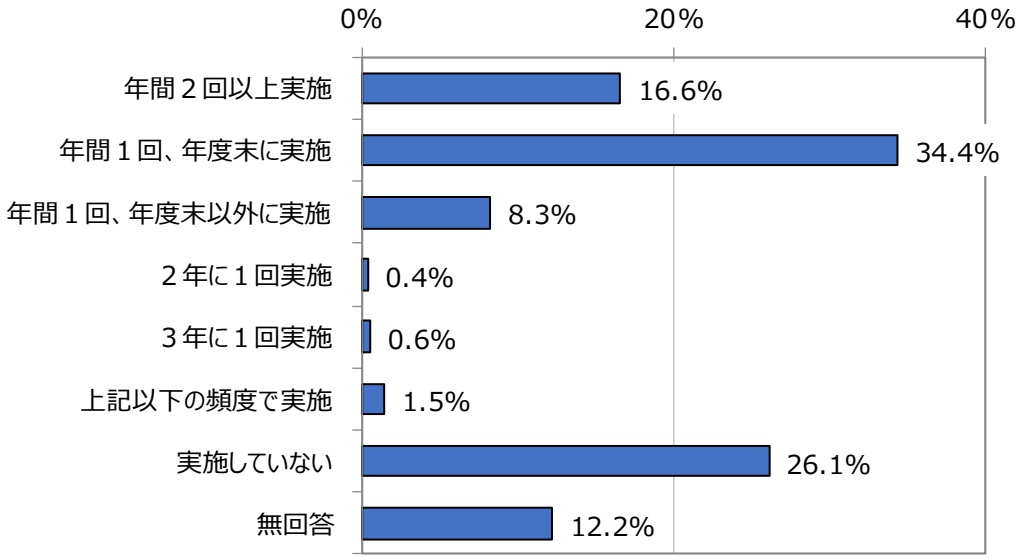
2－7　学校評価（関係者評価）の実施状況

2－7－1　関係者評価の実施頻度

関係者評価の実施頻度では、「年間１回、年度末に実施（34.4%）」が最多で、「実施していない（26.1%）」が次点となっている。

設置形態別でみると、幼保連携型認定こども園では、「実施していない（33.6%）」の割合が最も高くなっている。

図表 33　関係者評価の実施頻度（幼稚園、幼保連携型・幼稚園型認定こども園 n=2,663）



設置形態×関係者評価の実施頻度

	全体	年間２回以上実施	年間１回、年度末に実施	年間１回、年度末以外に実施	２年に１回実施	３年に１回実施	上記以下の頻度で実施	実施していない	無回答
全体	2663 (100.0%)	442 (16.6%)	915 (34.4%)	220 (8.3%)	11 (0.4%)	15 (0.6%)	39 (1.5%)	695 (26.1%)	326 (12.2%)
幼稚園	1724 (100.0%)	325 (18.9%)	621 (36.0%)	137 (7.9%)	3 (0.2%)	7 (0.4%)	21 (1.2%)	410 (23.8%)	200 (11.6%)
幼保連携型認定こども園	606 (100.0%)	70 (11.6%)	176 (29.0%)	54 (8.9%)	2 (0.3%)	7 (1.2%)	8 (1.3%)	202 (33.3%)	87 (14.4%)
幼稚園型認定こども園	333 (100.0%)	47 (14.1%)	118 (35.4%)	29 (8.7%)	6 (1.8%)	1 (0.3%)	10 (3.0%)	83 (24.9%)	39 (11.7%)

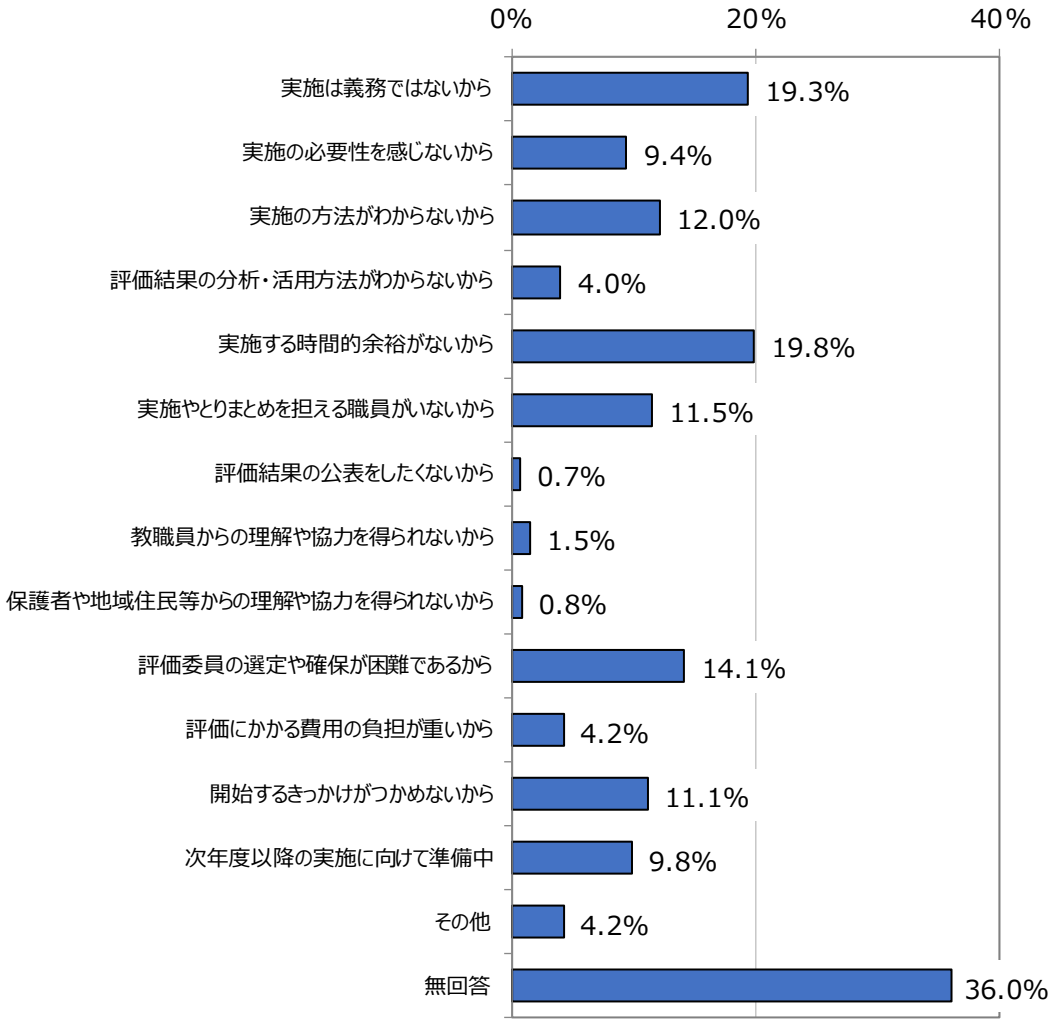
（1）関係者評価を実施していない理由

関係者評価を実施していない理由では、無回答を除いて「実施する時間的余裕がないから（19.8%）」がトップ、「実施は義務ではないから（19.3%）」、「評価委員の選定や確保が困難であるから（14.1%）」と続いている。

設置形態別でみても上記回答の割合が高い傾向となっている。幼稚園型認定こども園では、「評価委員の選定や確保が困難であるから」が 20.5%となっており、他の形態よりも 5 ポイント以上高くなっている。

図表 34　関係者評価を実施していない理由（関係者評価未実施・無回答園 n=1,021）

【複数回答】



設置形態×関係者評価を実施していない理由【複数回答】

	全体	実施は義務ではないから	実施の必要性を感じないから	実施の方法がわからないから	評価結果の分析・活用方法がわからないから	実施する時間的余裕がないから	実施やとりまとめを担える職員がいないから	評価結果の公表をしたくないから	教職員からの理解や協力を得られないから	保護者や地域住民等からの理解や協力を得られないから	評価委員の選定や確保が困難であるから	評価にかかる費用の負担が重いから	開始するきっかけがつかめないから	次年度以降の実施に向けて準備中	その他	無回答
全体	1021	197	96	123	41	202	117	7	15	8	144	43	113	100	43	368
	(1.58)	(19.3%)	(9.4%)	(12.0%)	(4.0%)	(19.8%)	(11.5%)	(0.7%)	(1.5%)	(0.8%)	(14.1%)	(4.2%)	(11.1%)	(9.8%)	(4.2%)	(36.0%)
幼稚園	610	119	54	72	24	121	85	5	11	5	88	20	70	56	28	222
	(1.61)	(19.5%)	(8.9%)	(11.8%)	(3.9%)	(19.8%)	(13.9%)	(0.8%)	(1.8%)	(0.8%)	(14.4%)	(3.3%)	(11.5%)	(9.2%)	(4.6%)	(36.4%)
幼保連携型認定こども園	289	61	29	36	14	60	20	2	2	3	31	17	32	31	12	102
	(1.56)	(21.1%)	(10.0%)	(12.5%)	(4.8%)	(20.8%)	(6.9%)	(0.7%)	(0.7%)	(1.0%)	(10.7%)	(5.9%)	(11.1%)	(10.7%)	(4.2%)	(35.3%)
幼稚園型認定こども園	122	17	13	15	3	21	12	0	2	0	25	6	11	13	3	44
	(1.52)	(13.9%)	(10.7%)	(12.3%)	(2.5%)	(17.2%)	(9.8%)	(0.0%)	(1.6%)	(0.0%)	(20.5%)	(4.9%)	(9.0%)	(10.7%)	(2.5%)	(36.1%)

関係者評価を実施していない理由（その他抜粋）

・関係者のリテラシーを確認するすべがない
・休園中につき、行っていない
・検討中

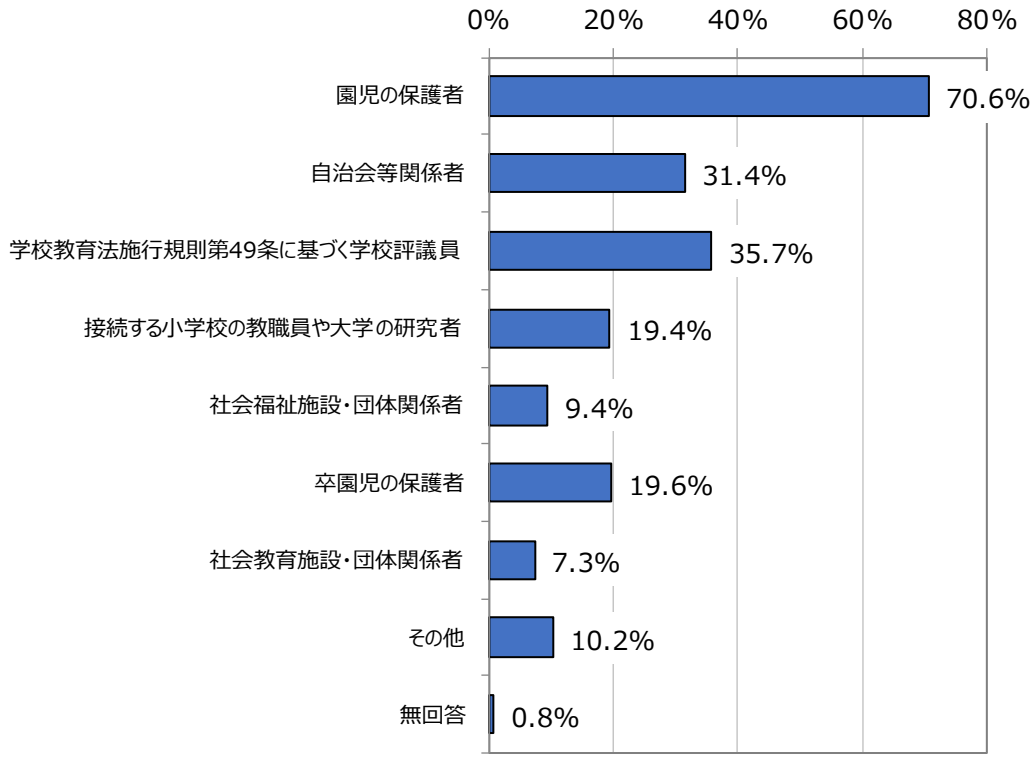
2−7−2　評価委員のメンバー

関係者評価の評価委員のメンバーに選定されているのは、「園児の保護者（70.6%）」が最多となっており、次点の「学校教育法施行規則第 49 条に基づく学校評議員（35.7%）」より 30 ポイント以上高い。

設置形態別で見ると、3 形態いずれも「園児の保護者」が最多となっているが幼稚園では、次点の「学校教育法施行規則第 49 条に基づく学校評議員」も 41.6%と回答割合が高くなっており、他の形態よりも 10 ポイント以上の差がある。

図表 35　評価委員のメンバー（関係者評価実施園 n=1,642）

【複数回答】



設置形態×評価委員のメンバー【複数回答】

	全体	園児の保護者	自治会等関係者	学校教育法施行規則第49条に基づく学校評議員	接続する小学校の教職員や大学の研究者	社会福祉施設・団体関係者	卒園児の保護者	社会教育施設・団体関係者	その他	無回答
全体	1642 (2.05)	1159 (70.6%)	516 (31.4%)	587 (35.7%)	319 (19.4%)	155 (9.4%)	322 (19.6%)	120 (7.3%)	168 (10.2%)	13 (0.8%)
幼稚園	1114 (2.17)	809 (72.6%)	382 (34.3%)	463 (41.6%)	240 (21.5%)	93 (8.3%)	238 (21.4%)	88 (7.9%)	101 (9.1%)	5 (0.4%)
幼保連携型認定こども園	317 (1.74)	204 (64.4%)	88 (27.8%)	75 (23.7%)	44 (13.9%)	53 (16.7%)	33 (10.4%)	16 (5.0%)	34 (10.7%)	6 (1.9%)
幼稚園型認定こども園	211 (1.83)	146 (69.2%)	46 (21.8%)	49 (23.2%)	35 (16.6%)	9 (4.3%)	51 (24.2%)	16 (7.6%)	33 (15.6%)	2 (0.9%)

関係者評価の評価委員のメンバー（その他抜粋）

内部メンバー	・学校法人内の監査等 ・姉妹園園長理事長
外部メンバー	・小学校 PTA 会長 ・PTA 会長、地域ボランティア団体等 ・キンダーカウンセラー ・もと保護者の方、民生児童委員

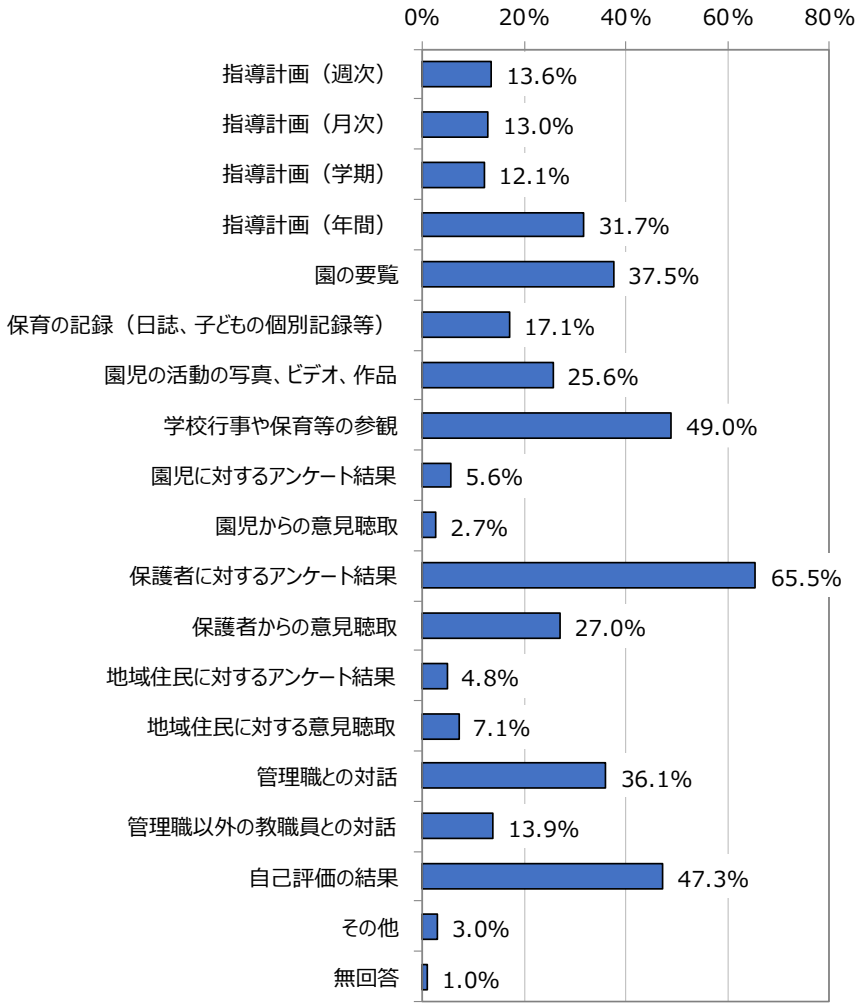
2−7−3　関係者評価で活用している資料

関係者評価で活用している資料は、「保護者に対するアンケート結果（65.5%）」が最も高く、「学校行事や保育等の参観（49.0%）」、「自己評価の結果（47.3%）」と続く。

設置形態別でみても「保護者に対するアンケート結果」の回答割合がトップであるのは共通となっている。

図表 36　関係者評価で活用している資料（関係者評価実施園 n=1,642）

【複数回答】



設置形態×関係者評価で活用している資料【複数回答】

	全体	指導計画（週次）	指導計画（月次）	指導計画（学期）	指導計画（年間）	園の要覧	保育の記録（日誌、子どもの個別記録等）	園児の活動の写真、ビデオ、作品	学校行事や保育等の参観	園児に対するアンケート結果	園児からの意見聴取	保護者に対するアンケート結果	保護者からの意見聴取	地域住民に対するアンケート結果	地域住民に対する意見聴取	管理職との対話	管理職以外の教職員との対話	自己評価の結果	その他	無回答
全体	1642	223	213	199	521	616	280	420	804	92	44	1076	444	79	116	593	229	776	49	17
	(4.14)	(13.6%)	(13.0%)	(12.1%)	(31.7%)	(37.5%)	(17.1%)	(25.6%)	(49.0%)	(5.6%)	(2.7%)	(65.5%)	(27.0%)	(4.8%)	(7.1%)	(36.1%)	(13.9%)	(47.3%)	(3.0%)	(1.0%)
幼稚園	1114	146	130	136	365	442	188	314	570	70	33	755	326	65	99	423	167	545	32	7
	(4.32)	(13.1%)	(11.7%)	(12.2%)	(32.8%)	(39.7%)	(16.9%)	(28.2%)	(51.2%)	(6.3%)	(3.0%)	(67.8%)	(29.3%)	(5.8%)	(8.9%)	(38.0%)	(15.0%)	(48.9%)	(2.9%)	(0.6%)
幼保連携型認定こども園	317	48	56	40	100	109	56	65	139	13	6	200	68	11	14	96	34	130	9	7
	(3.79)	(15.1%)	(17.7%)	(12.6%)	(31.5%)	(34.4%)	(17.7%)	(20.5%)	(43.8%)	(4.1%)	(1.9%)	(63.1%)	(21.5%)	(3.5%)	(4.4%)	(30.3%)	(10.7%)	(41.0%)	(2.8%)	(2.2%)
幼稚園型認定こども園	211	29	27	23	56	65	36	41	95	9	5	121	50	3	3	74	28	101	8	3
	(3.68)	(13.7%)	(12.8%)	(10.9%)	(26.5%)	(30.8%)	(17.1%)	(19.4%)	(45.0%)	(4.3%)	(2.4%)	(57.3%)	(23.7%)	(1.4%)	(1.4%)	(35.1%)	(13.3%)	(47.9%)	(3.8%)	(1.4%)

関係者評価で評価に活用している資料（その他抜粋）

園内資料	・1 年の保育の振り返りをまとめたもの ・指導監査 ・理事会・評議員会での活動報告 ・職員からのアンケート結果、学校評価書
外部資料	・学校評価ガイドライン

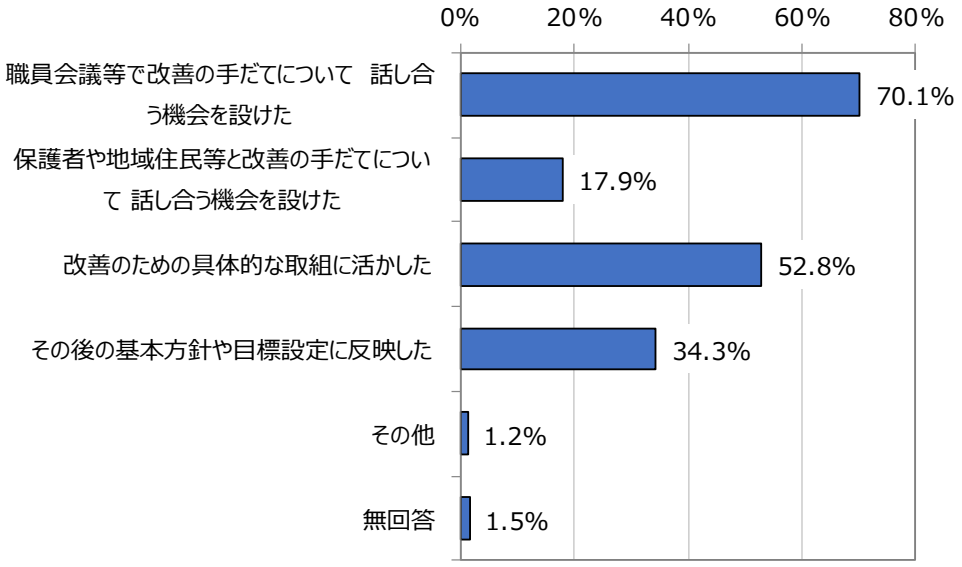
2－7－4　関係者評価の活用方法

関係者評価の活用方法では全体の約 7 割が「職員会議等で改善の手だてについて 話し合う機会を設けた」と回答した（70.1%）。次点では「改善のための具体的な取組に活かした（52.8%）」となっている。

設置形態別でも同じ順位となっている。幼稚園での「職員会議等で改善の手だてについて 話し合う機会を設けた」の回答割合は 72.2%となっており、他の形態よりも 5 ポイント以上割合が高くなっている。

図表 37　関係者評価の活用方法（関係者評価実施園 n=1,642）

【複数回答】



設置形態×関係者評価の活用方法【複数回答】

	全体	職員会議等で改善の手だてについて 話し合う機会を設けた	保護者や地域住民等と改善の手だてについて 話し合う機会を設けた	改善のための具体的な取組に活かした	その後の基本方針や目標設定に反映した	その他	無回答
全体	1642 (1.78)	1151 (70.1%)	294 (17.9%)	867 (52.8%)	564 (34.3%)	20 (1.2%)	25 (1.5%)
幼稚園	1114 (1.86)	804 (72.2%)	231 (20.7%)	601 (53.9%)	408 (36.6%)	14 (1.3%)	14 (1.3%)
幼保連携型認定こども園	317 (1.63)	206 (65.0%)	41 (12.9%)	162 (51.1%)	98 (30.9%)	4 (1.3%)	7 (2.2%)
幼稚園型認定こども園	211 (1.57)	141 (66.8%)	22 (10.4%)	104 (49.3%)	58 (27.5%)	2 (0.9%)	4 (1.9%)

2－7－5　関係者評価の実施にあたり参考にしているガイドライン等

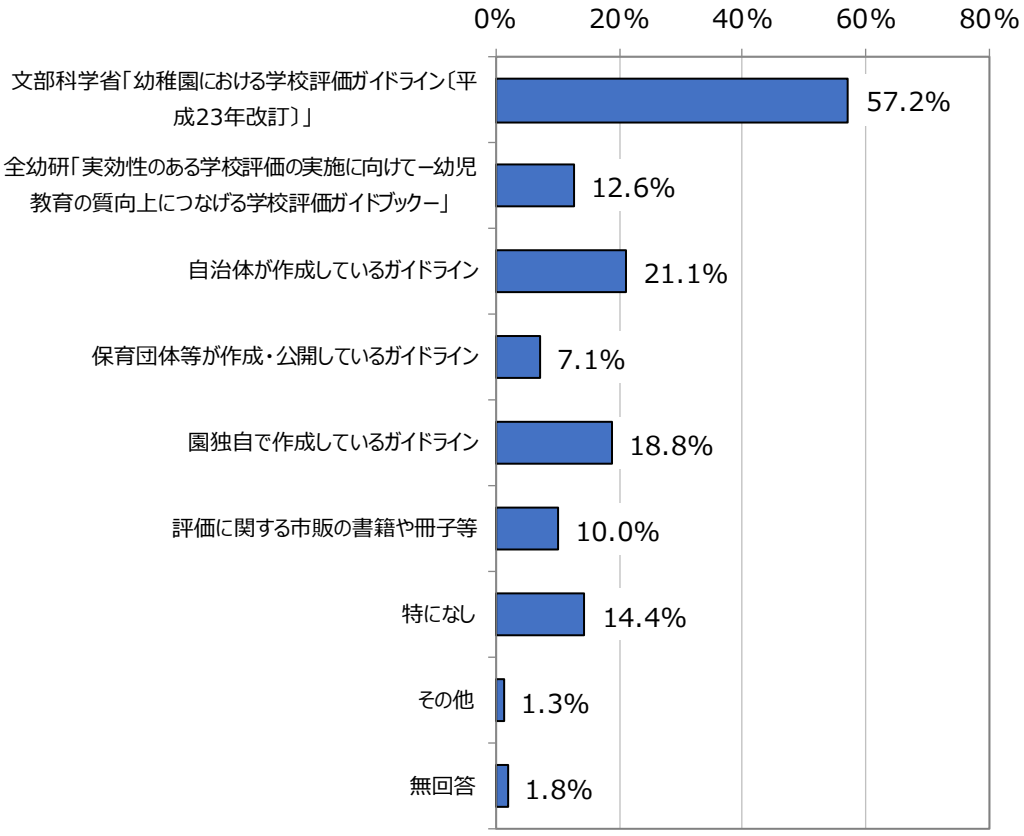
関係者評価の実施にあたり参考にしているガイドライン等について聞いたところ、「文部科学省「幼稚園における学校評価ガイドライン〔平成 23 年改訂〕」」が全体の約 6 割となっている（57.2%）。

設置形態別で見ると、各設置形態ともに、「文部科学省「幼稚園における学校評価ガイドライン〔平成 23 年改訂〕」」を最も活用している。

幼稚園では、「自治体が作成しているガイドライン」の回答割合も高く、2 割を超えており、他の形態よりも 10 ポイント近く高くなっている（24.4%）。

図表 38　関係者評価の実施にあたり参考にしているガイドライン等（関係者評価実施園 n=1,642）

【複数回答】



設置形態×関係者評価の実施にあたり参考にしているガイドライン等【複数回答】

	全体	文部科学省「幼稚園における学校評価ガイドライン〔平成23年改訂〕」	全幼研「実効性のある学校評価の実施に向けてー幼児教育の質向上につなげる学校評価ガイドブックー」	自治体が作成しているガイドライン	保育団体等が作成・公開しているガイドライン	園独自で作成しているガイドライン	評価に関する市販の書籍や冊子等	特になし	その他	無回答
全体	1642 (1.44)	939 (57.2%)	207 (12.6%)	347 (21.1%)	117 (7.1%)	308 (18.8%)	165 (10.0%)	237 (14.4%)	21 (1.3%)	30 (1.8%)
幼稚園	1114 (1.45)	657 (59.0%)	150 (13.5%)	272 (24.4%)	47 (4.2%)	206 (18.5%)	99 (8.9%)	152 (13.6%)	12 (1.1%)	17 (1.5%)
幼保連携型認定こども園	317 (1.45)	152 (47.9%)	38 (12.0%)	51 (16.1%)	46 (14.5%)	59 (18.6%)	47 (14.8%)	49 (15.5%)	7 (2.2%)	12 (3.8%)
幼稚園型認定こども園	211 (1.41)	130 (61.6%)	19 (9.0%)	24 (11.4%)	24 (11.4%)	43 (20.4%)	19 (9.0%)	36 (17.1%)	2 (0.9%)	1 (0.5%)

関係者評価を実施するにあたり参考にしているガイドライン等（その他抜粋）

・教育評価
・教育委員会指導主事作成のアンケート
・近隣の学校との合同の評価設定による指標
・市の指導監査の指導ライン

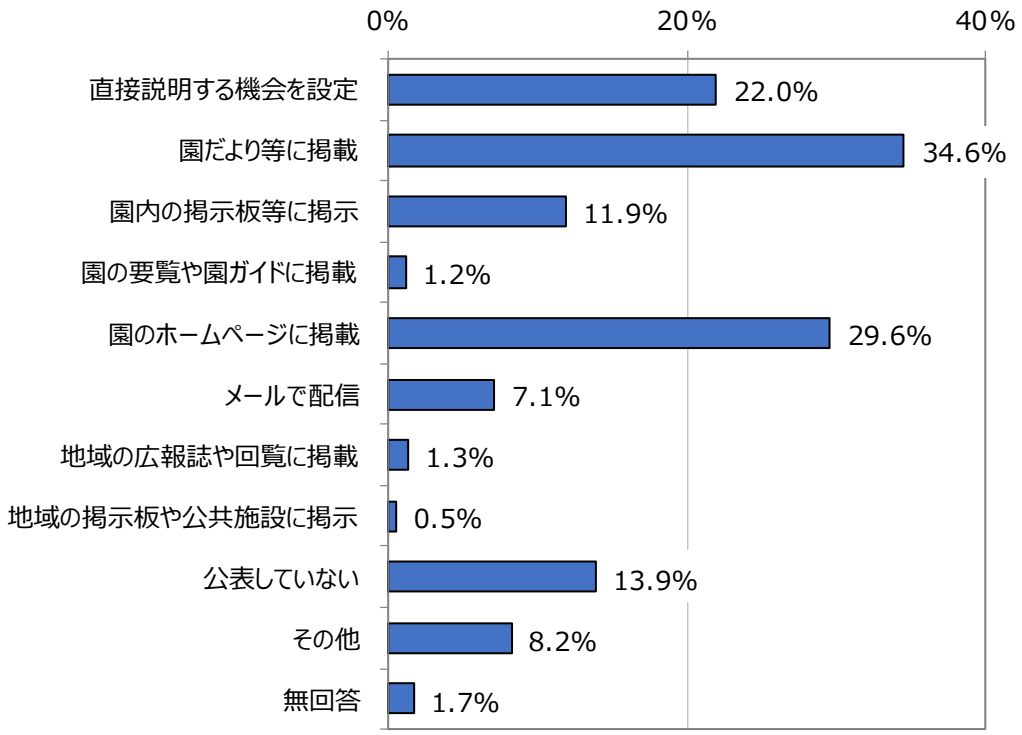
2－7－6　関係者評価結果の公表方法

関係者評価結果の公表方法については、「園だより等に掲載（34.6%）」、「園のホームページに掲載（29.6%）」、「直接説明する機会を設定（22.0%）」と続く。

設置形態別で見ると、幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園では、「園のホームページに掲載」が割合トップとなっている（幼保連携型：34.7%、幼稚園型：36.0%）。また、「直接説明する機会を設定」において、幼稚園の回答割合がほかの形態よりも高い。

図表 39　関係者評価結果の公表方法（関係者評価実施園 n=1,642）

【複数回答】



設置形態×関係者評価結果の公表方法【複数回答】

	全体	直接説明する機会を設定	園だより等に掲載	園内の掲示板等に掲示	園の要覧や園ガイドに掲載	園のホームページに掲載	メールで配信	地域の広報誌や回覧に掲載	地域の掲示板や公共施設に掲示	公表していない	その他	無回答
全体	1642 (1.32)	361 (22.0%)	568 (34.6%)	195 (11.9%)	19 (1.2%)	486 (29.6%)	117 (7.1%)	22 (1.3%)	9 (0.5%)	228 (13.9%)	135 (8.2%)	28 (1.7%)
幼稚園	1114 (1.32)	279 (25.0%)	419 (37.6%)	112 (10.1%)	12 (1.1%)	300 (26.9%)	61 (5.5%)	15 (1.3%)	2 (0.2%)	159 (14.3%)	99 (8.9%)	12 (1.1%)
幼保連携型認定こども園	317 (1.36)	50 (15.8%)	83 (26.2%)	67 (21.1%)	7 (2.2%)	110 (34.7%)	34 (10.7%)	5 (1.6%)	6 (1.9%)	37 (11.7%)	22 (6.9%)	11 (3.5%)
幼稚園型認定こども園	211 (1.26)	32 (15.2%)	66 (31.3%)	16 (7.6%)	0 (0.0%)	76 (36.0%)	22 (10.4%)	2 (0.9%)	1 (0.5%)	32 (15.2%)	14 (6.6%)	5 (2.4%)

関係者評価結果の公表方法（その他抜粋）

園で公表	・評議員会で周知 ・内容の一部を手紙で通知する ・父母会で公開
外部で公表	・市ホームページに掲載 ・管轄している役所への報告 ・教育委員会の報告

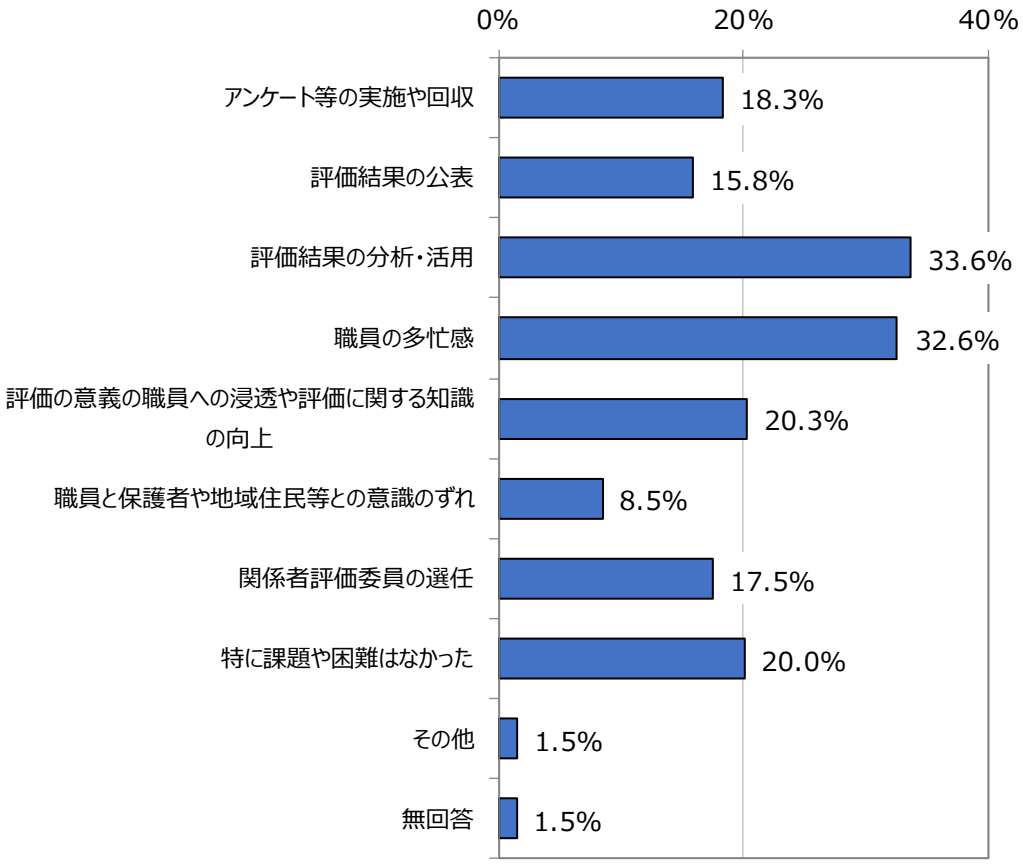
2－7－7　関係者評価の実施に対する課題

関係者評価を実施するにあたっての課題について伺ってみると、「評価結果の分析・活用（33.6%）」、「職員の多忙感（32.6%）」の回答割合がほかの回答よりも 10 ポイント以上高かった。

設置形態別でも「評価結果の分析・活用」、「職員の多忙感」の回答割合が高くなっている。

図表 40　関係者評価の実施に対する課題（関係者評価実施園 n=1,642）

【複数回答】



設置形態×関係者評価の実施に対する課題【複数回答】

	全体	アンケート等の実施や回収	評価結果の公表	評価結果の分析・活用	職員の多忙感	評価の意義の職員への浸透や評価に関する知識の向上	職員と保護者や地域住民等との意識のずれ	関係者評価委員の選任	特に課題や困難はなかった	その他	無回答
全体	1642	300	260	552	535	333	139	287	329	25	24
	(1.70)	(18.3%)	(15.8%)	(33.6%)	(32.6%)	(20.3%)	(8.5%)	(17.5%)	(20.0%)	(1.5%)	(1.5%)
幼稚園	1114	197	184	365	367	217	86	202	239	16	12
	(1.69)	(17.7%)	(16.5%)	(32.8%)	(32.9%)	(19.5%)	(7.7%)	(18.1%)	(21.5%)	(1.4%)	(1.1%)
幼保連携型認定こども園	317	61	41	114	103	70	40	42	50	5	10
	(1.69)	(19.2%)	(12.9%)	(36.0%)	(32.5%)	(22.1%)	(12.6%)	(13.2%)	(15.8%)	(1.6%)	(3.2%)
幼稚園型認定こども園	211	42	35	73	65	46	13	43	40	4	2
	(1.72)	(19.9%)	(16.6%)	(34.6%)	(30.8%)	(21.8%)	(6.2%)	(20.4%)	(19.0%)	(1.9%)	(0.9%)

関係者評価を実施するにあたっての課題（その他抜粋）

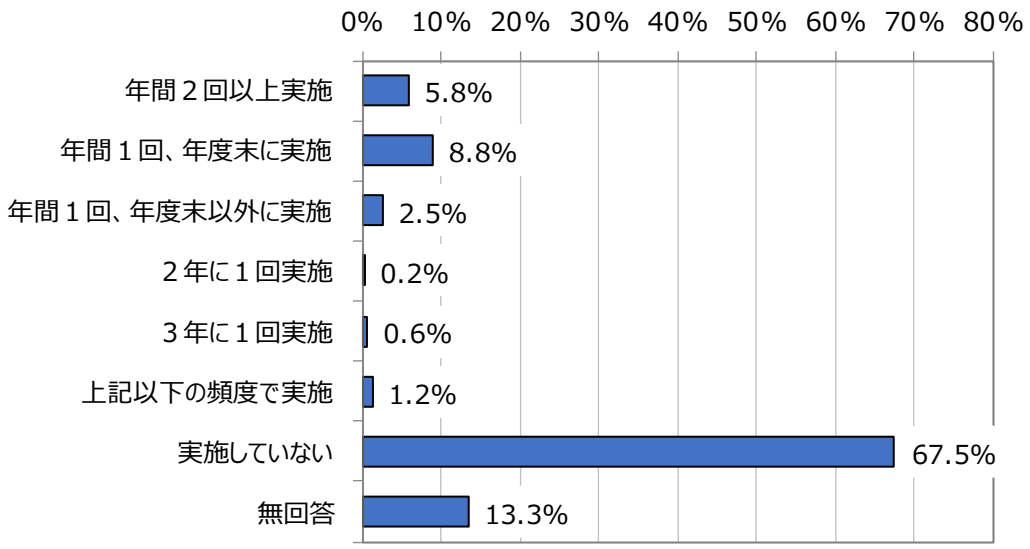
・「その道」の確実なプロではない状態でよしあしの判断をすることの困難さ
・法人任せではなく、園独自の関係者評価を実施できるようにしたい
・加算を受けるための書類の整備
・時間の確保

2－8　学校評価（第三者評価）の実施状況

2－8－1　第三者評価の実施頻度

第三者評価の実施頻度は、全体の約 7 割が「実施していない」と回答している（67.5%）。

図表 41　第三者評価の実施頻度（幼稚園・幼稚園型認定こども園 n=2,057）



設置形態×第三者評価の実施頻度

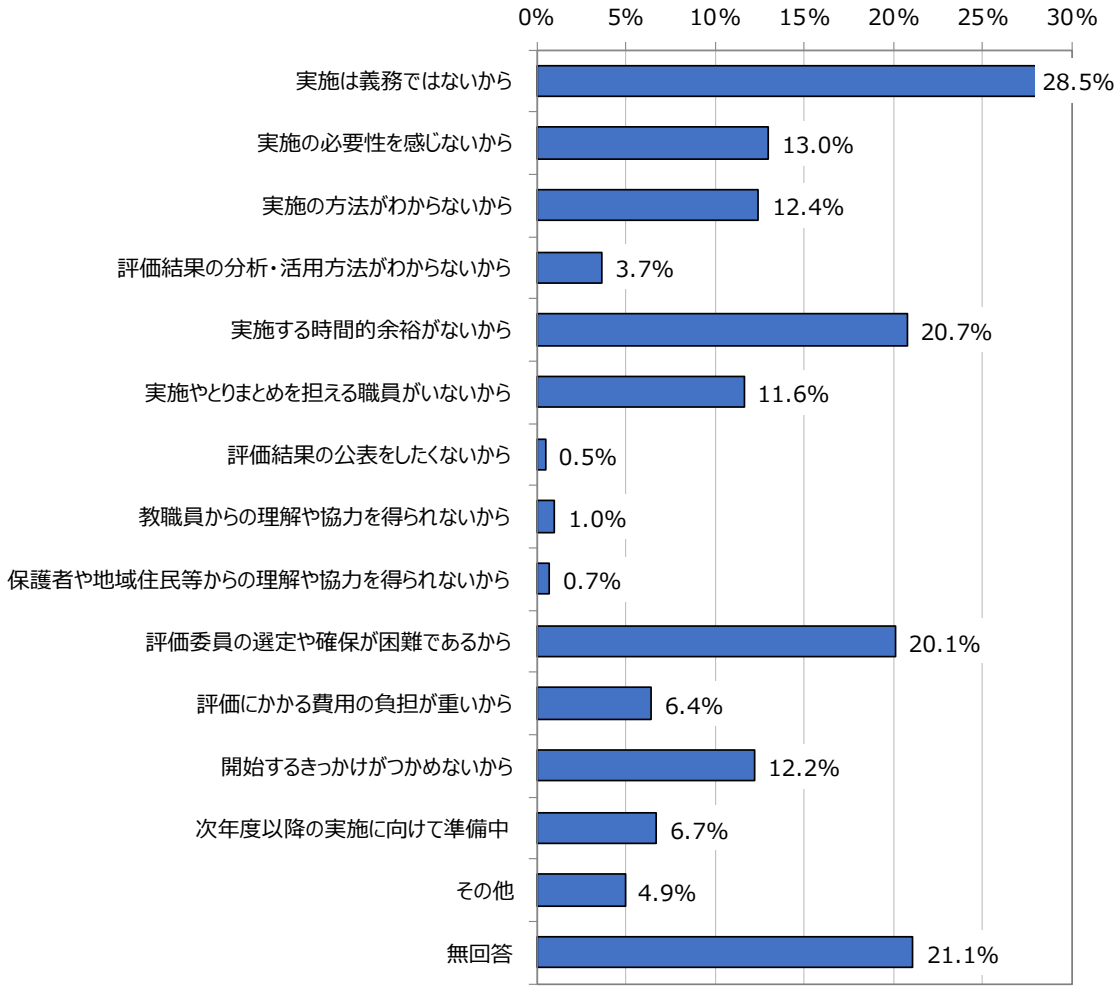
	全体	年間２回以上実施	年間１回、年度末に実施	年間１回、年度末以外に実施	２年に１回実施	３年に１回実施	上記以下の頻度で実施	実施していない	無回答
全体	2057 (100.0%)	119 (5.8%)	182 (8.8%)	52 (2.5%)	4 (0.2%)	12 (0.6%)	25 (1.2%)	1389 (67.5%)	274 (13.3%)
幼稚園	1724 (100.0%)	108 (6.3%)	151 (8.8%)	48 (2.8%)	4 (0.2%)	9 (0.5%)	17 (1.0%)	1154 (66.9%)	233 (13.5%)
幼稚園型認定こども園	333 (100.0%)	11 (3.3%)	31 (9.3%)	4 (1.2%)	0 (0.0%)	3 (0.9%)	8 (2.4%)	235 (70.6%)	41 (12.3%)

2－8－2 第三者評価を実施していない理由

第三者評価を実施していない理由について聞いたところ、無回答を除き「実施は義務ではないから（28.5%）」、「実施する時間的余裕がないから（20.7%）」、「評価委員の選定や確保が困難であるから（20.1%）」の順で割合が高かった。

図表 42　第三者評価を実施していない理由（第三者評価未実施・無回答園 n=1,663）

【複数回答】



設置形態×第三者評価を実施していない理由【複数回答】

	全体	実施は義務ではないから	実施の必要性を感じないから	実施の方法がわからないから	評価結果の分析・活用方法がわからないから	実施する時間的余裕がないから	実施やとりまとめを担える職員がいないから	評価結果の公表をしたくないから	教職員からの理解や協力を得られないから	保護者や地域住民等からの理解や協力を得られないから	評価委員の選定や確保が困難であるから	評価にかかる費用の負担が重いから	開始するきっかけがつかめないから	次年度以降の実施に向けて準備中	その他	無回答
全体	1663 (1.64)	474 (28.5%)	216 (13.0%)	207 (12.4%)	61 (3.7%)	345 (20.7%)	193 (11.6%)	8 (0.5%)	17 (1.0%)	12 (0.7%)	334 (20.1%)	107 (6.4%)	203 (12.2%)	112 (6.7%)	82 (4.9%)	351 (21.1%)
幼稚園	1387 (1.62)	407 (29.3%)	184 (13.3%)	179 (12.9%)	50 (3.6%)	284 (20.5%)	163 (11.8%)	8 (0.6%)	13 (0.9%)	10 (0.7%)	265 (19.1%)	74 (5.3%)	171 (12.3%)	82 (5.9%)	71 (5.1%)	292 (21.1%)
幼稚園型認定こども園	276 (1.70)	67 (24.3%)	32 (11.6%)	28 (10.1%)	11 (4.0%)	61 (22.1%)	30 (10.9%)	0 (0.0%)	4 (1.4%)	2 (0.7%)	69 (25.0%)	33 (12.0%)	32 (11.6%)	30 (10.9%)	11 (4.0%)	59 (21.4%)

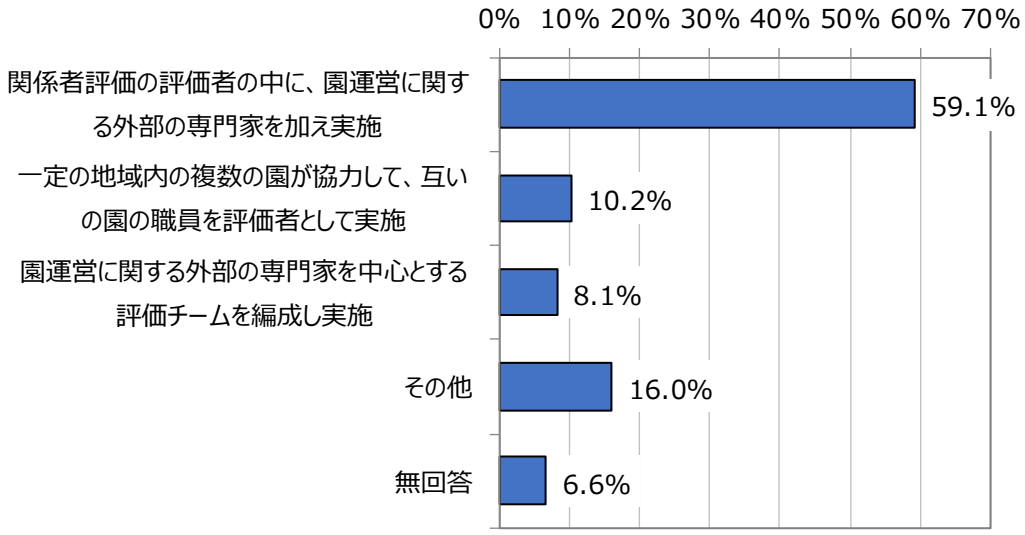
第三者評価を実施していない理由（その他抜粋）

・ESEQ を第三者評価として認識してもらってないので
・できるだけ園を外部に公開しているから
・運営連絡会委員の方は地域関係者評価の対象の方と重なるため
・個人立のため、評価の効果に疑問がある
・公立園のため、市の指示が出ていない
・幼児教育がそもそも現状の第三者評価に馴染まないから

2－8－3　第三者評価の実施体制

第三者評価の実施体制については、約 6 割が「関係者評価の評価者の中に、園運営に関する外部の専門家を加え実施」と回答している。

図表 43　第三者評価の実施体制（第三者評価実施園 n=394）



設置形態×第三者評価の実施体制

	全体	関係者評価の評価者の中に、園運営に関する外部の専門家を加え実施	一定の地域内の複数の園が協力して、互いの園の職員を評価者として実施	園運営に関する外部の専門家を中心とする評価チームを編成し実施	その他	無回答
全体	394 (100.0%)	233 (59.1%)	40 (10.2%)	32 (8.1%)	63 (16.0%)	26 (6.6%)
幼稚園	337 (100.0%)	192 (57.0%)	36 (10.7%)	27 (8.0%)	59 (17.5%)	23 (6.8%)
幼稚園型認定こども園	57 (100.0%)	41 (71.9%)	4 (7.0%)	5 (8.8%)	4 (7.0%)	3 (5.3%)

第三者評価の実施体制（その他抜粋）

・教育職経験者・保護者役員経験者で編成
・ISO9001 国際環境認証機構によるサーベイランス・更新審査
・同じ地域の小学校。中学校幼稚園の委員が一堂に会し実施し各園校の取り組みを評価している

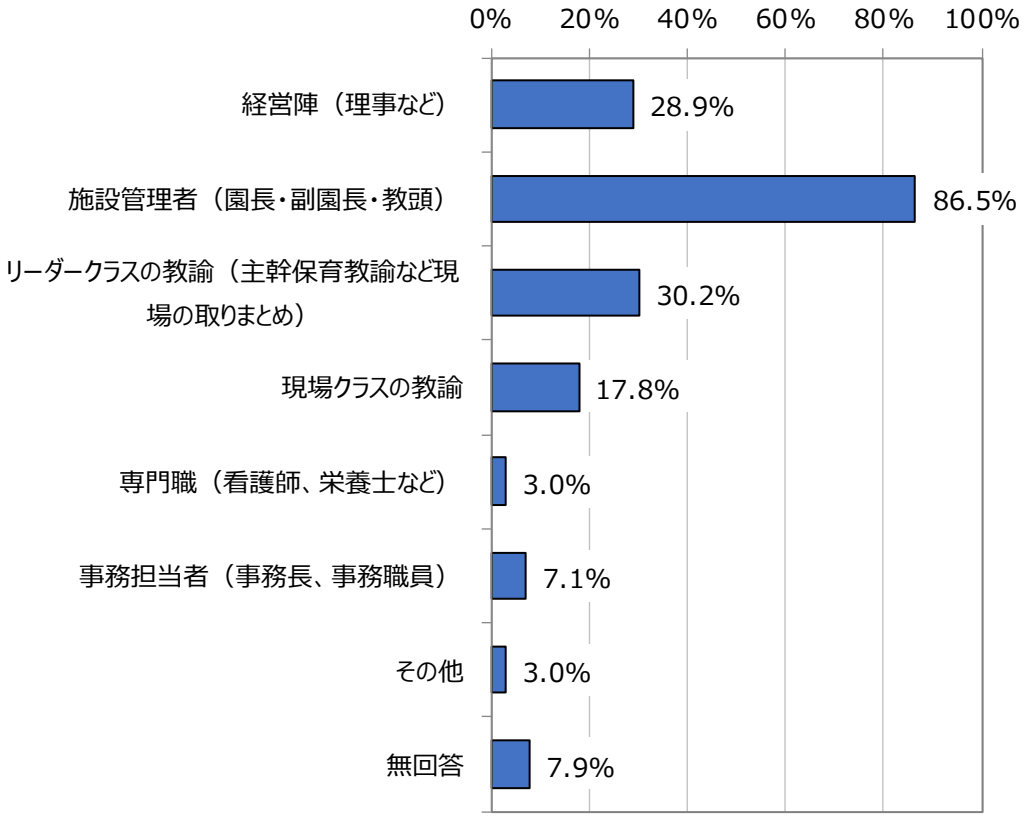
2－8－4　第三者評価で項目・指標の策定に関わった職員

第三者評価の項目・指標の策定に関わった職員では８割以上が「施設管理者」と回答している。

設置形態別でも、最多は「施設管理者」となっているが、次点では幼稚園が「リーダークラスの教諭（30.9%）」、幼稚園型認定こども園が「経営陣（50.9%）」となっている。

図表 44　第三者評価で項目・指標の策定に関わった職員（第三者評価実施園 n=394）

【複数回答】



設置形態×第三者評価で項目・指標の策定に関わった職員【複数回答】

	全体	経営陣（理事など）	施設管理者（園長・副園長・教頭）	リーダークラスの教諭（主幹保育教諭など現場の取りまとめ）	現場クラスの教諭	専門職（看護師、栄養士など）	事務担当者（事務長、事務職員）	その他	無回答
全体	394 (1.85)	114 (28.9%)	341 (86.5%)	119 (30.2%)	70 (17.8%)	12 (3.0%)	28 (7.1%)	12 (3.0%)	31 (7.9%)
幼稚園	337 (1.82)	85 (25.2%)	292 (86.6%)	104 (30.9%)	59 (17.5%)	11 (3.3%)	25 (7.4%)	12 (3.6%)	26 (7.7%)
幼稚園型認定こども園	57 (1.98)	29 (50.9%)	49 (86.0%)	15 (26.3%)	11 (19.3%)	1 (1.8%)	3 (5.3%)	0 (0.0%)	5 (8.8%)

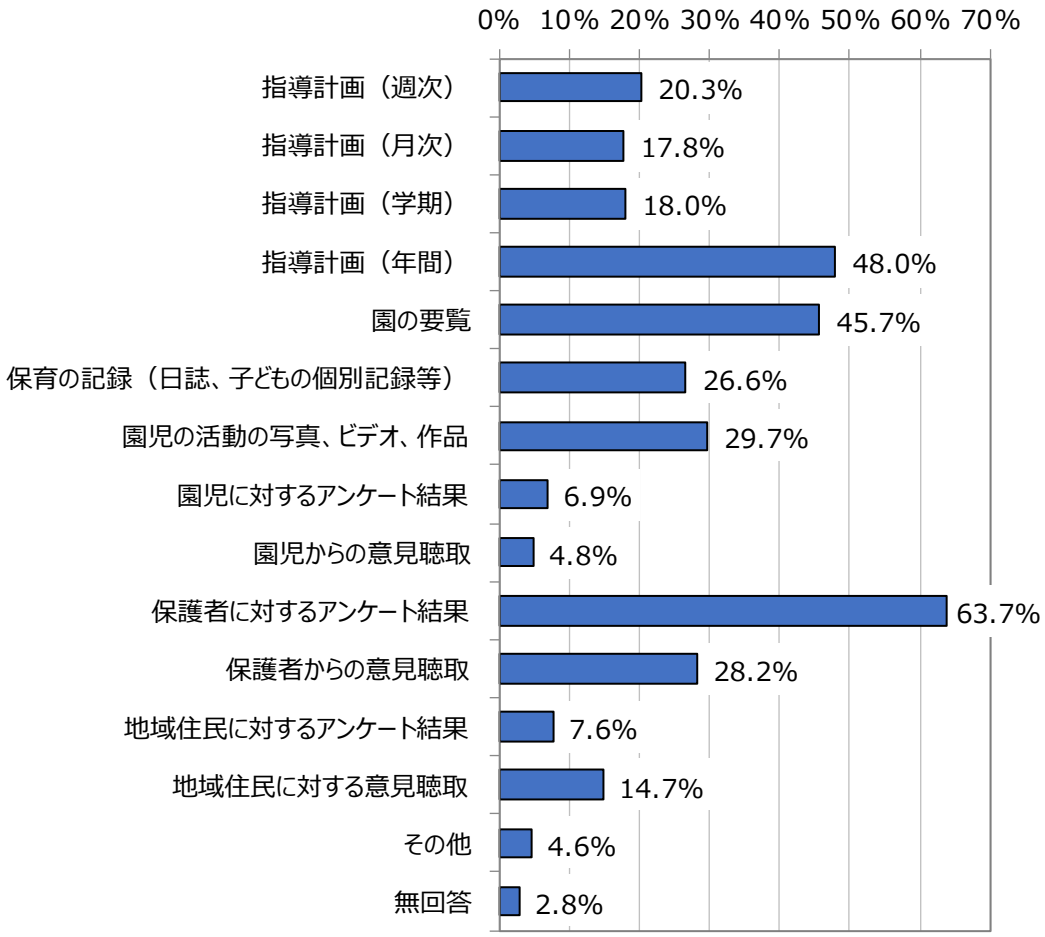
2−8−5　第三者評価で評価指標としている資料

第三者評価で評価指標としている資料について聞いたところ、6割以上が「保護者に対するアンケート結果」と回答した（63.6%）。

設置形態別で見てみると、上位の回答は2形態ともに同様の傾向であるが、「保育の記録」の活用は幼稚園型認定こども園のほうが割合が高く（31.6%）、「園児の活動の写真、ビデオ、作品」の活用は幼稚園のほうが割合が高い（31.8%）。

図表 45　第三者評価で評価指標としている資料（第三者評価実施園 n=394）

【複数回答】



設置形態×第三者評価で評価指標としている資料【複数回答】

	全体	指導計画（週次）	指導計画（月次）	指導計画（学期）	指導計画（年間）	園の要覧	保育の記録（日誌、子どもの個別記録等）	園児の活動の写真、ビデオ、作品	園児に対するアンケート結果	園児からの意見聴取	保護者に対するアンケート結果	保護者からの意見聴取	地域住民に対するアンケート結果	地域住民に対する意見聴取	その他	無回答
全体	394	80	70	71	189	180	105	117	27	19	251	111	30	58	18	11
	(3.39)	(20.3%)	(17.8%)	(18.0%)	(48.0%)	(45.7%)	(26.6%)	(29.7%)	(6.9%)	(4.8%)	(63.7%)	(28.2%)	(7.6%)	(14.7%)	(4.6%)	(2.8%)
幼稚園	337	70	61	64	161	152	87	107	22	17	223	96	28	54	15	7
	(3.45)	(20.8%)	(18.1%)	(19.0%)	(47.8%)	(45.1%)	(25.8%)	(31.8%)	(6.5%)	(5.0%)	(66.2%)	(28.5%)	(8.3%)	(16.0%)	(4.5%)	(2.1%)
幼稚園型認定こども園	57	10	9	7	28	28	18	10	5	2	28	15	2	4	3	4
	(3.04)	(17.5%)	(15.8%)	(12.3%)	(49.1%)	(49.1%)	(31.6%)	(17.5%)	(8.8%)	(3.5%)	(49.1%)	(26.3%)	(3.5%)	(7.0%)	(5.3%)	(7.0%)

第三者評価で評価指標としている資料（その他抜粋）

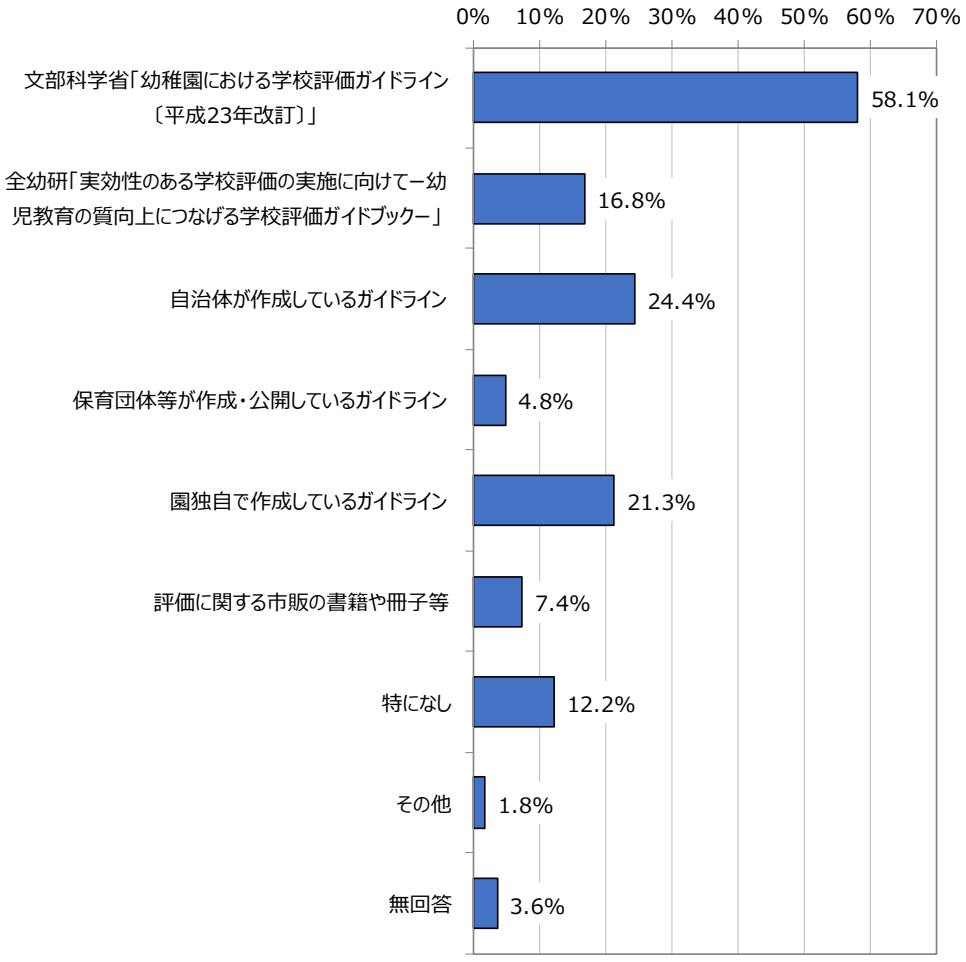
・市の学校教育ビジョン ・園独自のまなびフェスト ・職員からのアンケート結果

2－8－6　第三者評価の実施にあたり参考にしているガイドライン等

第三者評価の実施にあたり参考にしているガイドライン等では、「文部科学省「幼稚園における学校評価ガイドライン〔平成 23 年改訂〕」」の回答割合が 6 割近くとなっている（58.1%）。

図表 46　第三者評価の実施にあたり参考にしているガイドライン等（第三者評価実施園 n=394）

【複数回答】



設置形態×第三者評価の実施にあたり参考にしているガイドライン等【複数回答】

	全体	文部科学省「幼稚園における学校評価ガイドライン〔平成23年改訂〕」	全幼研「実効性のある学校評価の実施に向けて－幼児教育の質向上につなげる学校評価ガイドブック－」	自治体が作成しているガイドライン	保育団体等が作成・公開しているガイドライン	園独自で作成しているガイドライン	評価に関する市販の書籍や冊子等	特になし	その他	無回答
全体	394 (1.50)	229 (58.1%)	66 (16.8%)	96 (24.4%)	19 (4.8%)	84 (21.3%)	29 (7.4%)	48 (12.2%)	7 (1.8%)	14 (3.6%)
幼稚園	337 (1.50)	191 (56.7%)	59 (17.5%)	88 (26.1%)	13 (3.9%)	70 (20.8%)	24 (7.1%)	43 (12.8%)	6 (1.8%)	11 (3.3%)
幼稚園型認定こども園	57 (1.53)	38 (66.7%)	7 (12.3%)	8 (14.0%)	6 (10.5%)	14 (24.6%)	5 (8.8%)	5 (8.8%)	1 (1.8%)	3 (5.3%)

第三者評価を実施するにあたり参考にしているガイドライン等（その他抜粋）

・ECEQ®を受けます
・ISO9001 で求められている規定類

2－8－7　第三者評価結果の公表方法

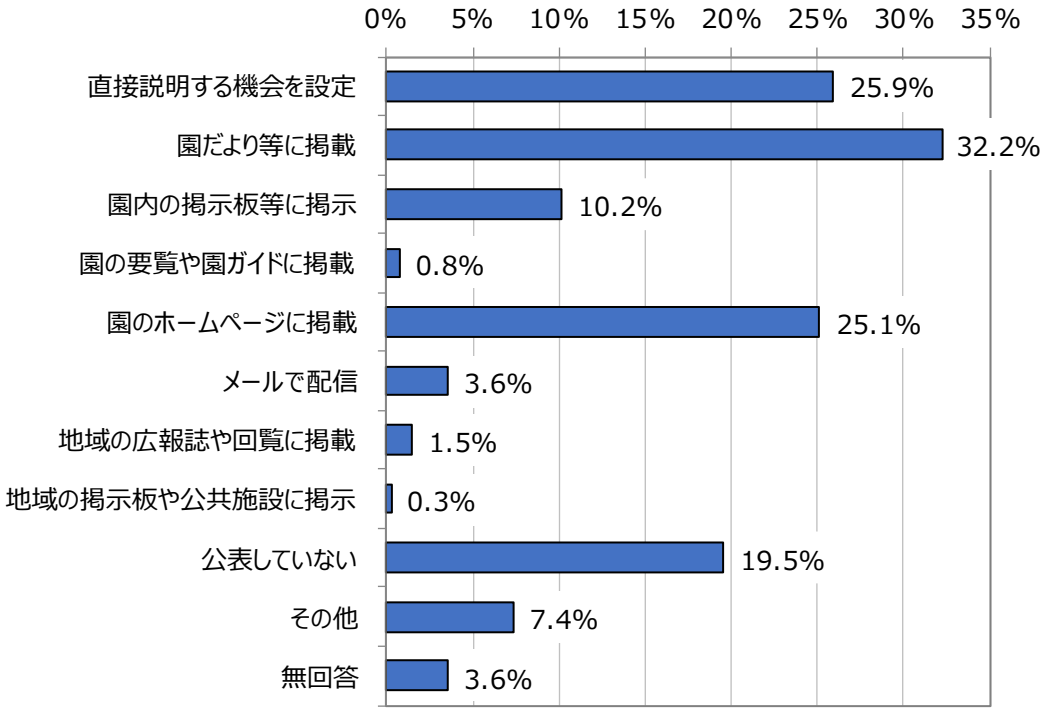
第三者評価結果の公表方法について伺ってみると、「園だより等に掲載（32.3%）」、「直接説明する機会を設定（26.0%）」、「園のホームページに掲載（25.5%）」の順で回答割合が高かった。

設置形態別で見てみると、幼稚園では、「園だより等に掲載」の次に「直接説明する機会を設定（28.2%）」の回答割合が高い。

幼稚園型認定こども園では「直接説明する機会を設定」は 12.3%に留まり、「園のホームページに掲載（28.1%）」や「メールで配信（7.0%）」で幼稚園より回答割合が高くなっている。

図表 47　第三者評価結果の公表方法（第三者評価実施園 n=394）

【複数回答】



設置形態×第三者評価結果の公表方法【複数回答】

	全体	直接説明する機会を設定	園だより等に掲載	園内の掲示板等に掲示	園の要覧や園ガイドに掲載	園のホームページに掲載	メールで配信	地域の広報誌や回覧に掲載	地域の掲示板や公共施設に掲示	公表していない	その他	無回答
全体	394	102	127	40	3	99	14	6	1	77	29	14
	(1.30)	(25.9%)	(32.2%)	(10.2%)	(0.8%)	(25.1%)	(3.6%)	(1.5%)	(0.3%)	(19.5%)	(7.4%)	(3.6%)
幼稚園	337	95	105	34	3	83	10	5	1	64	26	12
	(1.30)	(28.2%)	(31.2%)	(10.1%)	(0.9%)	(24.6%)	(3.0%)	(1.5%)	(0.3%)	(19.0%)	(7.7%)	(3.6%)
幼稚園型認定こども園	57	7	22	6	0	16	4	1	0	13	3	2
	(1.30)	(12.3%)	(38.6%)	(10.5%)	(0.0%)	(28.1%)	(7.0%)	(1.8%)	(0.0%)	(22.8%)	(5.3%)	(3.5%)

第三者評価結果の公表方法（その他抜粋）

・学校運営協議会の場で説明する
・教育委員会へ結果を送付している
・市役所に提出

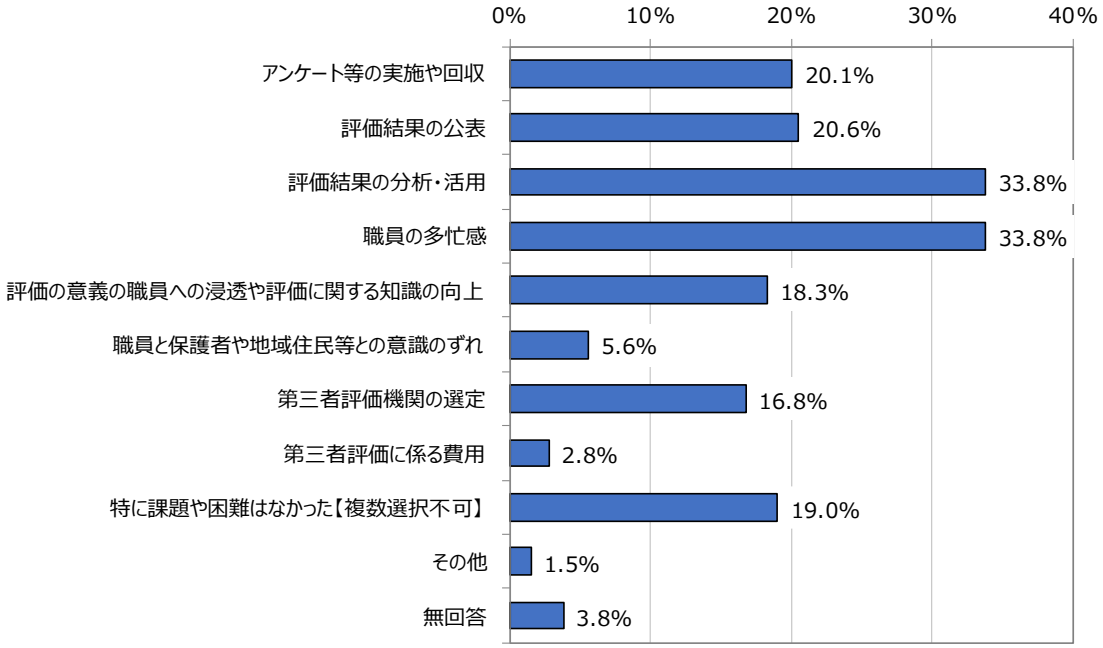
2－8－8　第三者評価の実施に対する課題

第三者評価を実施するにあたっての課題について伺うと、「評価結果の分析・活用（34.1%）」、「職員の多忙感（33.8%）」の順で回答割合が高かった。

設置形態別でも同様の傾向であるが、幼稚園では「評価結果の分析・活用」、「職員の多忙感」がともに 3 割を超えている。

図表 48　第三者評価の実施に対する課題（第三者評価実施園 n=394）

【複数回答】



設置形態×第三者評価の実施に対する課題【複数回答】

	全体	アンケート等の実施や回収	評価結果の公表	評価結果の分析・活用	職員の多忙感	評価の意義の職員への浸透や評価に関する知識の向上	職員と保護者や地域住民等との意識のずれ	第三者評価機関の選定	第三者評価に係る費用	特に課題や困難はなかった【複数選択不可】	その他	無回答
全体	394 (1.76)	79 (20.1%)	81 (20.6%)	133 (33.8%)	133 (33.8%)	72 (18.3%)	22 (5.6%)	66 (16.8%)	11 (2.8%)	75 (19.0%)	6 (1.5%)	15 (3.8%)
幼稚園	337 (1.80)	68 (20.2%)	69 (20.5%)	119 (35.3%)	117 (34.7%)	61 (18.1%)	20 (5.9%)	58 (17.2%)	9 (2.7%)	67 (19.9%)	6 (1.8%)	13 (3.9%)
幼稚園型認定こども園	57 (1.51)	11 (19.3%)	12 (21.1%)	14 (24.6%)	16 (28.1%)	11 (19.3%)	2 (3.5%)	8 (14.0%)	2 (3.5%)	8 (14.0%)	0 (0.0%)	2 (3.5%)

第三者評価を実施するにあたっての課題（その他抜粋）

人員に関わる課題	・数値化できない保育の内容である為、大きな問題・特徴がない限り、細かい評価が困難である ・評価委員の確保 ・有効性、公平性

第3章 若手保育者へのアンケート調査

3－1　調査概要

3－1－1 調査対象

全国の幼児教育施設に勤務する 20 代～30 代の保育者を対象にアンケート調査を実施した。対象はモニター会社の保有するモニター500 人とした。

3－1－2　調査方法

配布方法：WEB モニター会社より、調査対象に該当するモニターにアンケート調査の案内を配布

回収方法：インターネットから回答

なお、本アンケート調査では、実際の保育士・幼稚園教諭等の人数に比例し、回答者における保育士の割合が高いため、結果をみるときには注意が必要である。[1]勤務している施設別の結果についてはクロス集計を参照のこと。

3－1－3　調査時期

令和 6 年 1 月 24 日～令和 6 年 1 月 29 日

3－1－4　回収状況

500 件

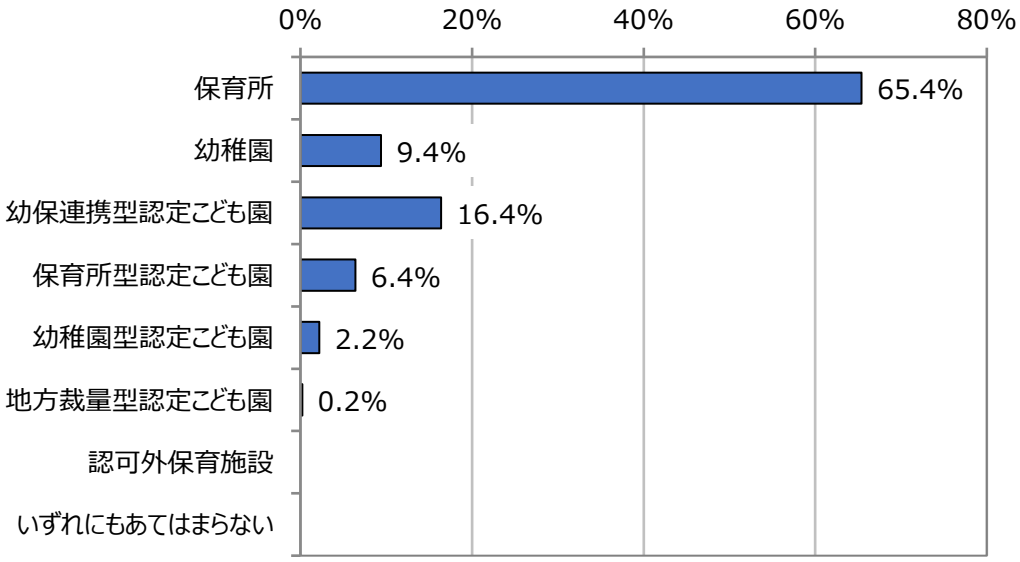
---

[1]保育士（従事者数）は、約 645,000 人（令和 2 年度）、幼稚園教諭は 85,342 人（令和 5 年度）。
保育士の登録者数と従事者数の推移（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/stf/wp/hakusyo/kousei/21/backdata/01-01-02-64.html
令和 5 年度学校基本調査結果（文部科学省）
https://www.mext.go.jp/content/20230823-mxt_chousa01-000031377_001.pdf

3－2　基本属性

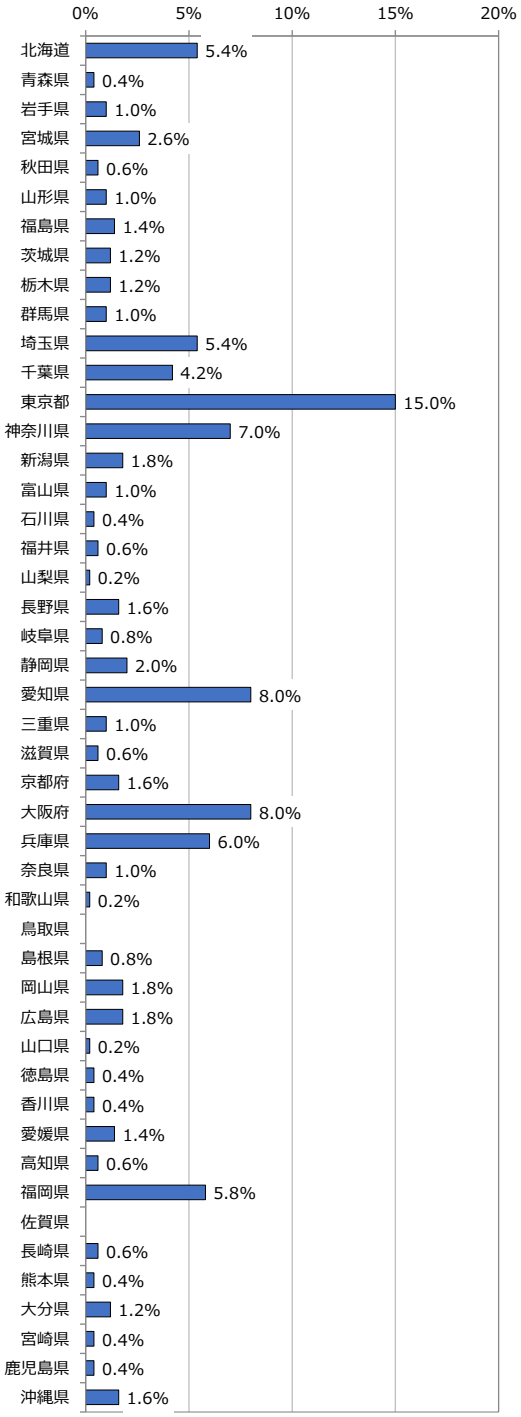
3－2－1　勤務している施設の形態

図表 49　勤務している施設の形態（n=500）



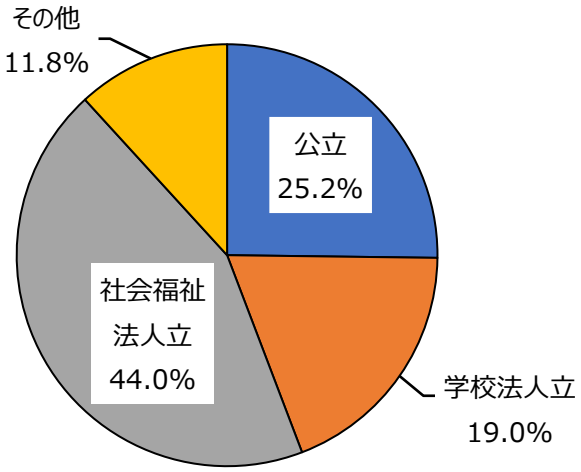
3－2－2 勤務している施設の所在地

図表 50　勤務している施設の所在地（n=500）



3－2－3　勤務している施設の運営主体

図表 51　勤務している施設の運営主体（n=500）

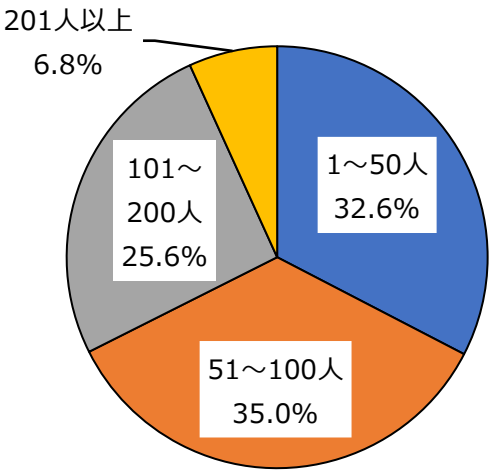


勤務している施設×運営主体

	全体	公立	学校法人立	社会福祉法人立	その他
全体	500	126	95	220	59
	(100.0%)	(25.2%)	(19.0%)	(44.0%)	(11.8%)
保育所	327	100	21	153	53
	(100.0%)	(30.6%)	(6.4%)	(46.8%)	(16.2%)
幼稚園	47	7	33	4	3
	(100.0%)	(14.9%)	(70.2%)	(8.5%)	(6.4%)
幼保連携型認定こども園	82	13	28	41	0
	(100.0%)	(15.9%)	(34.1%)	(50.0%)	(0.0%)
保育所型認定こども園	32	5	3	21	3
	(100.0%)	(15.6%)	(9.4%)	(65.6%)	(9.4%)
幼稚園型認定こども園	11	1	10	0	0
	(100.0%)	(9.1%)	(90.9%)	(0.0%)	(0.0%)
地方裁量型認定こども園	1	0	0	1	0
	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)

3－2－4　勤務している施設の在席園児数（利用児童数）

図表 52　勤務している施設の在席園児数（利用児童数）（n=500）



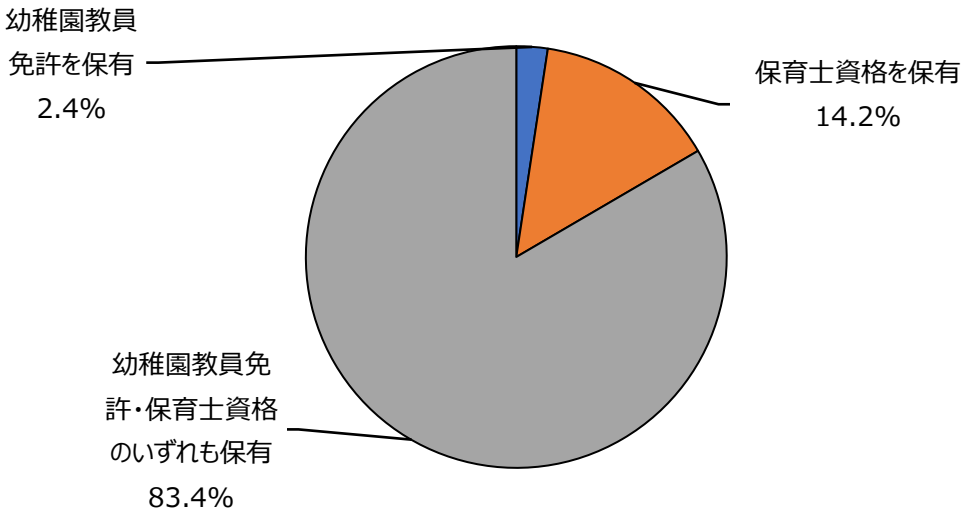
勤務している施設×在席園児数（利用児童数）

	全体	1～50人	51～100人	101～200人	201人以上
全体	500	163	175	128	34
	(100.0%)	(32.6%)	(35.0%)	(25.6%)	(6.8%)
保育所	327	123	118	75	11
	(100.0%)	(37.6%)	(36.1%)	(22.9%)	(3.4%)
幼稚園	47	11	12	12	12
	(100.0%)	(23.4%)	(25.5%)	(25.5%)	(25.5%)
幼保連携型認定こども園	82	13	30	30	9
	(100.0%)	(15.9%)	(36.6%)	(36.6%)	(11.0%)
保育所型認定こども園	32	11	10	10	1
	(100.0%)	(34.4%)	(31.3%)	(31.3%)	(3.1%)
幼稚園型認定こども園	11	5	4	1	1
	(100.0%)	(45.5%)	(36.4%)	(9.1%)	(9.1%)
地方裁量型認定こども園	1	0	1	0	0
	(100.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)

3－2－5　保有している免許・資格

全体の 9 割以上が保育士資格を保有し、幼稚園教員免許・保育士資格のいずれも保有している回答者は 8 割となっている。

図表 53　保有している免許・資格（n=500）



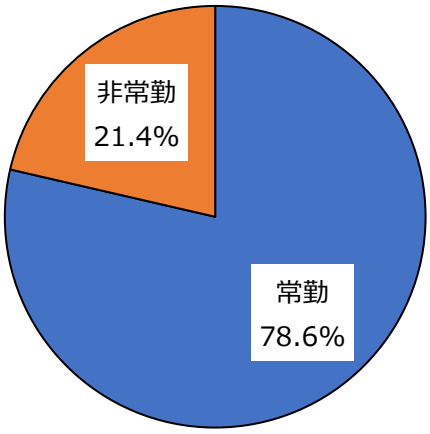
勤務している施設×保有している免許・資格

	全体	幼稚園教員免許を保有	保育士資格を保有	幼稚園教員免許・保育士資格のいずれも保有
全体	500	12	71	417
	(100.0%)	(2.4%)	(14.2%)	(83.4%)
保育所	327	3	61	263
	(100.0%)	(0.9%)	(18.7%)	(80.4%)
幼稚園	47	6	1	40
	(100.0%)	(12.8%)	(2.1%)	(85.1%)
幼保連携型認定こども園	82	2	4	76
	(100.0%)	(2.4%)	(4.9%)	(92.7%)
保育所型認定こども園	32	0	5	27
	(100.0%)	(0.0%)	(15.6%)	(84.4%)
幼稚園型認定こども園	11	1	0	10
	(100.0%)	(9.1%)	(0.0%)	(90.9%)
地方裁量型認定こども園	1	0	0	1
	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)

3－2－6　雇用形態

雇用形態については、全体の約８割が常勤であると回答している。

図表 54　雇用形態（n=500）



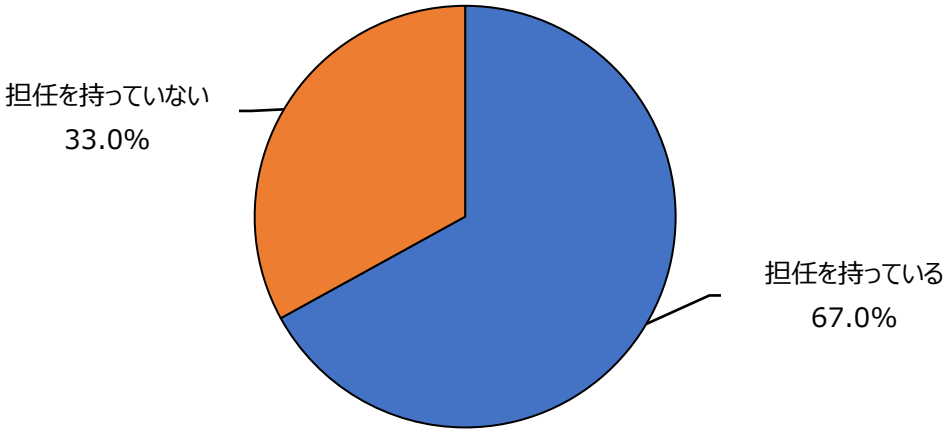
勤務している施設×雇用形態

	全体	常勤	非常勤
全体	500	393	107
	(100.0%)	(78.6%)	(21.4%)
保育所	327	268	59
	(100.0%)	(82.0%)	(18.0%)
幼稚園	47	31	16
	(100.0%)	(66.0%)	(34.0%)
幼保連携型認定こども園	82	64	18
	(100.0%)	(78.0%)	(22.0%)
保育所型認定こども園	32	18	14
	(100.0%)	(56.3%)	(43.8%)
幼稚園型認定こども園	11	11	0
	(100.0%)	(100.0%)	(0.0%)
地方裁量型認定こども園	1	1	0
	(100.0%)	(100.0%)	(0.0%)

3－2－7　クラス担任の有無

全体の約 7 割がクラスの担任であると回答している。

図表 55　クラス担任の有無（n=500）



勤務している施設×クラス担任の有無

	全体	担任を持っている	担任を持っていない
全体	500	335	165
	(100.0%)	(67.0%)	(33.0%)
保育所	327	237	90
	(100.0%)	(72.5%)	(27.5%)
幼稚園	47	26	21
	(100.0%)	(55.3%)	(44.7%)
幼保連携型認定こども園	82	45	37
	(100.0%)	(54.9%)	(45.1%)
保育所型認定こども園	32	18	14
	(100.0%)	(56.3%)	(43.8%)
幼稚園型認定こども園	11	8	3
	(100.0%)	(72.7%)	(27.3%)
地方裁量型認定こども園	1	1	0
	(100.0%)	(100.0%)	(0.0%)

（1）担任をしているクラスの園児数（児童数）

担任をしているクラスの平均園児数は 16.7 人となっている。

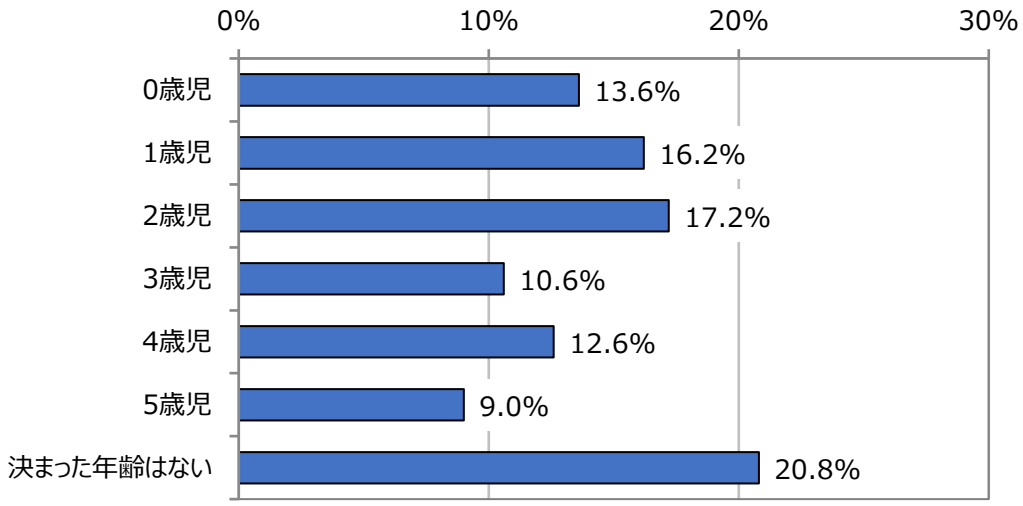
図表 56　担任をしているクラスの園児数（児童数）（回答数=335）

合計	5608
平均	16.74029851
最大	44
最小	1
回答件数	335

3－2－8　主に担当している園児（児童）の年齢

主に担当している園児の年齢を尋ねると、「決まった年齢はない(20.8%)」、「2 歳児（17.2%）」、「1 歳児（16.2%）」の順で回答割合が高かった。

図表 57　主に担当している園児（児童）の年齢（n=500）



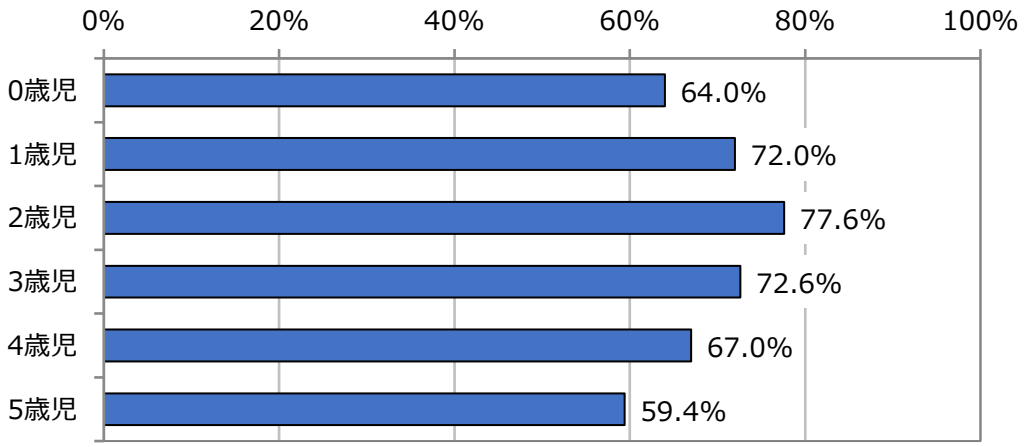
勤務している施設×主に担当している園児（児童）の年齢

	全体	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	決まった年齢はない
全体	500	68	81	86	53	63	45	104
	(100.0%)	(13.6%)	(16.2%)	(17.2%)	(10.6%)	(12.6%)	(9.0%)	(20.8%)
保育所	327	51	61	66	31	32	25	61
	(100.0%)	(15.6%)	(18.7%)	(20.2%)	(9.5%)	(9.8%)	(7.6%)	(18.7%)
幼稚園	47	0	1	6	6	14	11	9
	(100.0%)	(0.0%)	(2.1%)	(12.8%)	(12.8%)	(29.8%)	(23.4%)	(19.1%)
幼保連携型認定こども園	82	9	11	11	11	12	5	23
	(100.0%)	(11.0%)	(13.4%)	(13.4%)	(13.4%)	(14.6%)	(6.1%)	(28.0%)
保育所型認定こども園	32	5	7	2	3	4	3	8
	(100.0%)	(15.6%)	(21.9%)	(6.3%)	(9.4%)	(12.5%)	(9.4%)	(25.0%)
幼稚園型認定こども園	11	2	1	1	2	1	1	3
	(100.0%)	(18.2%)	(9.1%)	(9.1%)	(18.2%)	(9.1%)	(9.1%)	(27.3%)
地方裁量型認定こども園	1	1	0	0	0	0	0	0
	(100.0%)	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)

3−2−9　保育を経験したことがある園児（児童）の年齢

保育を経験したことがある園児（児童）の年齢については、どの年齢も約 6 割以上である。

図表 58　保育を経験したことがある園児（児童）の年齢（n=500）【複数回答】



勤務している施設×保育を経験したことがある園児（児童）の年齢【複数回答】

	全体	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
全体	500	320	360	388	363	335	297
	(4.13)	(64.0%)	(72.0%)	(77.6%)	(72.6%)	(67.0%)	(59.4%)
保育所	327	230	258	278	228	204	186
	(4.23)	(70.3%)	(78.9%)	(85.0%)	(69.7%)	(62.4%)	(56.9%)
幼稚園	47	11	10	15	35	37	36
	(3.06)	(23.4%)	(21.3%)	(31.9%)	(74.5%)	(78.7%)	(76.6%)
幼保連携型認定こども園	82	52	61	61	69	63	47
	(4.30)	(63.4%)	(74.4%)	(74.4%)	(84.1%)	(76.8%)	(57.3%)
保育所型認定こども園	32	23	26	28	22	22	21
	(4.44)	(71.9%)	(81.3%)	(87.5%)	(68.8%)	(68.8%)	(65.6%)
幼稚園型認定こども園	11	3	4	5	9	9	7
	(3.36)	(27.3%)	(36.4%)	(45.5%)	(81.8%)	(81.8%)	(63.6%)
地方裁量型認定こども園	1	1	1	1	0	0	0
	(3.00)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)

3－2－10　幼稚園教諭・保育士・保育教諭としての経験年数（通年）

幼稚園教諭・保育士・保育教諭としての経験年数について聞いたところ、平均経験年数は 9.51 年となっている。

図表 59　幼稚園教諭・保育士・保育教諭としての経験年数（通年）（n=500）

合計	4755
平均	9.51
最大	20
最小	1
回答件数	500

勤務している施設×幼稚園教諭・保育士・保育教諭としての経験年数（通年）

	全体	合計	平均	最大	最小
全体	500	4755	9.51	20	1
保育所	327	3041	9.299694	20	1
幼稚園	47	394	8.382979	19	1
幼保連携型認定こども園	82	848	10.34146	20	2
保育所型認定こども園	32	358	11.1875	19	2
幼稚園型認定こども園	11	105	9.545455	20	3
地方裁量型認定こども園	1	9	9	9	9

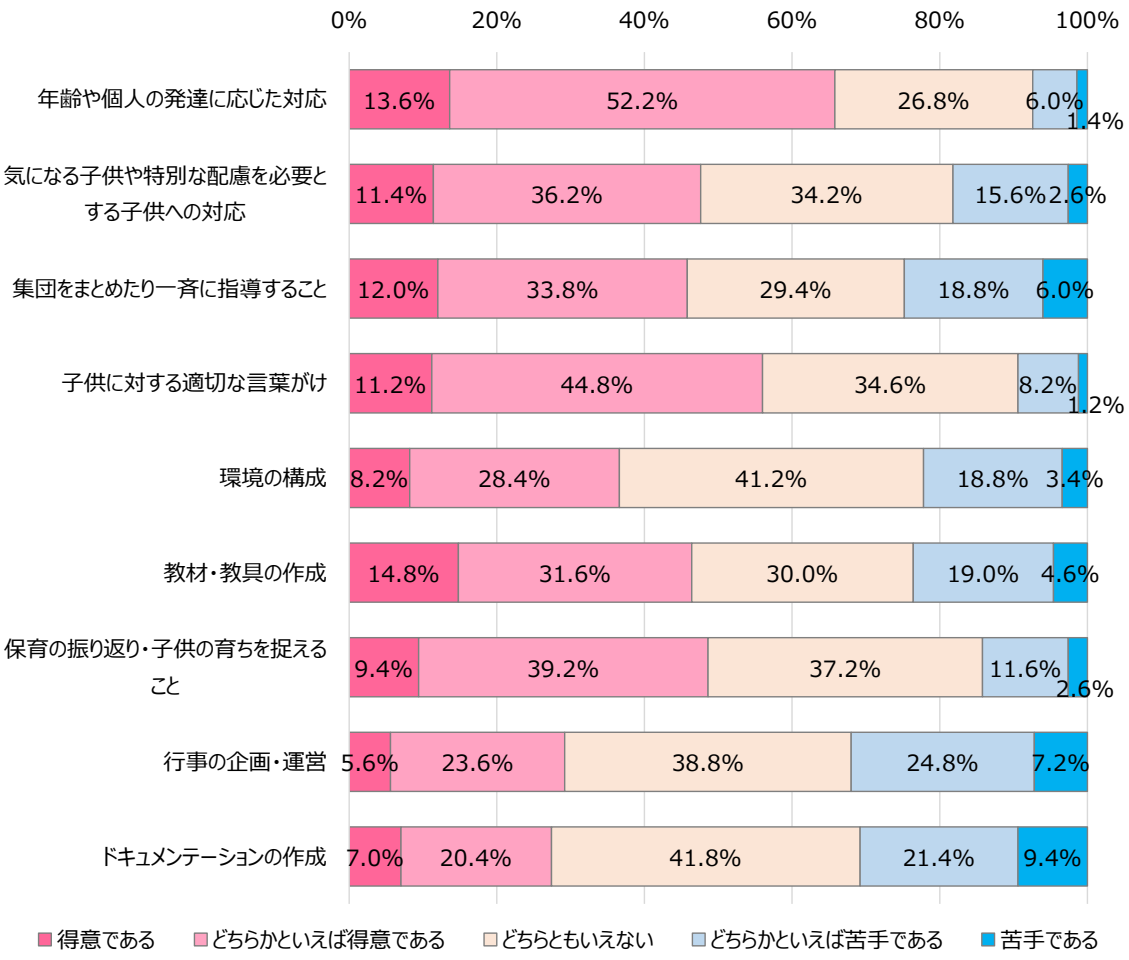
3−3　勤務している施設で取り組んでいる保育業務について

3−3−1　得意な保育業務・苦手な保育業務

得意・苦手な保育業務について聞いたところ、回答者の 6 割超が「年齢や個人の発達に応じた対応」が得意であると回答している（得意である 13.6%＋どちらかといえば得意である 52.2%）。次点では「子供に対する適切な言葉がけ」となっている（得意である 11.2%＋どちらかといえば得意である 44.8%）。

苦手な業務では、「行事の企画・運営」がトップとなっており（どちらかといえば苦手である 24.8%＋苦手である 7.2%）、次点で「ドキュメンテーションの作成」となっている（どちらかといえば苦手である 21.4%＋苦手である 9.4%）。

図表 60　得意な・苦手な保育業務（n=500）

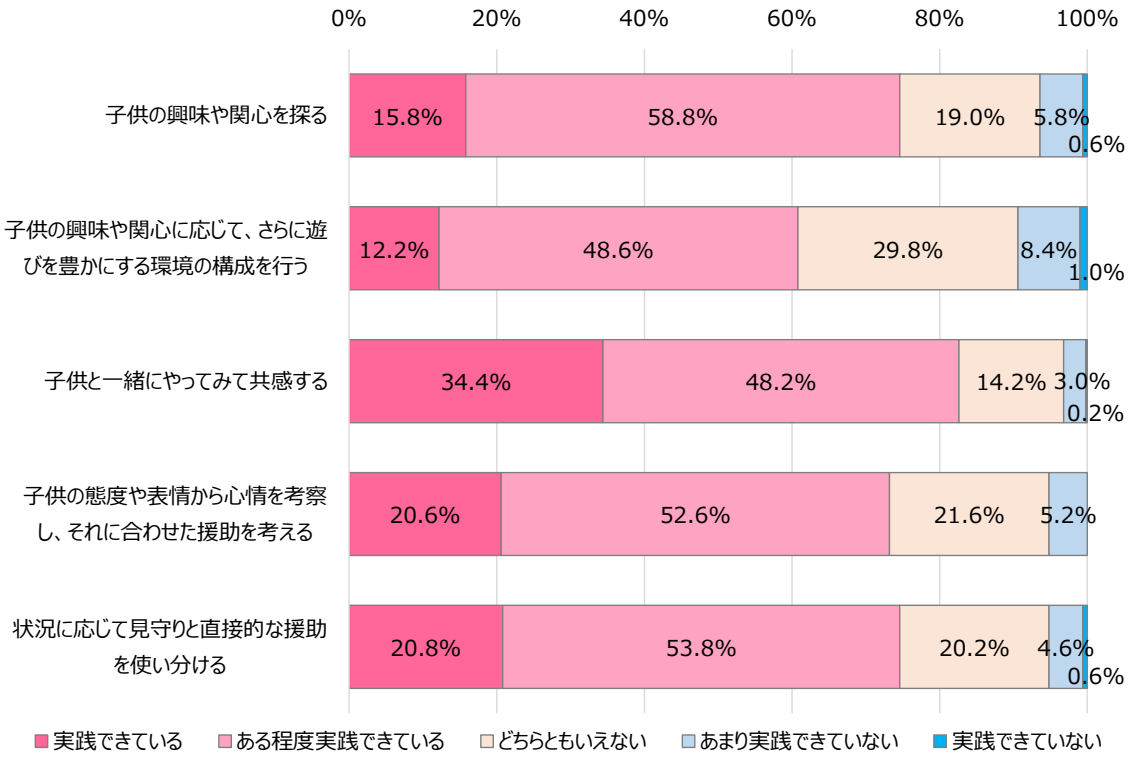


3－3－2　子供の遊びの場面における実践の度合い

子供の遊びの場面における実践の度合いでは、回答者の 8 割超が「子供と一緒にやってみて共感する」は実践できていると回答している（実践できている 34.4%＋ある程度実践できている 48.2%、合計 82.6%）。次点では「子供の興味や関心を探る」となっている（実践できている 15.8%＋ある程度実践できている 58.8%、合計 74.6%）。また、「状況に応じて見守りと直接的な援助を使い分ける」も同点となっている

実践できていない事柄では、「子供の興味や関心に応じて、さらに遊びを豊かにする環境の構成を行う」がトップとなっている（あまり実践できていない 8.4%＋実践できていない 1.0%、合計 9.4%）

図表 61　子供の遊びの場面における実践の度合い（n=500）

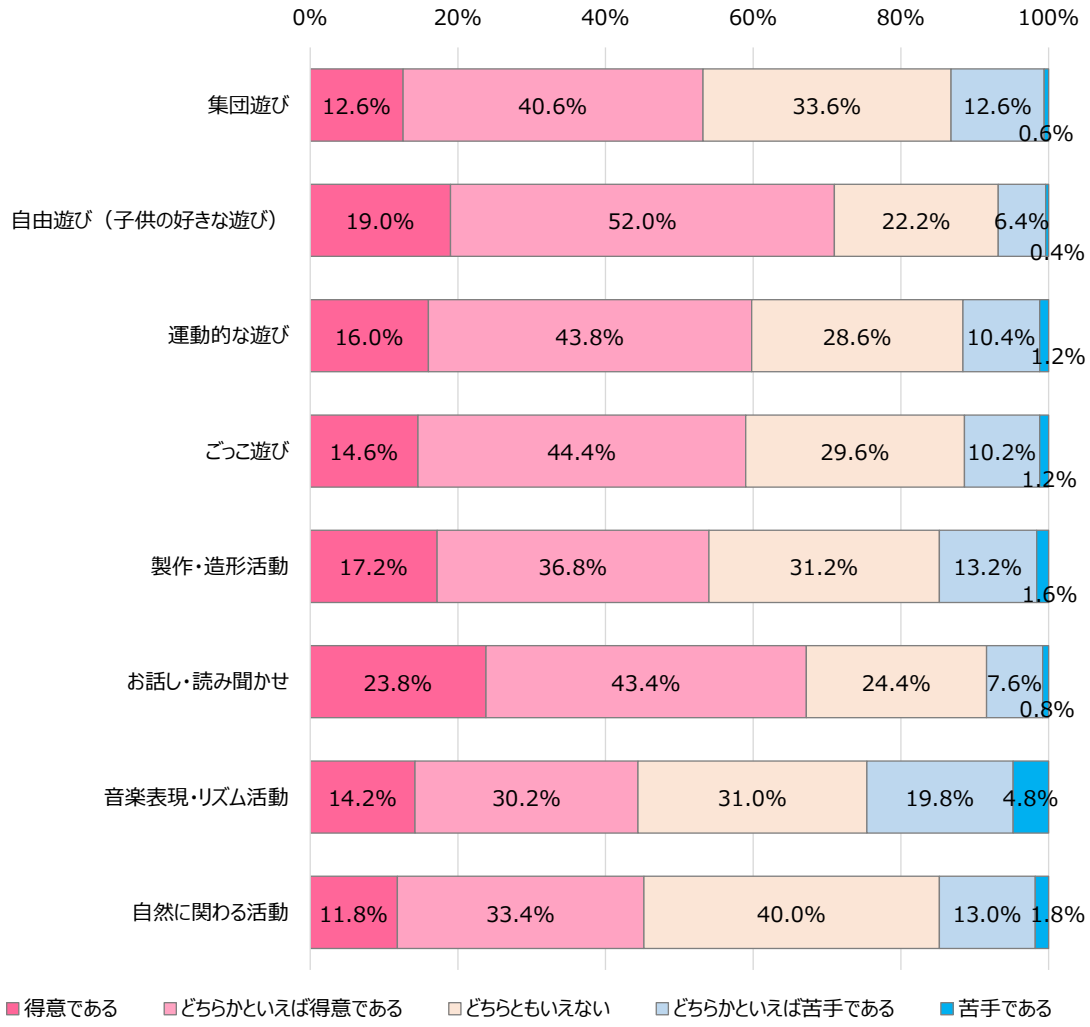


3−3−3　遊び・活動における得意な・苦手な子供との関わり方

遊び・活動における得意な・苦手な子供との関わり方について聞いたところ、回答者の7割超が「自由遊び」は得意であると回答している（得意である19.0%＋どちらかといえば得意である52.0%、合計71.0%）。次点では「お話し・読み聞かせ」となっている（得意である23.8%＋どちらかといえば得意である43.4%、合計67.2%）。

苦手な項目では、「音楽表現・リズム活動」がトップとなっている（どちらかといえば苦手である19.8%＋苦手である4.8%、合計24.6%）。

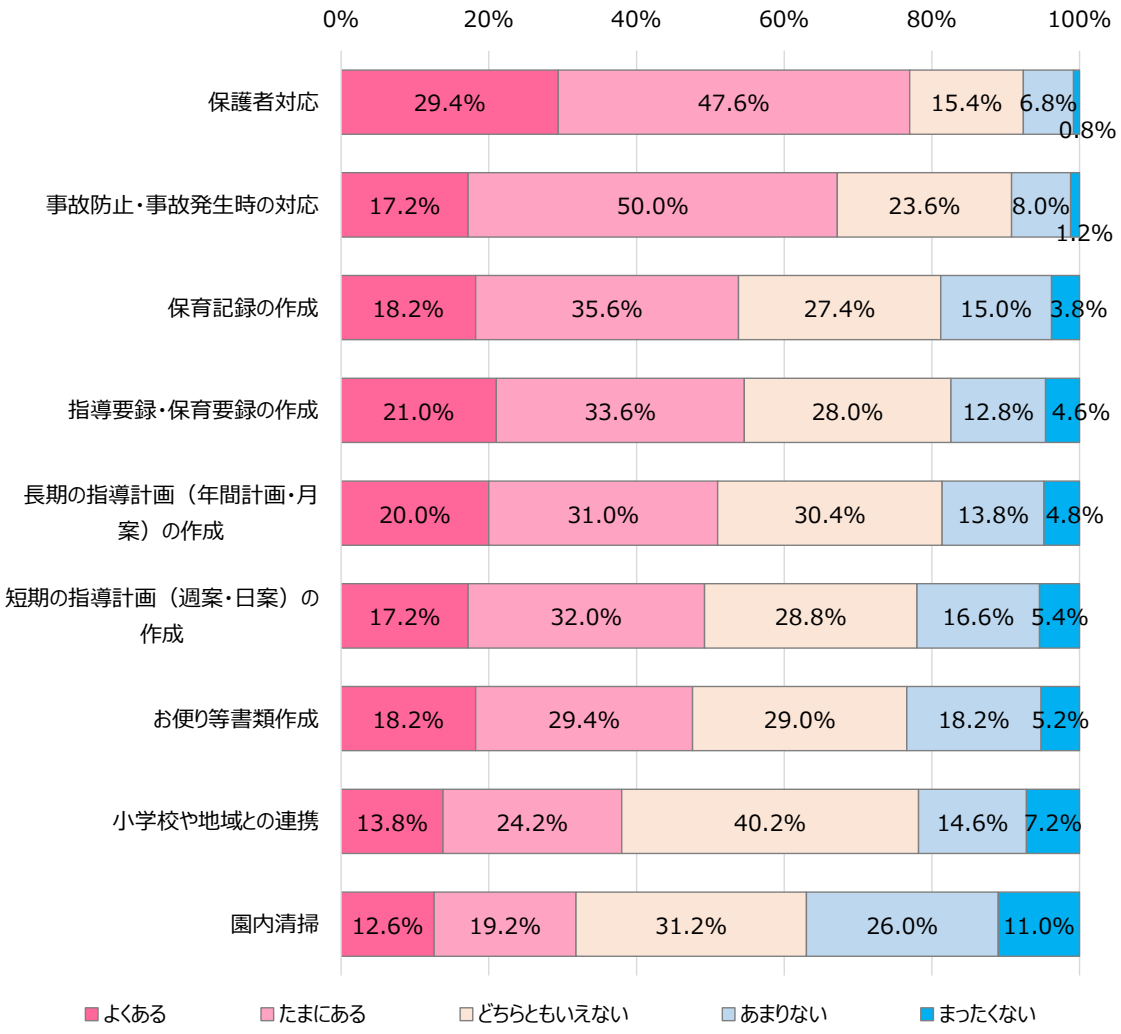
図表62　遊び・活動における得意な・苦手な子供との関わり方（n=500）



3−3−4　業務で困っている、悩んでいること

業務で困っている、悩んでいることについては、回答者の約 8 割が「保護者対応」と回答している（よくある 29.4%＋たまにある 47.6%、合計 77.0%）。次点以降は「事故防止・事故発生時の対応（よくある・たまにある合計 67.2%）」、「指導要録・保育要録の作成（よくある・たまにある合計 54.6%）」と続く。

図表 63　業務で困っている、悩んでいること（n=500）

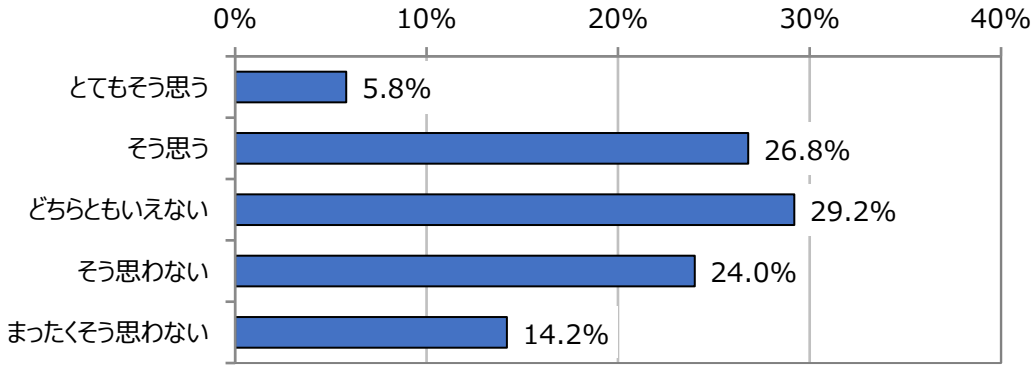


3－3－5　業務量の適切度

普段の業務量は適切かどうか伺ってみると、適切と思うと回答した割合は「とてもそう思う」「そう思う」合計で 32.6%となっている。

一方、「そう思わない」「まったくそう思わない」と回答したのは合計で 38.2%となっており、普段の業務量に対し、適切でないと思っている回答者のほうが約 5 ポイント多くなっている。

図表 64　業務量の適切度（n=500）



勤務している施設×業務量の適切度

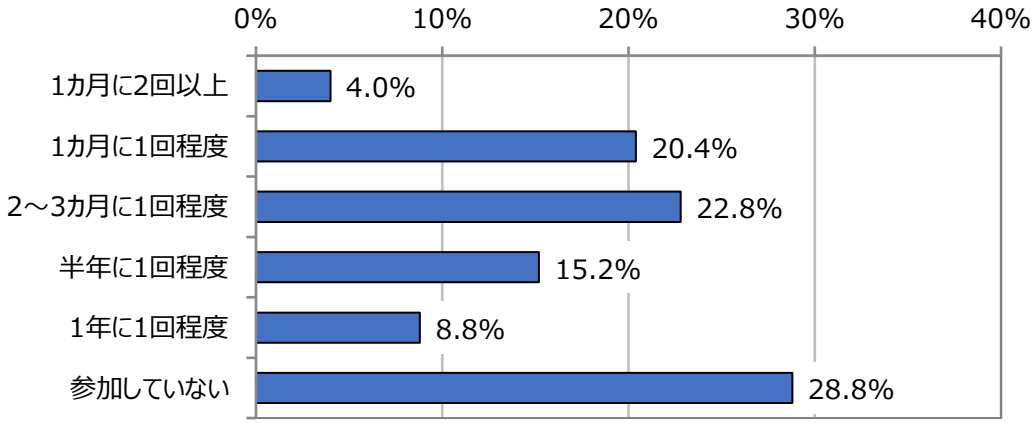
	全体	とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
全体	500	29	134	146	120	71
	(100.0%)	(5.8%)	(26.8%)	(29.2%)	(24.0%)	(14.2%)
保育所	327	22	85	92	83	45
	(100.0%)	(6.7%)	(26.0%)	(28.1%)	(25.4%)	(13.8%)
幼稚園	47	3	16	10	12	6
	(100.0%)	(6.4%)	(34.0%)	(21.3%)	(25.5%)	(12.8%)
幼保連携型認定こども園	82	4	23	31	14	10
	(100.0%)	(4.9%)	(28.0%)	(37.8%)	(17.1%)	(12.2%)
保育所型認定こども園	32	0	7	8	8	9
	(100.0%)	(0.0%)	(21.9%)	(25.0%)	(25.0%)	(28.1%)
幼稚園型認定こども園	11	0	3	5	2	1
	(100.0%)	(0.0%)	(27.3%)	(45.5%)	(18.2%)	(9.1%)
地方裁量型認定こども園	1	0	0	0	1	0
	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)

3－4　研修への参加状況について

3－4－1　今年度の園内研修の参加頻度

今年度の園内研修の参加頻度では、「参加していない」を除き、「2～3 カ月に 1 回程度（22.8%）」が最も多くなっており、次点以降「1 カ月に 1 回程度（20.4%）」、「半年に 1 回程度（15.2%）」と続いている。

図表 65　今年度の園内研修の参加頻度（n=500）



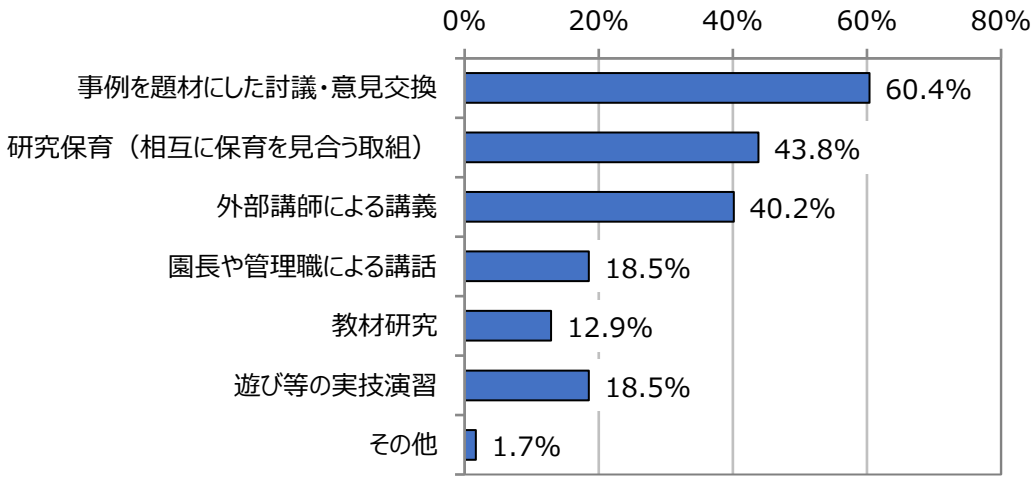
勤務している施設×今年度の園内研修の参加頻度

	全体	1カ月に2回以上	1カ月に1回程度	2～3カ月に1回程度	半年に1回程度	1年に1回程度	参加していない
全体	500	20	102	114	76	44	144
	(100.0%)	(4.0%)	(20.4%)	(22.8%)	(15.2%)	(8.8%)	(28.8%)
保育所	327	13	70	72	50	30	92
	(100.0%)	(4.0%)	(21.4%)	(22.0%)	(15.3%)	(9.2%)	(28.1%)
幼稚園	47	4	5	13	5	4	16
	(100.0%)	(8.5%)	(10.6%)	(27.7%)	(10.6%)	(8.5%)	(34.0%)
幼保連携型認定こども園	82	3	21	17	10	7	24
	(100.0%)	(3.7%)	(25.6%)	(20.7%)	(12.2%)	(8.5%)	(29.3%)
保育所型認定こども園	32	0	3	8	7	2	12
	(100.0%)	(0.0%)	(9.4%)	(25.0%)	(21.9%)	(6.3%)	(37.5%)
幼稚園型認定こども園	11	0	3	4	3	1	0
	(100.0%)	(0.0%)	(27.3%)	(36.4%)	(27.3%)	(9.1%)	(0.0%)
地方裁量型認定こども園	1	0	0	0	1	0	0
	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)

3－4－2　参加した園内研修の内容

参加した園内研修の内容については、「事例を題材にした討議・意見交換（60.4%）」が最も多くなっており、次点以降「研究保育（43.8%）」、「外部講師による講義（40.2%）」と続いている。

図表 66　参加した園内研修の内容（園内研修参加者 n=356）【複数回答】



勤務している施設×参加した園内研修の内容【複数回答】

	全体	事例を題材にした討議・意見交換	研究保育（相互に保育を見合う取組）	外部講師による講義	園長や管理職による講話	教材研究	遊び等の実技演習	その他
全体	356	215	156	143	66	46	66	6
	(1.96)	(60.4%)	(43.8%)	(40.2%)	(18.5%)	(12.9%)	(18.5%)	(1.7%)
保育所	235	141	103	94	47	24	44	5
	(1.95)	(60.0%)	(43.8%)	(40.0%)	(20.0%)	(10.2%)	(18.7%)	(2.1%)
幼稚園	31	17	15	12	2	8	5	0
	(1.90)	(54.8%)	(48.4%)	(38.7%)	(6.5%)	(25.8%)	(16.1%)	(0.0%)
幼保連携型認定こども園	58	39	24	25	7	10	10	0
	(1.98)	(67.2%)	(41.4%)	(43.1%)	(12.1%)	(17.2%)	(17.2%)	(0.0%)
保育所型認定こども園	20	12	8	8	5	1	4	1
	(1.95)	(60.0%)	(40.0%)	(40.0%)	(25.0%)	(5.0%)	(20.0%)	(5.0%)
幼稚園型認定こども園	11	6	6	4	4	3	3	0
	(2.36)	(54.5%)	(54.5%)	(36.4%)	(36.4%)	(27.3%)	(27.3%)	(0.0%)
地方裁量型認定こども園	1	0	0	0	1	0	0	0
	(1.00)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)

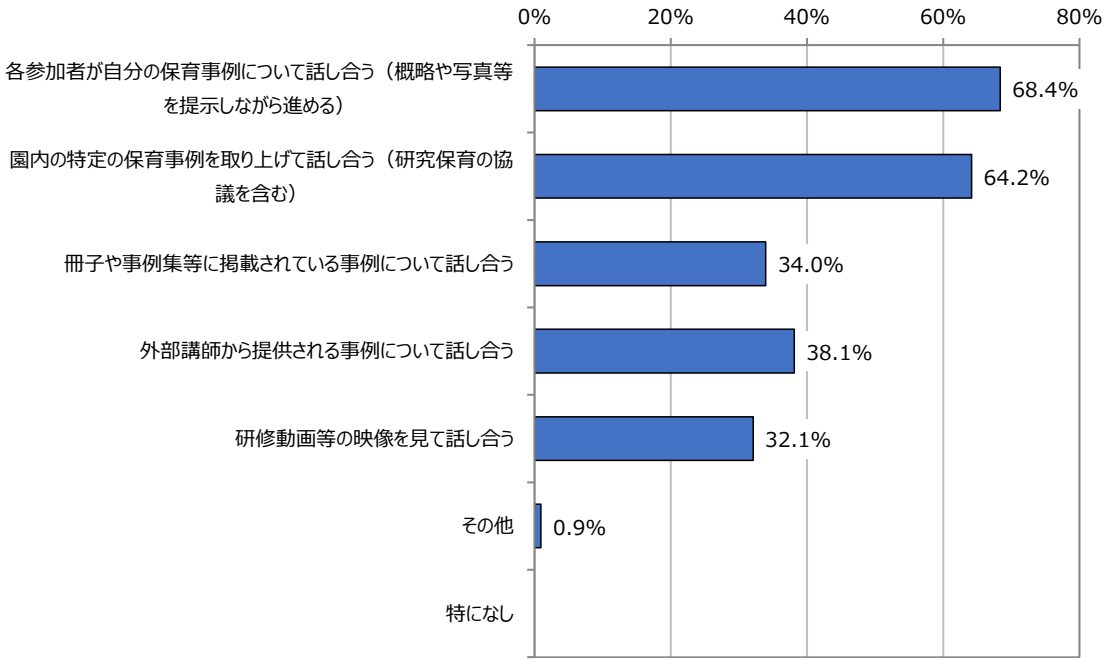
参加した園内研修の内容（その他抜粋）

・嘔吐処理などの、衛生面について
・園内に勤める看護師による衛生管理講習
・アプリ導入へ向けての近い方の講義
・ストレスチェック
・キャリアアップ
・研修報告

3－4－3　事例を題材にした討議・意見交換の方法（(1) で「事例を題材にした討議・意見交換」を選択した場合のみ）：この１年間で参加したことがあるもの

この１年間で参加したことがある事例を題材にした討議・意見交換の方法を聞いてみると、「各参加者が自分の保育事例について話し合う（68.4%）」、「園内の特定の保育事例を取り上げて話し合う（64.2%）」、が他の方法と比して回答割合が高く、30 ポイント以上の差がある。

図表 67　事例を題材にした討議・意見交換の方法（この１年間で参加したことがあるもの）（事例を題材にした討議・意見交換参加者 n=215）【複数回答】



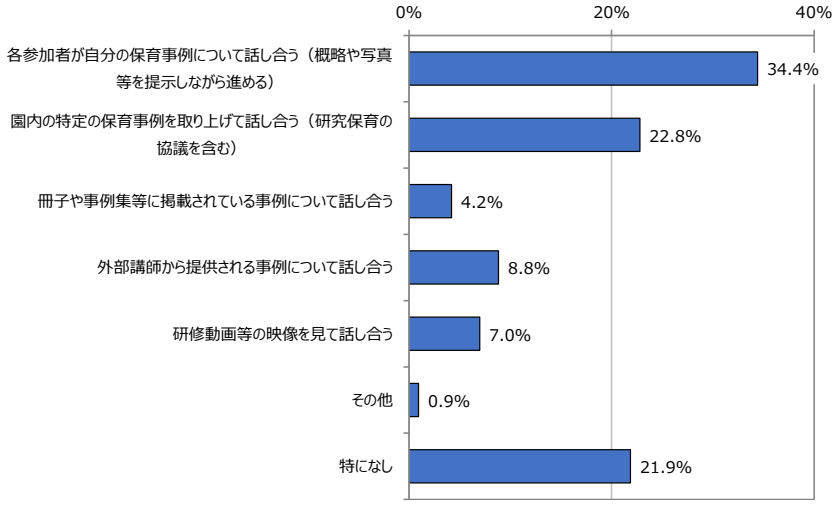
勤務している施設×事例を題材にした討議・意見交換の方法

（この１年間で参加したことがあるもの）【複数回答】

	全体	各参加者が自分の保育事例について話し合う（概略や写真等を提示しながら進める）	園内の特定の保育事例を取り上げて話し合う（研究保育の協議を含む）	冊子や事例集等に掲載されている事例について話し合う	外部講師から提供される事例について話し合う	研修動画等の映像を見て話し合う	その他	特になし
全体	215	147	138	73	82	69	2	0
	(2.38)	(68.4%)	(64.2%)	(34.0%)	(38.1%)	(32.1%)	(0.9%)	(0.0%)
保育所	141	99	91	49	53	45	2	0
	(2.40)	(70.2%)	(64.5%)	(34.8%)	(37.6%)	(31.9%)	(1.4%)	(0.0%)
幼稚園	17	11	7	5	6	4	0	0
	(1.94)	(64.7%)	(41.2%)	(29.4%)	(35.3%)	(23.5%)	(0.0%)	(0.0%)
幼保連携型認定こども園	39	26	28	17	15	16	0	0
	(2.62)	(66.7%)	(71.8%)	(43.6%)	(38.5%)	(41.0%)	(0.0%)	(0.0%)
保育所型認定こども園	12	5	7	1	7	3	0	0
	(1.92)	(41.7%)	(58.3%)	(8.3%)	(58.3%)	(25.0%)	(0.0%)	(0.0%)
幼稚園型認定こども園	6	6	5	1	1	1	0	0
	(2.33)	(100.0%)	(83.3%)	(16.7%)	(16.7%)	(16.7%)	(0.0%)	(0.0%)
地方裁量型認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0

事例を題材にした討議・意見交換の方法の中で、特に自分の思いや意見を言いやすかったものを聞いてみると、「各参加者が自分の保育事例について話し合う（34.4%）」、「園内の特定の保育事例を取り上げて話し合う（22.8%）」が他の方法と比して回答割合が高く、15 ポイント以上の差がある。

図表 68　事例を題材にした討議・意見交換の方法（参加した中で特に自分の思いや意見を言いやすかったもの）（事例を題材にした討議・意見交換参加者 n=215）

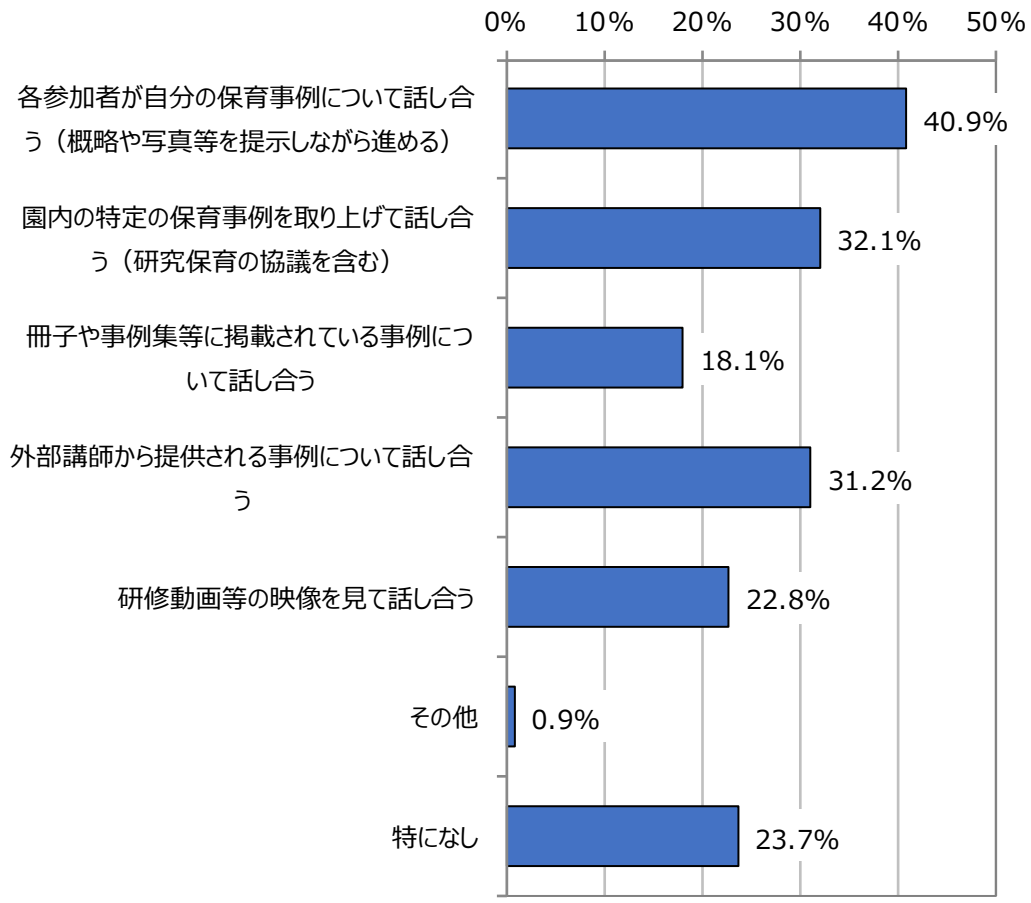


勤務している施設×事例を題材にした討議・意見交換の方法（参加した中で特に自分の思いや意見を言いやすかったもの）

	全体	各参加者が自分の保育事例について話し合う（概略や写真等を提示しながら進める）	園内の特定の保育事例を取り上げて話し合う（研究保育の協議を含む）	冊子や事例集等に掲載されている事例について話し合う	外部講師から提供される事例について話し合う	研修動画等の映像を見て話し合う	その他	特になし
全体	215	74	49	9	19	15	2	47
	(100.0%)	(34.4%)	(22.8%)	(4.2%)	(8.8%)	(7.0%)	(0.9%)	(21.9%)
保育所	141	51	31	4	13	12	2	28
	(100.0%)	(36.2%)	(22.0%)	(2.8%)	(9.2%)	(8.5%)	(1.4%)	(19.9%)
幼稚園	17	6	1	2	1	1	0	6
	(100.0%)	(35.3%)	(5.9%)	(11.8%)	(5.9%)	(5.9%)	(0.0%)	(35.3%)
幼保連携型認定こども園	39	10	15	3	2	0	0	9
	(100.0%)	(25.6%)	(38.5%)	(7.7%)	(5.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(23.1%)
保育所型認定こども園	12	4	1	0	2	2	0	3
	(100.0%)	(33.3%)	(8.3%)	(0.0%)	(16.7%)	(16.7%)	(0.0%)	(25.0%)
幼稚園型認定こども園	6	3	1	0	1	0	0	1
	(100.0%)	(50.0%)	(16.7%)	(0.0%)	(16.7%)	(0.0%)	(0.0%)	(16.7%)
地方裁量型認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0

事例を題材にした討議・意見交換の方法の中で特に今後やってみたいものを聞いてみると、「各参加者が自分の保育事例について話し合う（40.9%）」、「園内の特定の保育事例を取り上げて話し合う（32.1%）」、「外部講師から提供される事例について話し合う（31.2%）」の順に回答割合が高かった。

図表 69　事例を題材にした討議・意見交換の方法（今後やってみたいもの）（事例を題材にした討議・意見交換参加者 n=215）【複数回答】



勤務している施設×事例を題材にした討議・意見交換の方法（今後やってみたいもの）

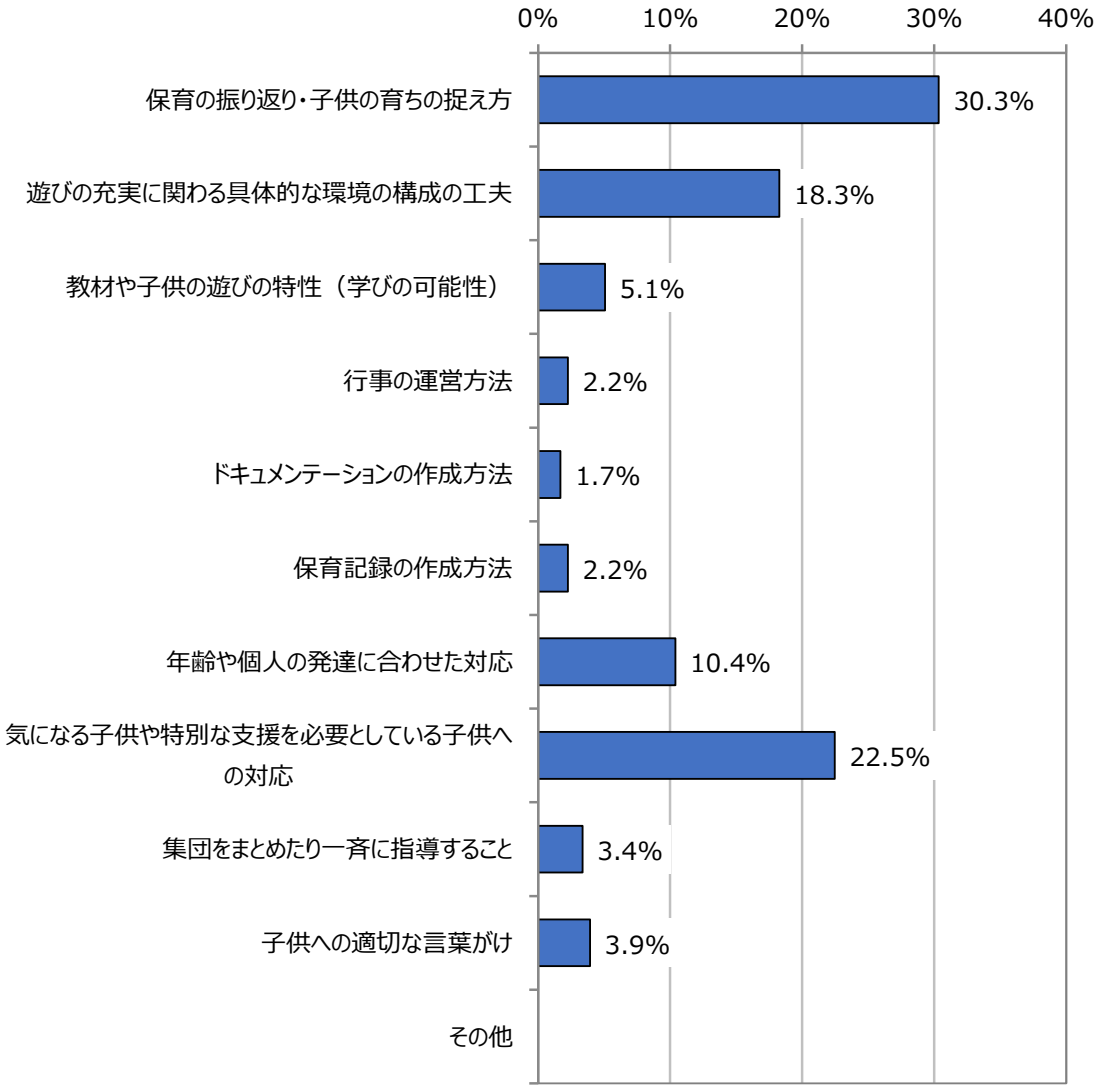
【複数回答】

	全体	各参加者が自分の保育事例について話し合う（概略や写真等を提示しながら進める）	園内の特定の保育事例を取り上げて話し合う（研究保育の協議を含む）	冊子や事例集等に掲載されている事例について話し合う	外部講師から提供される事例について話し合う	研修動画等の映像を見て話し合う	その他	特になし
全体	215	88	69	39	67	49	2	51
	(1.70)	(40.9%)	(32.1%)	(18.1%)	(31.2%)	(22.8%)	(0.9%)	(23.7%)
保育所	141	61	49	26	41	34	2	32
	(1.74)	(43.3%)	(34.8%)	(18.4%)	(29.1%)	(24.1%)	(1.4%)	(22.7%)
幼稚園	17	4	4	5	6	5	0	7
	(1.82)	(23.5%)	(23.5%)	(29.4%)	(35.3%)	(29.4%)	(0.0%)	(41.2%)
幼保連携型認定こども園	39	18	8	5	14	5	0	9
	(1.51)	(46.2%)	(20.5%)	(12.8%)	(35.9%)	(12.8%)	(0.0%)	(23.1%)
保育所型認定こども園	12	3	6	1	3	3	0	2
	(1.50)	(25.0%)	(50.0%)	(8.3%)	(25.0%)	(25.0%)	(0.0%)	(16.7%)
幼稚園型認定こども園	6	2	2	2	3	2	0	1
	(2.00)	(33.3%)	(33.3%)	(33.3%)	(50.0%)	(33.3%)	(0.0%)	(16.7%)
地方裁量型認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0

3−4−4　園内研修を通じて学びたいこと

園内研修を通じて最も学びたいことについては、「保育の振り返り・子供の育ちの捉え方（30.3%）」、「気になる子供や特別な支援を必要としている子供への対応（22.5%）」、「遊びの充実に関わる具体的な環境の構成の工夫（18.3%）」の順に回答割合が高かった。

図表 70　園内研修を通じて学びたいこと（園内研修参加者 n=356）



設置形態×園内研修を通じて学びたいこと

	全体	保育の振り返り・子供の育ちの捉え方	遊びの充実に関わる具体的な環境の構成の工夫	教材や子供の遊びの特性（学びの可能性）	行事の運営方法	ドキュメンテーションの作成方法	保育記録の作成方法	年齢や個人の発達に合わせた対応	気になる子供や特別な支援を必要としている子供への対応	集団をまとめたり一斉に指導すること	子供への適切な言葉がけ	その他
全体	356	108	65	18	8	6	8	37	80	12	14	0
	(100.0%)	(30.3%)	(18.3%)	(5.1%)	(2.2%)	(1.7%)	(2.2%)	(10.4%)	(22.5%)	(3.4%)	(3.9%)	(0.0%)
保育所	235	69	49	14	7	6	6	22	48	8	6	0
	(100.0%)	(29.4%)	(20.9%)	(6.0%)	(3.0%)	(2.6%)	(2.6%)	(9.4%)	(20.4%)	(3.4%)	(2.6%)	(0.0%)
幼稚園	31	13	2	0	0	0	1	3	9	1	2	0
	(100.0%)	(41.9%)	(6.5%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(3.2%)	(9.7%)	(29.0%)	(3.2%)	(6.5%)	(0.0%)
幼保連携型認定こども園	58	21	9	3	0	0	0	7	12	1	5	0
	(100.0%)	(36.2%)	(15.5%)	(5.2%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(12.1%)	(20.7%)	(1.7%)	(8.6%)	(0.0%)
保育所型認定こども園	20	2	2	0	0	0	1	4	9	1	1	0
	(100.0%)	(10.0%)	(10.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(5.0%)	(20.0%)	(45.0%)	(5.0%)	(5.0%)	(0.0%)
幼稚園型認定こども園	11	3	3	0	1	0	0	1	2	1	0	0
	(100.0%)	(27.3%)	(27.3%)	(0.0%)	(9.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(9.1%)	(18.2%)	(9.1%)	(0.0%)	(0.0%)
地方裁量型認定こども園	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)

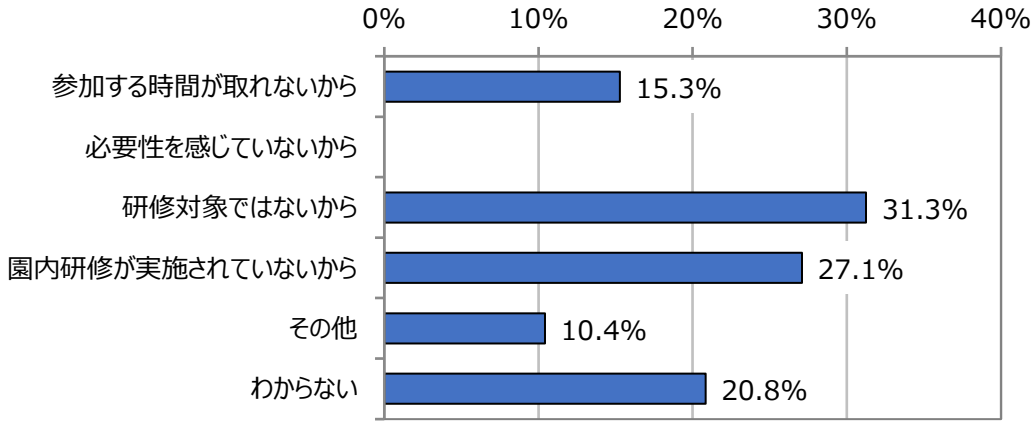
園内研修を通じて学びたいこと、知りたいこと（その他抜粋）

・保護者対応 ・職員のコミュニケーション

3－4－5 参加していない理由（「参加していない」と選択した場合のみ）

園内研修に参加していない理由を聞いたところ、「研修対象ではないから（31.3%）」、「園内研修が実施されていないから（27.1%）」、「わからない（20.8%）」の順に回答割合が高かった。

図表 71　参加していない理由（園内研修不参加者 n=144）【複数回答】



勤務している施設×参加していない理由【複数回答】

	全体	参加する時間が取れないから	必要性を感じていないから	研修対象ではないから	園内研修が実施されていないから	その他	わからない
全体	144	22	0	45	39	15	30
	(1.05)	(15.3%)	(0.0%)	(31.3%)	(27.1%)	(10.4%)	(20.8%)
保育所	92	13	0	29	22	12	19
	(1.03)	(14.1%)	(0.0%)	(31.5%)	(23.9%)	(13.0%)	(20.7%)
幼稚園	16	3	0	5	7	0	2
	(1.06)	(18.8%)	(0.0%)	(31.3%)	(43.8%)	(0.0%)	(12.5%)
幼保連携型認定こども園	24	4	0	5	8	3	7
	(1.13)	(16.7%)	(0.0%)	(20.8%)	(33.3%)	(12.5%)	(29.2%)
保育所型認定こども園	12	2	0	6	2	0	2
	(1.00)	(16.7%)	(0.0%)	(50.0%)	(16.7%)	(0.0%)	(16.7%)
幼稚園型認定こども園	0	0	0	0	0	0	0
地方裁量型認定こども園	0	0	0	0	0	0	0

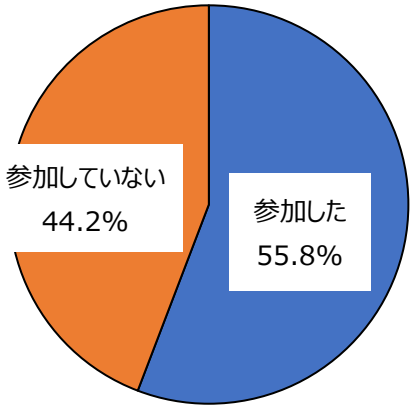
園内研修に参加していない理由（その他抜粋）

・子育てが忙しい
・産育休中
・補助のため
・勤務時間が短いため参加できない
・パートだから

3－4－6 園外研修の参加状況（「参加していない」と選択した場合のみ）

園内研修の参加状況では、全体の半数以上が参加している（55.8%）。

図表 72　園外研修の参加状況（n=500）



勤務している施設×園外研修の参加状況

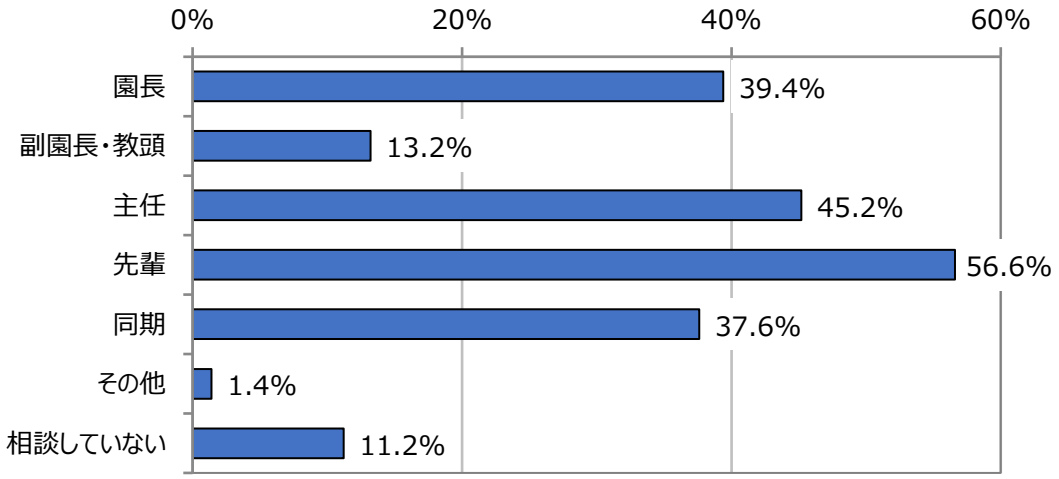
	全体	参加した	参加していない
全体	500	279	221
	(100.0%)	(55.8%)	(44.2%)
保育所	327	176	151
	(100.0%)	(53.8%)	(46.2%)
幼稚園	47	30	17
	(100.0%)	(63.8%)	(36.2%)
幼保連携型認定こども園	82	47	35
	(100.0%)	(57.3%)	(42.7%)
保育所型認定こども園	32	15	17
	(100.0%)	(46.9%)	(53.1%)
幼稚園型認定こども園	11	10	1
	(100.0%)	(90.9%)	(9.1%)
地方裁量型認定こども園	1	1	0
	(100.0%)	(100.0%)	(0.0%)

3−5　困ったときの対応について

3−5−1　困ったときの相談相手

困ったり悩んだりしたときに施設内で相談する人は誰か尋ねたところ、「先輩（56.6%）」、「主任（45.2%）」、「園長（39.4%）」の順に回答割合が高い。

図表 73　困ったときの相談相手（n=500）【複数回答】



勤務している施設×困ったときの相談相手【複数回答】

	全体	園長	副園長・教頭	主任	先輩	同期	その他	相談していない
全体	500	197	66	226	283	188	7	56
	(2.05)	(39.4%)	(13.2%)	(45.2%)	(56.6%)	(37.6%)	(1.4%)	(11.2%)
保育所	327	145	38	150	188	124	5	37
	(2.10)	(44.3%)	(11.6%)	(45.9%)	(57.5%)	(37.9%)	(1.5%)	(11.3%)
幼稚園	47	20	12	22	25	17	0	5
	(2.15)	(42.6%)	(25.5%)	(46.8%)	(53.2%)	(36.2%)	(0.0%)	(10.6%)
幼保連携型認定こども園	82	21	11	31	48	29	1	11
	(1.85)	(25.6%)	(13.4%)	(37.8%)	(58.5%)	(35.4%)	(1.2%)	(13.4%)
保育所型認定こども園	32	9	3	17	14	12	1	3
	(1.84)	(28.1%)	(9.4%)	(53.1%)	(43.8%)	(37.5%)	(3.1%)	(9.4%)
幼稚園型認定こども園	11	2	2	5	8	6	0	0
	(2.09)	(18.2%)	(18.2%)	(45.5%)	(72.7%)	(54.5%)	(0.0%)	(0.0%)
地方裁量型認定こども園	1	0	0	1	0	0	0	0
	(1.00)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)

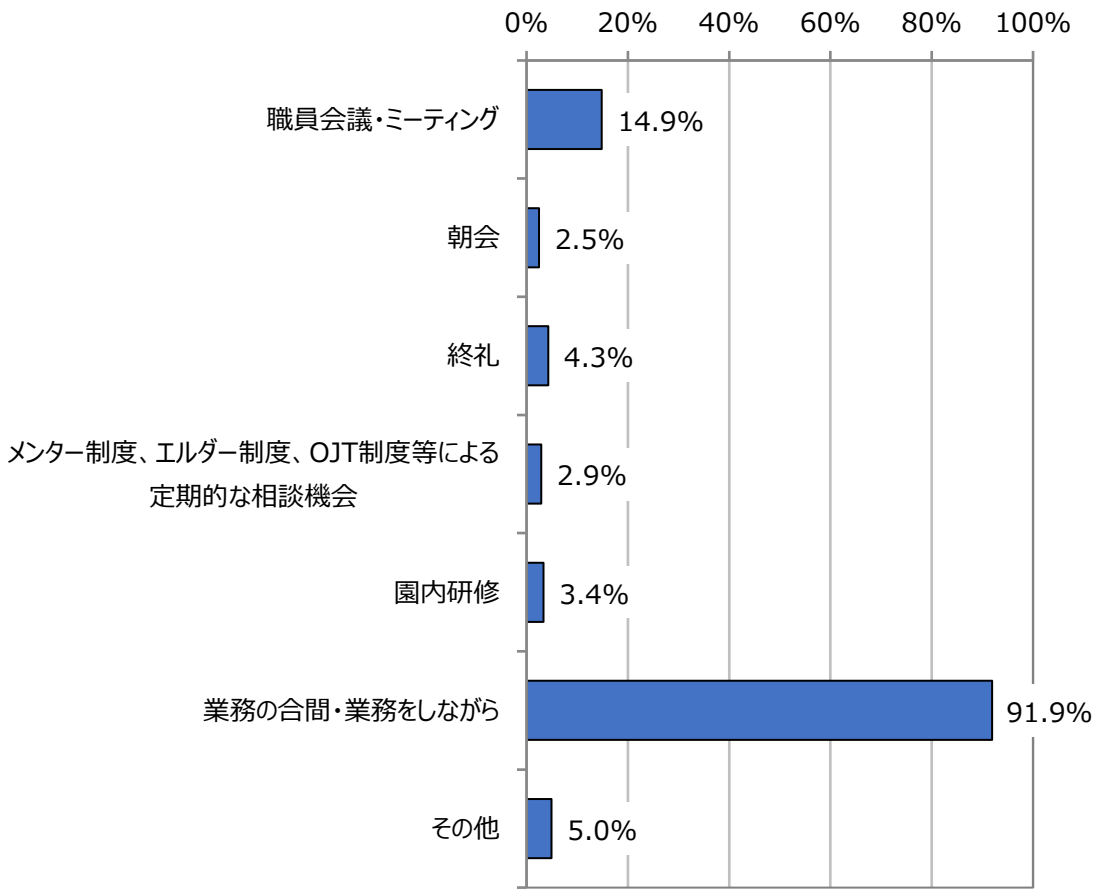
困ったり悩んだりしたときに施設内で相談する人（その他抜粋）

・同じパート仲間
・同じクラス担任(後輩含む)
・元同期
・事務職員
・クラスリーダー

3−5−2　相談のタイミング

他の人に相談するタイミングについて聞いたところ、「業務の合間・業務をしながら」が全体の 9 割以上を占めている（91.9%）。次点で、「職員会議・ミーティング（14.9%）」となっている。

図表 74　相談のタイミング（相談する人がいる回答者 n=444）【複数回答】



勤務している施設×相談のタイミング【複数回答】

	全体	職員会議・ミーティング	朝会	終礼	メンター制度、エルダー制度、OJT制度等による定期的な相談機会	園内研修	業務の合間・業務をしながら	その他
全体	444	66	11	19	13	15	408	22
	(1.25)	(14.9%)	(2.5%)	(4.3%)	(2.9%)	(3.4%)	(91.9%)	(5.0%)
保育所	290	50	6	14	9	12	266	14
	(1.28)	(17.2%)	(2.1%)	(4.8%)	(3.1%)	(4.1%)	(91.7%)	(4.8%)
幼稚園	42	6	1	2	1	0	40	2
	(1.24)	(14.3%)	(2.4%)	(4.8%)	(2.4%)	(0.0%)	(95.2%)	(4.8%)
幼保連携型認定こども園	71	5	4	1	2	2	65	3
	(1.15)	(7.0%)	(5.6%)	(1.4%)	(2.8%)	(2.8%)	(91.5%)	(4.2%)
保育所型認定こども園	29	2	0	1	1	1	26	2
	(1.14)	(6.9%)	(0.0%)	(3.4%)	(3.4%)	(3.4%)	(89.7%)	(6.9%)
幼稚園型認定こども園	11	3	0	1	0	0	10	1
	(1.36)	(27.3%)	(0.0%)	(9.1%)	(0.0%)	(0.0%)	(90.9%)	(9.1%)
地方裁量型認定こども園	1	0	0	0	0	0	1	0
	(1.00)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)

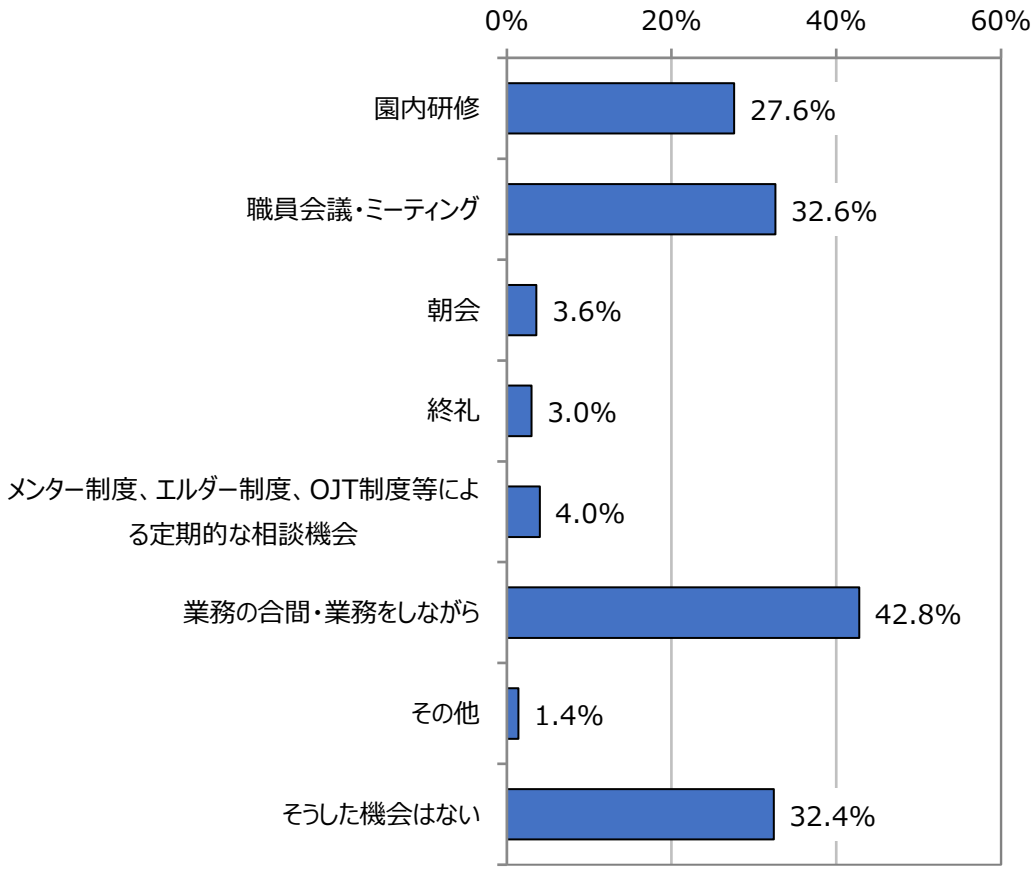
相談のタイミング（その他抜粋）

・勤務前や勤務終了後
・休憩時間
・午睡時、プライベート
・休日
・同期で食事に行ったとき

3−5−3　先輩・ベテラン保育者の保育事例を参考にする機会

先輩やベテラン保育者の保育事例を参考にする機会について聞いたところ、「業務の合間・業務をしながら（42.8%）」が最多、「職員会議・ミーティング（32.6%）」、「そうした機会はない（32.4%）」と続いている。

図表 75　先輩・ベテラン保育者の保育事例を参考にする機会（n=500）【複数回答】



勤務している施設×先輩・ベテラン保育者の保育事例を参考にする機会【複数回答】

	全体	園内研修	職員会議・ミーティング	朝会	終礼	メンター制度、エルダー制度、OJT制度等による定期的な相談機会	業務の合間・業務をしながら	その他	そうした機会はない
全体	500	138	163	18	15	20	214	7	162
	(1.47)	(27.6%)	(32.6%)	(3.6%)	(3.0%)	(4.0%)	(42.8%)	(1.4%)	(32.4%)
保育所	327	89	116	10	5	18	143	2	105
	(1.49)	(27.2%)	(35.5%)	(3.1%)	(1.5%)	(5.5%)	(43.7%)	(0.6%)	(32.1%)
幼稚園	47	9	9	4	4	1	21	2	18
	(1.45)	(19.1%)	(19.1%)	(8.5%)	(8.5%)	(2.1%)	(44.7%)	(4.3%)	(38.3%)
幼保連携型認定こども園	82	28	23	3	5	1	30	1	27
	(1.44)	(34.1%)	(28.0%)	(3.7%)	(6.1%)	(1.2%)	(36.6%)	(1.2%)	(32.9%)
保育所型認定こども園	32	8	12	0	0	0	16	1	8
	(1.41)	(25.0%)	(37.5%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(50.0%)	(3.1%)	(25.0%)
幼稚園型認定こども園	11	4	3	1	1	0	4	1	3
	(1.55)	(36.4%)	(27.3%)	(9.1%)	(9.1%)	(0.0%)	(36.4%)	(9.1%)	(27.3%)
地方裁量型認定こども園	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	(1.00)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)

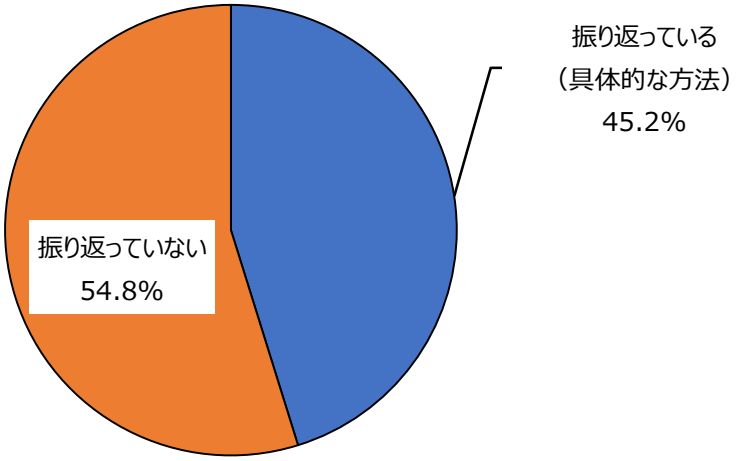
先輩やベテラン保育者の保育事例を参考にする機会（その他抜粋）

・日々のやり取りの中
・月案会議
・終業後
・休憩中

3－5－4　日々の保育の振り返りの有無

自身の日々の保育を振り返っているかについては、半数以上が「振り返っていない」と回答した（54.8%）。

図表 76　日々の保育の振り返りの有無（n=500）



勤務している施設×日々の保育の振り返りの有無

	全体	振り返っている（具体的な方法）	振り返っていない
全体	500	226	274
	(100.0%)	(45.2%)	(54.8%)
保育所	327	148	179
	(100.0%)	(45.3%)	(54.7%)
幼稚園	47	19	28
	(100.0%)	(40.4%)	(59.6%)
幼保連携型認定こども園	82	36	46
	(100.0%)	(43.9%)	(56.1%)
保育所型認定こども園	32	16	16
	(100.0%)	(50.0%)	(50.0%)
幼稚園型認定こども園	11	7	4
	(100.0%)	(63.6%)	(36.4%)
地方裁量型認定こども園	1	0	1
	(100.0%)	(0.0%)	(100.0%)

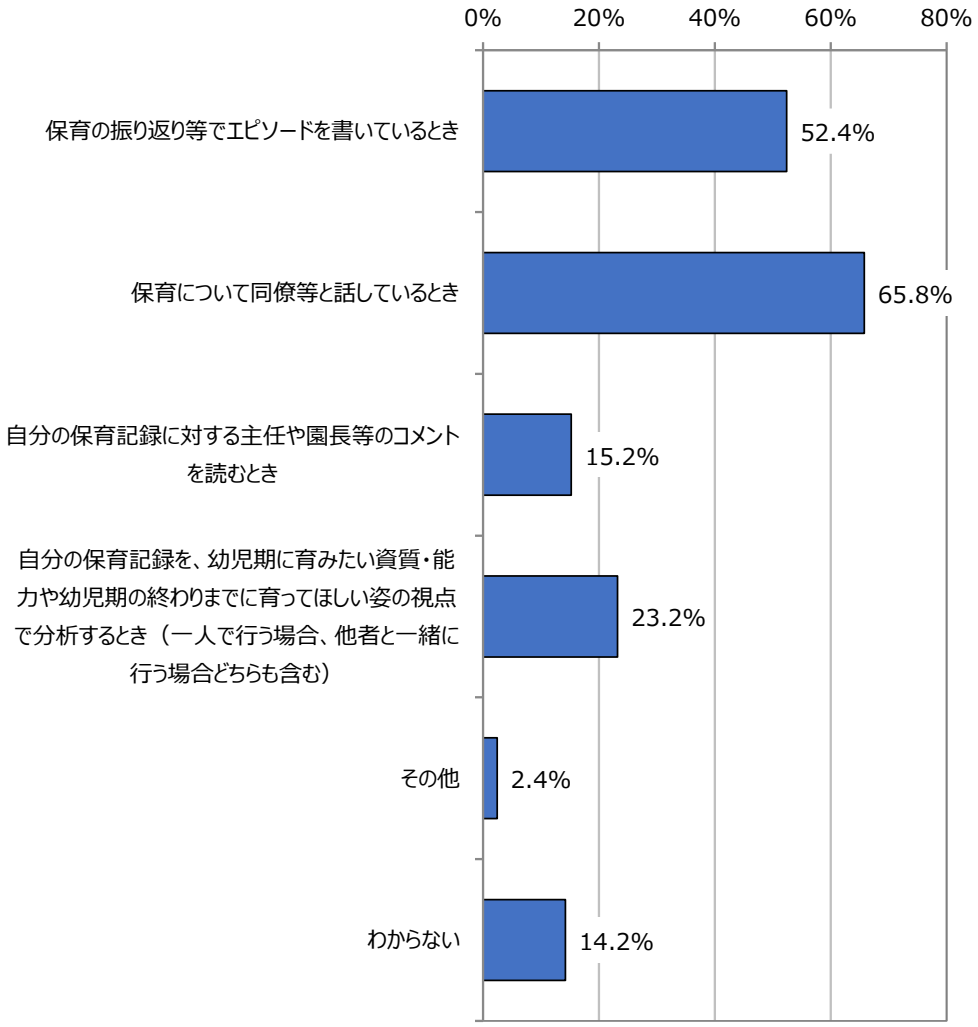
振り返っている場合：具体的にどのように自身の日々の保育を振り返っているか（抜粋）

・良かった点と良くなかった点を考える
・休憩時間などに、同じクラスに入った職員同士で振り返りと子どもの姿の共有
・紙で一年の振り返り、半年の振り返りを書く機会があり、振り返っている
・他の保育士の保育と比較して
・頭の中で整理、書き出す
・幼児クラス全体のミーティング、園運営に関する園長主任副主任が集まってのミーティング、園で定めた自己評価シート
・1 人になった時や保育の間で先輩と振り返っている
・一つ一つの事例に対して後で冷静になってから他にどんな方法があったか考える
・毎月の反省を書き出して園長に提出している

3−5−5 子供の育ちに気づくタイミング

子供の育ちに気づくときはどのような時か尋ねたところ、「保育について同僚等と話しているとき（65.8%）」が最多、「保育の振り返り等でエピソードを書いているとき（52.4%）」、「自分の保育記録を、幼児期に育みたい資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の視点で分析するとき（23.2%）」と続いている。

図表 77　子供の育ちに気づくタイミング（n=500）【複数回答】



勤務している施設×子供の育ちに気づくタイミング【複数回答】

	全体	保育の振り返り等でエピソードを書いているとき	保育について同僚等と話しているとき	自分の保育記録に対する主任や園長等のコメントを読むとき	自分の保育記録を、幼児期に育みたい資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の視点で分析するとき（一人で行う場合、他者と一緒に行う場合どちらも含む）	その他	わからない
全体	500	262	329	76	116	12	71
	(1.73)	(52.4%)	(65.8%)	(15.2%)	(23.2%)	(2.4%)	(14.2%)
保育所	327	185	220	56	76	10	36
	(1.78)	(56.6%)	(67.3%)	(17.1%)	(23.2%)	(3.1%)	(11.0%)
幼稚園	47	16	31	4	6	0	12
	(1.47)	(34.0%)	(66.0%)	(8.5%)	(12.8%)	(0.0%)	(25.5%)
幼保連携型認定こども園	82	39	52	12	22	1	15
	(1.72)	(47.6%)	(63.4%)	(14.6%)	(26.8%)	(1.2%)	(18.3%)
保育所型認定こども園	32	14	17	2	7	1	8
	(1.53)	(43.8%)	(53.1%)	(6.3%)	(21.9%)	(3.1%)	(25.0%)
幼稚園型認定こども園	11	7	8	2	5	0	0
	(2.00)	(63.6%)	(72.7%)	(18.2%)	(45.5%)	(0.0%)	(0.0%)
地方裁量型認定こども園	1	1	1	0	0	0	0
	(2.00)	(100.0%)	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)

子供の育ちに気づくとき（その他抜粋）

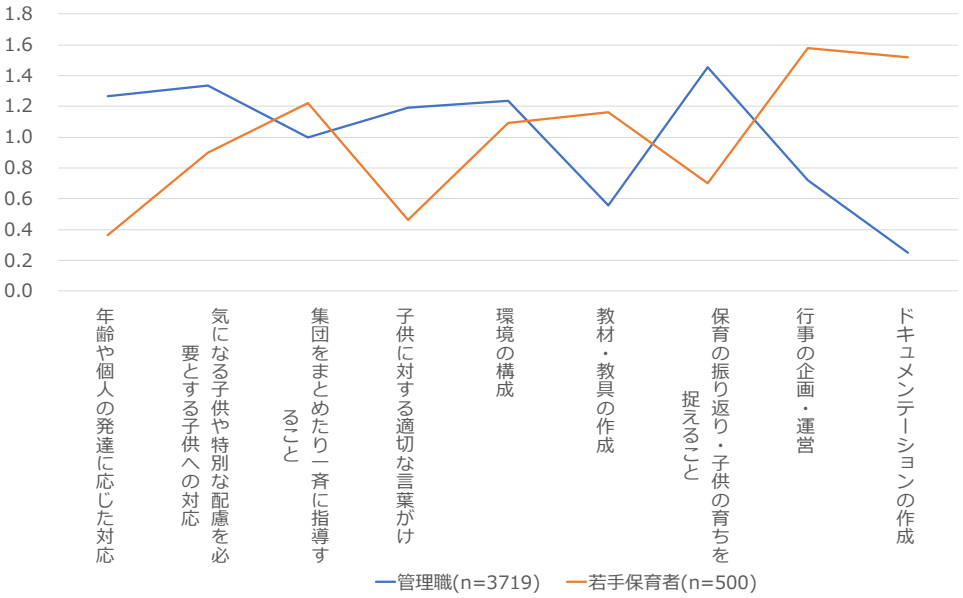
・子ども自身が出来るようになった時
・保育中子どもと関わっているとき
・過去の子どもの姿を読み返して
・動画を作っている時

3－6　管理職と若手保育者の意識の差

幼児教育施設アンケートにおける「若手保育者の課題」についての回答と、若手保育者向けアンケートの保育業務に関する設問の「どちらかといえば苦手・苦手」と回答した割合を比較した。回答した項目の割合の平均を１とした場合の比を表した。

若手保育者が「行事の企画・運営」「ドキュメンテーションの作成」を苦手と考えている割合が高いのに対し、管理職は「保育の振り返り・子供の育ちを捉えること」「年齢や個人の発達に応じた対応」「気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応」を若手保育者の課題として挙げており、課題と捉えている保育業務において意識の差があることがわかる。

図表 78　若手保育者の課題（管理職）／苦手なこと（若手保育者）



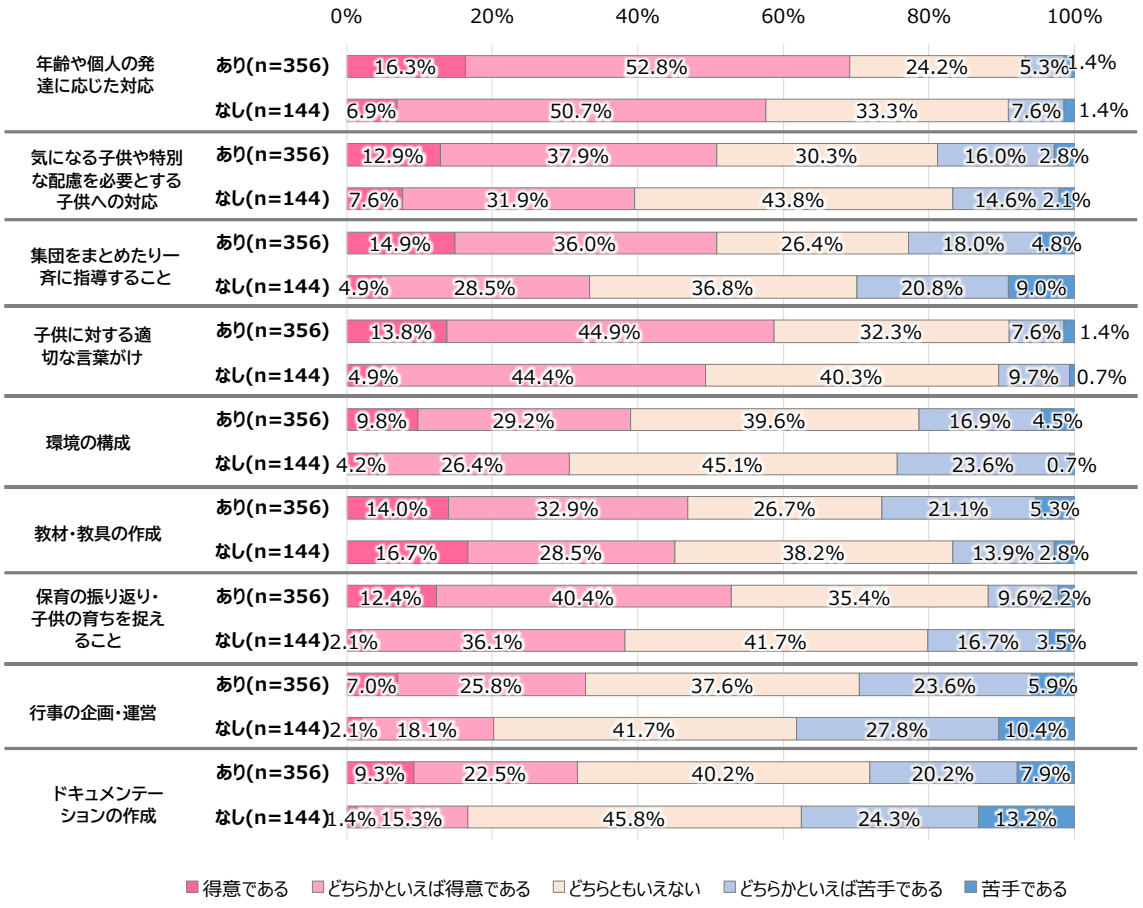
※それぞれのアンケート調査において、回答した項目の割合の平均を１とした場合の比を表している。

3－7　若手保育者の園内研修の効果

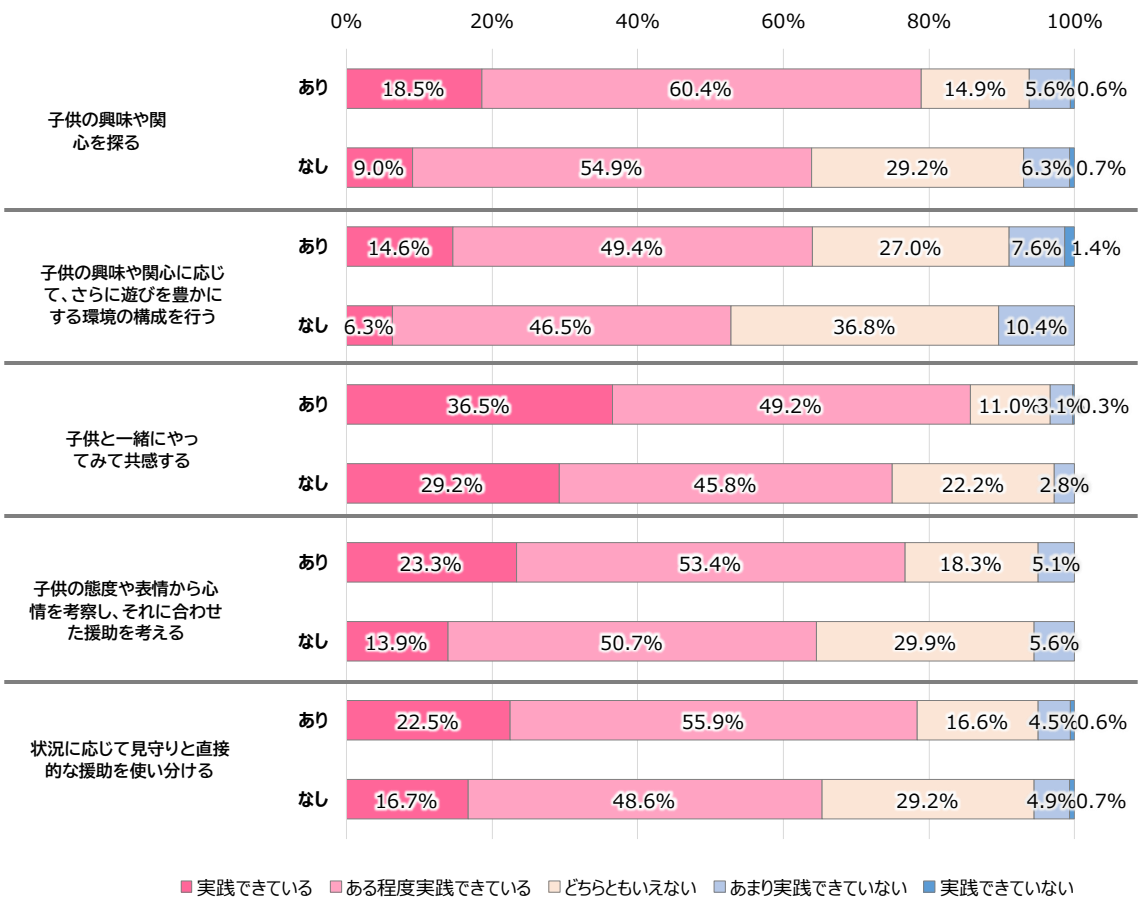
3－7－1 園内研修の参加有無×保育の対応や業務について

令和 5 年度における園内研修の参加頻度に関する設問から、研修参加を「あり」と「なし」に分類し、保育業務、子供の遊びの場面、遊び・活動を通じて子供と関わることについての意識に関する設問とクロス集計を行った。その結果、すべての項目において研修参加「あり」のほうが得意である（得意である＋どちらかといえば得意である）、と回答した割合が高く、研修の効果が示唆された。

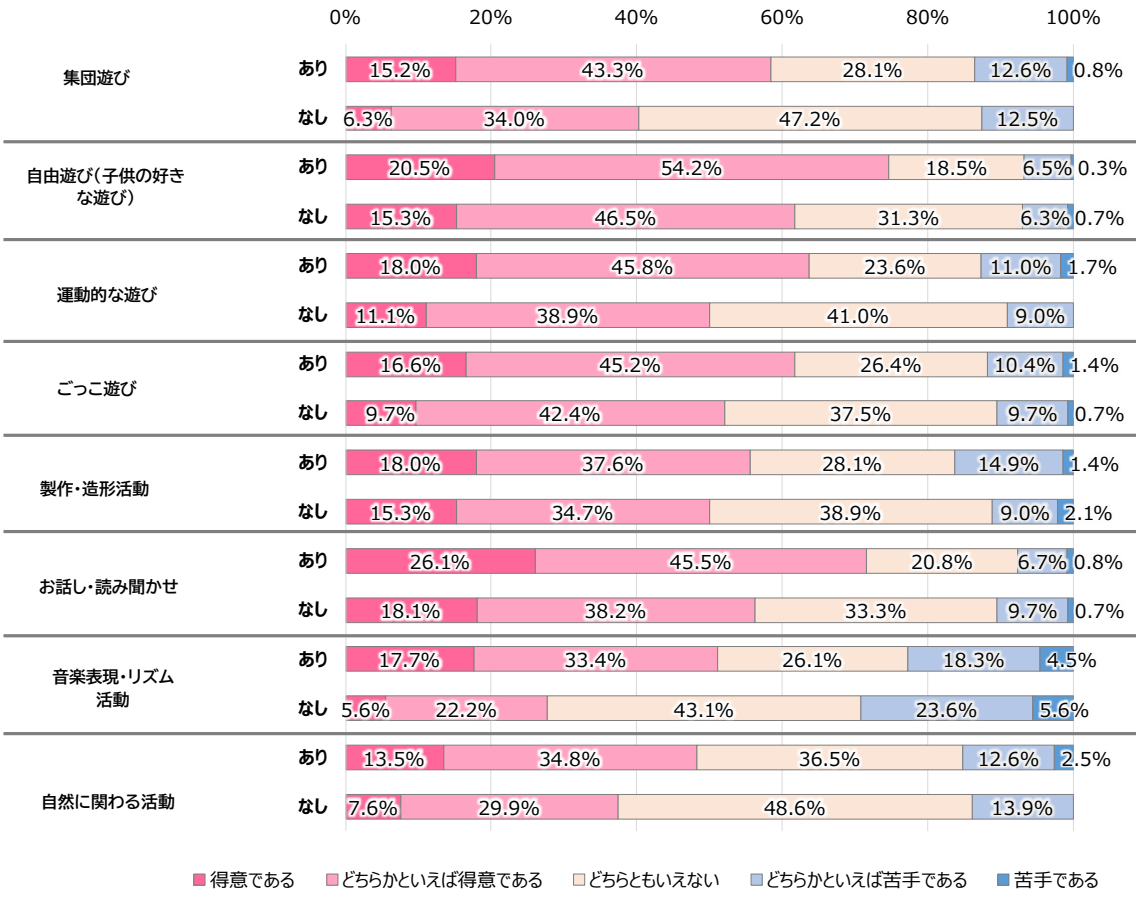
図表 79　園内研修の参加有無×保育の対応や業務について



図表 80　園内研修の参加有無×子供の遊びの場面における実践について



図表 81　園内研修の参加有無×遊び・活動を通じて子供と関わることについて



第4章 ヒアリング調査結果

4－1　幼児教育施設へのヒアリング調査

4－1－1 調査対象

アンケート調査にご回答いただいた幼児教育施設のうち、園内研修を実施している施設等にヒアリング調査を実施した。その結果を紹介する。

No	施設名	園内研修の概要
（1）	**公立幼稚園 A**	学期に１回、研究保育として大学から講師を招聘し園の保育を１日見ていただき、その後討議を行う。普段の保育ではタブレットを活用して動画を撮影し、振り返りや情報共有に生かしている。
（2）	**公立幼稚園 B**	月に２回以上実施し、職員がお互いに意見を出し合う時間を設けている。普段から気軽に話し合う機会を作り、身構えずに意見を出しやすい雰囲気を作っている。時間の確保が課題だが、実施することを習慣づけている。
（3）	**私立幼稚園型認定こども園 C**	月に１度の園内研修を行っている。大学等から招聘した外部講師による講座、理事長による講座など、時間を工夫して確保しながら実施している。夏休み・冬休みには全職員が同じ研修を受ける機会も設けている。

4－1－2 調査方法

オンライン（Zoom）または電話ヒアリング

4－1－3 実施期間

令和６年２月 29 日～令和６年３月８日

4－1－4 ヒアリング結果

ヒアリング結果は下記の通り。

（1）公立幼稚園 A

①園の概要

創立 88 年となる歴史ある幼稚園である。小学校と同じ敷地内にあり、緑豊かな環境が特徴である。教育目標の達成のため、戸外遊びの充実、幼稚園と小学校の連携、地域との連携などの教育活動に積極的に取り組んでいる。

②園内研修の実施状況

学期に１回、研究保育として大学から講師を招聘し、園の保育を１日見ていただいている。その後、職員が参加する討議会を行った。具体的な内容としては、特に課題と感じている指導方法について、クラスごとに講師に見てもらう時間を指定し、それ以外の時間は遊びの様子を見てもらった。講師がビデオ撮影を行い、討議会の最後にビデオカンファレンスを行った。講師の視点から保育の良かった点、課題等を取り上げてもらい、それについて職員から意見を出し合った。

その他、週に１回、学年会を開催し、保育について話し合いを行う。今週の振り返りとして、他の職員がアドバイスをし、来週の見通しについても職員間で話し合っている。

また、今年度は一度、外部から講師を招き、自然をテーマに研修を実施した。

上記の研修に加え、普段の保育においては、GIGA スクール構想の一環で自治体から全職員向けに iPad が配布されたため、保育の様子を自主的に録画し、悩んでいる事例などについて共有し話し合うようにしている。

③実施における工夫点

以前は担任が保育の様子を写真に撮っていたが、写真の場合担任が映らない、環境を言葉で説明する必要があるなどの課題があった。iPad を活用して動画が撮影できるようになったことが振り返りや保育事例の共有に役立っている。例えば遊びの発展のさせ方について自分で判断するのに不安がある場合、職員間で共有して話し合い、互いにアドバイスし合っている。３学級の園のため、教員数が限られていることから子供たちの様子を見て対応する際に迷いが出ることが課題であり、多面的な理解で保育をみることが重要なため、ビデオ撮影は効果的な取組となっている。ビデオをさらに有効活用するため、収音マイクも用意している。

学年会では、パソコンを活用し、指定の場所に各自が空き時間に話し合いたいことを時間までに入力しておく方法をとっている。また、事例の検討や行事の確認などは、担当者がボードに貼ってそれを周知し、意見がある職員には付箋を貼ってもらう。それぞれが時間を選んで記入できるように工夫している。

④若手保育者への指導・課題

若手職員の課題としては、園が小学校と同じ敷地内にあり、小学校側が利用していないときに校庭を遊び場として使えるなど、特殊な環境に慣れることがまず課題である。その学年の活動内容によって、小学校の屋上や体育館、幼稚園の屋上などを使い分けることが必要である。

また、若手保育者、担任を持つ職員には「ごっこ遊び」が難しく、子供たちが考えたことをいかに実現するか、が課題となっている。日本語が母国語でない子供がクラスの３分の１を占めているため、同じ場で皆が楽しく遊べる環境を作り出すことが若手の教員には難しい。対応としては、歌や説明などを視覚的に、擬音語なども使いながら説明する。若手保育者も徐々に手ごたえを感じ、経験を積んで自分で対応することができるようになっている。

言葉がけも若手保育者にとっては大きな課題であるが、起こっている現象に対して、子供が今どのような成長の過程にあるかを考えて言葉がけができるか、どのような言葉を選ぶかが難しい。若手保育者は毎日をこなしていくのが精いっぱいであるため、指示の言葉が多くなりがちである。長い見通しの中で「今日はここまでできたから次はこうしよう」という言葉がけになっていくことが理想だが、経験が必要である。

⑤その他

保育中に工夫した取組としては、全体や個別の遊びについて、他の職員が話し合って指導の修正が行えるように声かけを行い、臨機応変に職員が動けるように支え合っている。ありのままの姿を出し合い、互いにフォローし合う環境が整っており、本音を出すことができている。きちんとした話し合いや研修だけではなく、普段の保育の中での話し合いも通して、関係を作っていくことが重要である。

その他、幼児教育指導員からアドバイスを受けたり悩みを相談する機会も設けている。

（2）公立幼稚園 B

①園の概要

昭和 29 年に設立認可された、創立 70 周年を迎える歴史ある幼稚園である。起伏に富んだ緑豊かな園庭は園児たちの格好の遊び場であり、自然環境を生かした保育を実施している。教育目標として「健康で明るい子供」「意欲的に学ぶ子供」「思いやりのある子供」「心の豊かな子供」を掲げている。数多くの研究発表会も実施。

②園内研修の実施状況

園内研修は月に 2 回以上実施している。15 分～20 分間、向き合って職員がお互いに意見を出し合っている。内容としては、行事に向けての保育展開や心構え、特別な配慮を必要とすることもの支援について、怪我の対応、保護者対応などが挙げられる。若手保育者にも効果的な研修であり、来年度以降も継続予定。

新規採用者については、遊びの展開や行事に向けての取組に関する研修をたびたび実施している。

園内研修の内容は年度によって異なるが、定期的に実施することが必要である。

会議や研修以外でも、普段から気軽に話し合ったりする機会をつくり、身構えずに意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけている。

③実施における工夫点

職員全員が主体的に考えることを重視しているため、管理職が話し合うきっかけを作り、全員が意見を出しやすい環境にしている。

常勤の職員全員が参加できるように、教育課程に則った保育時間の後に実施している。その際、預かり保育が 16 時 30 分までとなっているため預かり保育を利用している子供がまだ園内に残っているが、預かり保育指導員が対応し、常勤の職員は研修に参加できる体制を整えている。

それでも特別な配慮を必要とする子供の支援やケガやトラブルの対応など、研修を中断せざるをえない場合があるため、時間の確保が課題であるが、全員揃うことが難しい場合も、実施することを習慣づけている。テーマは管理職や主任が決定し、難しい内容ではなくすぐに保育に繋がるような身近なテーマにするように心がけている。研修では写真とと

もに事例をもちよって、より深く考える機会をつくり、負担が少なく継続しやすい形を維持している。
会議や研修の場以外でも、その日の保育や記録を元に意見交換を行い、身近な場面から幼児理解を深めたり、支援方法を振り返っている。各自の記録を回覧することで、互いの読み取りや分析を学び合えるようにしている。

④若手保育者への指導・課題

自園の若手保育者は、子供と同じ気持ちとなって遊ぶことに課題を抱えていることが多いと感じている。保育活動の展開に必死で、子供の目線になって、一緒に楽しむこと・遊ぶことが難しいようだ。また、周りの職員に自分から発信して保育について自分が困っていることを伝えることにも課題がある。

神戸市では学期ごとに管理職が保育者に対して面談する機会が設けられており、1年間の目標や、それまでの保育について振り返り、悩みを相談することもできる。また、日ごろから気を配り、業務が大変そうな若手保育者には個別に話す機会も作っている。先輩保育者からはその場でアドバイスをしたり、基本的なことは直接声をかけてコミュニケーションを取るようにしている。

若手保育者には、子供たちの気持ちを理解する力を身につけてほしい。また、保育者が意見を自分の言葉で述べる力を身につけることが大事。保育の現場において、子供の様子をよく観察しながら事実を捉え、自分なりの言い表し方で伝えたり文章として記録したりすることを通して幼児の思いをくみ取ったり推し量ったりする力が身についていく。事実から要因を探ることで新たな疑問が生まれたり新たな気付きを得たりしながら幼児理解を深めるとともに、幼児の内面を知るおもしろさを感じてほしい。

その他、若手保育者への対応としては職員室の座席を中央に配置し、園長・主任や様々な職員の目が届きやすいようにしている。

⑤その他

研修においては、自分の園の事例の場合、子供たちの背景を知っていることから、保育の読み取りがしやすいというプラスになる面があるが、他園の事例は客観的に見ることができるため、保育の展開や環境について分析する力を磨く資料として役立つと考える。

研修の資料として、子供が遊びこんでいる様子、主体的・対話的な学びの多い姿の写真や動画などは、自分が保育をしながら撮影することはなかなか難しいので、資料としてあれば、学びや育ちをみとる研修ができる。

（3）私立幼稚園型認定こども園 C

①園の概要

人間として生きるために必要なベースを築くことをねらいとし、智慧希望・生命尊重を柱に保育を進めている。平成 30 年度に認定こども園に移行した年が幼稚園教育要領改訂と同じ年であったため、主体的に学びに向かう姿がどのようなものか、職員が学ぶ必要性が生まれ、月に一度の園内研修を開始した。

②園内研修の実施状況

もともと幼稚園であり、満 3 歳以上の受け入れをしており、プレ小学校的な保育を行っていたため、職員の子どもの主体性に対する理解を深める必要が出てきた。そこで、大学教授を講師として招き、講義形式の研修を月に 1 回開催した。2 年間、主体性の重要性も含め、理論的な研修を行った。その後の 2 年間は、外部の講師に依頼し、園の実践例を取り上げた研修を行った。

最初の 4 年間の研修はコロナ禍であったため、オンラインで開催。学年ごとに部屋を分け、自分たちの事例を出しながら、質問などを受けつつやり取りを行った。全職員数が 50 人以上となるため全員の参加は難しいことから、担任に参加してもらい、参加者には研修費を支払った。

現在は講師を特定せず、月に一回、理事長による保育講座を実施し、園の方針となる考え方について全職員への理解を深めている。

講師からは他園の環境を紹介した本を紹介してもらい、園内で共有し、取捨選択しながら活用した。

夏休み・冬休みには全職員が同じ研修を受ける機会を 1 回ずつ設け、学年ごとの保育事例の共有や、子どもへの想いを語り合う機会としている。

③実施における工夫点

事前に講師から研修のお題（盛り上がった遊び、子どもが夢中になっている遊びなど）が出され、研修参加者はお題に沿ったドキュメンテーションを作成し、メールで送付した。

研修や学年会議の実施においては時間の確保が課題となるが、パッチワークのように学年ごとに空いている時間を見つけて実施する。職員間で打ち合わせをしてスケジューリン

グを行い、会議等を実施している学年があるときは、他の学年担当の職員がフォローして保育を実施する。

④園内研修の効果

参加した職員からは、「知らないことを知ることができた」「自分のこれまでのやり方で良いことがわかった」という感想があった。普段の保育を見ている管理職から職員にアドバイスすることはあるが、外部からのアドバイスのほうが受け入れやすかったり、アドバイスを受ける上で安心する部分がある。悩みも外部講師には相談しやすい面があった。

⑤若手保育者への指導・課題

1年目の保護者面談は主任や副園長が同席し、振り返りも行っているため、若手保育者の学びに繋がっている。また、園内の人事を決定する際には、若手・中堅・ベテランの保育者をバランスよく配置し、互いのスキルを補えるように考慮している。学年会議では互いに話し合いをしながら保育の課題等について伝え合い、園内研修のような場となっている。具体的な保育の進め方についても、先輩保育者から会議の中でアドバイスをもらうことができている。

若手保育者は環境の構成に課題があるが、重要なのは保育者のねらいと子どもの主体性のバランスである。子どもの主体的な活動の中に保育者のねらいを混ぜていくことが難しい。例えば、「今日は折り紙をさせたい」という日に、教室に折り紙を置き声をかけて一斉に取り組ませるのは保育者主導になってしまう。研修などでは、子ども主体で子どものやりたい世界をサポートしながら、可能性を広げるために環境にアプローチしていくという考え方を伝えることが必要とされる。

担任を持たず、全職員について把握している統括主任が、月に一度は職員への面談を行い、若手と丁寧な関わりを持っている。

⑥その他

職員が保育で困らないようにすることが研修の一番の目的である。困らないようにするためには学ぶしかない。保育で担任がよく躓くポイントは、配慮が必要な子どもへの対応や個別対応である。そのような場面では職員の連携で、困っている職員を助けることが必要である。担任の間で知恵を出し合って、お互いのスキルを補い合っていく。

4－2　若手保育者へのヒアリング調査

4－2－1 調査対象

・幼児教育施設アンケート調査にご回答いただいた施設（幼稚園・幼稚園型認定こども園）に勤務する 20 代の若手保育者 3 名

・若手保育者アンケート調査にご回答いただいた、幼児教育施設（幼保連携型認定こども園・保育園）に勤務する 20 代～30 代の若手保育者 10 名

4－2－2 調査方法

オンライン（Zoom）

4－2－3 実施期間

令和 6 年 2 月 10 日～令和 6 年 3 月 7 日

4－2－4 若手保育者へのヒアリング結果

（1）園内研修の参加状況・研修内容

ヒアリング調査の対象となった保育者は、年間計画を立てて実施している研修、職員会議の中で意見交換の場を設けているケース、外部講師の実施する講習への参加など、様々な形で園内研修に参加している。参加している研修の内容についても、普段の保育事例について意見交換し合うものから、救急救命、遊び、運動の補助の仕方など多岐にわたる。

【ヒアリング結果より】

・人手不足で研修の時間を設けるのが難しいことから、毎月の職員会議の中で、内容を決めて意見を出し合う形で実施している。
・乳児担当と幼児担当で分かれて研修を実施している。毎回全員が参加するわけではないが、会議の結果については紙面で回覧できるようにしている。
・月に 1 回は会議形式で研修を行っており、直近では救急の研修に参加した。法人としていろいろなテーマの研修を実施しているので、興味がある内容の研修に参加するかたち。勤務後の 18 時から Web で受講する。参加できなかった研修については、参加した人が会議で簡単に話して共有する。
・園内研修と呼ばれているものには全員参加している。例えば嘱託医が子供の病気やよくある感染症についてパワーポイントで写真を見せてくれて説明してくれる。他にも今年度だったら跳び箱の補助の仕方、跳び箱を跳べるようにするための遊び方など。日ごろの事例を挙げて「こういう状況のときにあなたらならどうする？」ということについて内容をそれぞれが記入し、順番に考えを出し合って学び合う形の研修も実施している。
・園内研修は主任と中堅の保育教員で年間計画を立てている。大切にしたい幼児期の 10 の姿に重きを置いているので、クラスの一場面を写真に撮り、何人かで見て「ここから 10 の姿としてどのような姿が見られるか」を付箋に書いて貼り出し、学ぶ機会を設けている。頻度は年度内に 3 ～ 4 回程度。小学校の先生が一緒に参加する機会もあった。形式は討議型で、4 ～ 5 人のグループに分かれてざっくばらんに話し合う。それぞれの職員の意識が異なるため、意思統一という面でも園内研修の機会において積極的に取り入れられている。
・1 年間の園内研修のテーマを園長が決め、毎月のテーマについて発表担当の先生が割り振られている。例えば、近くの公園のお散歩マップをテーマとし、通り道の危険個所などについて発表者が調べる。また、ケース検討がテーマのときは、例えば噛みつきが多く出る子はどういう場面で出たか、その際にどのようなことを考えていたか、などを発表する。救急救命など外部講師の研修が行われることもある。
・自分の事例については学年会議で話し合うことが多い。
・学期ごとに 1 回、年に 3 回研究保育を行った。保育の様子をビデオに撮り、ビデオカンファレンスで保育者の援助や子供の様子などについて協議会で話し合った。

（2）参考になった研修（園内・園外）

若手保育者がこれまでに受けた研修（園内・園外）で参考になったものは、自分の保育を講師にみてもらって客観的な意見をもらえる研修や、気になる子供について取り上げて、意見を出し合った研修などが挙げられている。

・環境の構成について、また子供の主体性について、自分の園が目標とする園を訪問した際、実際に環境を見て話を聞いたことが学びになった。
・自分の保育を客観的に見てもらって、意見をもらえる研修。保育をしながら、「このおもちゃを出してよかったのかな」「この子に対してはこの声掛けでよかったのかな」と自分で悩んでいる部分について客観的に見てもらえるため、すごく参考になる。
・夏の園内研修では、学年ごとに気になる子について取り上げて、どうしたら幼稚園を楽しめるかをみんなで話し合った。どのように関わったらよいか具体的に掘り下げることができたので役立った。
・障害のある子・気になる子の様子を、どこまでどのように保護者に伝えるかを研修で学ぶのは役に立つ。
・実際の保育を見てもらい、ビデオカンファレンスで話し合うことで、自分の保育を客観的に見ることができ、保育指導の面で振り返ることができる。子供に対しての援助の仕方を、他の先生から助言をしてもらうことで指導の面も視野が広がり、保育のアイディアをいただき自分の保育力の向上に繋がった。

（3）事例を題材とした討議・意見交換の方法について

事例を題材にした討議・意見交換の方法について、下記の表を示してどのような方法・内容で行っているかを尋ねたところ、園内の個別の事例に関する悩み事を共有しながら話し合い、意見を出し合う、冊子で紹介されている事例をピックアップして自園で取り入れられそうな部分を話し合う、などの方法があった。他のクラスでの活動を知るためにもこのような機会が重要、という意見もある。

事例を題材にした討議・意見交換の方法
【1】各参加者が自分の保育事例について話し合う（概略や写真等を提示しながら進める）
【2】園内の特定の保育事例をとりあげて取り上げて話し合う（研究保育の協議を含む）
【3】冊子や事例集等に掲載されている事例について話し合う
【4】外部講師から提供される事例について話し合う
【5】研修動画等の映像を見て話し合う

・月１回で職員全員でするミーティング、週１回クラスで行うミーティングがある。個々の成長を共有したり、どう関わっていったらよいかという話し合いを主にしている。たとえば、対人関係の苦手な子供が他の園児を叩いてしまうことがあり、その対応についての話し合いなど。

・冊子で紹介されている事例をピックアップして、自分の園で取り入れられそうな部分について話し合う。
・「自分のクラスではこういう遊びをしているけど、ちょっと困っています」ということや、特定の子について「この子の対応で困っています」「どうしたらいいんでしょうか」ということを話し合う。一番の目的は発達について伝えることだが、最終的には困りごとの相談になっている。園長、主任、先輩保育士が「そうだよね」と共感したうえでアドバイスをしてくれる。
・参加者が保育事例について、概略や写真等を提示しながら進める方法がやりやすくて話し合いもでき、よく行われている。決められたテーマに沿って悩んでいることを話したり、子供の成長がテーマのときはその写真を撮ってプリントアウトしたものを会議に持ち込んで話をしたりしている。
・法人内の他の園の事例について、毎年園内研究を行っている。全員が文章を書いてそれが一冊の本になる。他の園の保育者が書いた文章を読み合わせて、自分たちの保育を振り返っている。自分の園だけだとある程度の保育はわかっているし、型にはまってしまう。
・園内の特定の保育事例をとりあげて取り上げて話し合う方法で、若手の先生が、支援の必要な子に対しての関わりで悩んでいたとき、その事例を取り上げてみんなで話し合った。先輩の保育者もいる中で、みんなで考えて安心させてあげるという意味もあった。中堅の先生は若手の先生も気持ちがわかるし、自分の経験を踏まえた意見も言える。
・園内の特定の保育事例をとりあげて取り上げて話し合う研修が役に立っている。日中の活動は自分の担任のクラスの様子しかわかないので、他のクラスで悩んでいることがわかる。そういう場があることで、自分一人で抱え込まずに周り意見が聞ける。みんなで考えられる機会はありがたい。

（4）自分の意見を出しやすい研修

園内の特定の保育事例を取り上げて話し合うタイプの研修、研修動画の映像をみるタイプの研修は、意見を出しやすく、研修とみられる。

・園内の特定の保育事例をとりあげて取り上げて話し合うタイプの研修は、意見が言いやすいと思う。保育事例を取り上げてみんなで「この子はどうしていったらいいか」とみんなで意見を出し合って話をする。
・研修動画等の映像を見て話し合うのはわかりやすく、共通認識ができる。本のイラストだけでは運動遊びやリズム遊びが実際にどのように行われるのかわからないこともあるが、映像だとみてわかりやすい。
・どこかの園の 1 日の流れをイメージしたような研修動画を見ながらの研修であれば、子供が遊んでいるときにこういう気持ちだということをみんなで意見交換し、友達とトラブルになって泣いているときにどういう気持ちでどういうことをしたかったのかみんなで意見を出し合って、学ぶことができる。

（5）園内研修で学びたいこと、知りたい情報

園内研修で学びたいこと、知りたい情報は、「子供への声のかけ方」「室内でもできる運動遊び」が挙げられた。どちらの情報についても、研修用の動画があると、導入部分の声かけの様子まで見ることができるので、わかりやすい、という意見がある。

・子供への声のかけ方、関わり方。また、他のクラスの様子も知ることができるような、情報共有ができる研修。
・屋内活動が多くなる６月７月は毎年活動に悩むので、室内でもできる運動遊びを学びたい。室内という限られた空間で、体を動かして楽しく遊ぶための研修を受けてみたい。運動の専門の先生が模範を示してくれるものなど。実際に、保育活動の動画だと、スタート部分の声かけもみることができるので、わかりやすい。
・日ごろ、他の保育者を見ていると主活動に持っていくまでの導入に個性が出ると思っている。上手な先生は子供たちを引き付ける力がある。１つのところに向かってみんなが楽しめるというところでは声かけが重要になるので、それを知りたい。字だけで見ても伝わらないので、動画のほうがわかりやすい。
・自然がテーマの園なので、自然について学びたい。単学級のため、異年齢との関りがもっと研究できると面白い。

（６）園内での保育事例の共有の仕方

園内での保育事例の共有の仕方は、引継ぎノートの利用や、昼礼、Web 及び紙面での共有が挙げられている。細かく話し合う時間がなく、他のクラスの対応の仕方がわからないことがあるので、共有できる機会が欲しい、という意見もあった。

・園全体のミーティングでクラス状況を報告する時間はあるが、細かく話し合う時間はない。他のクラスとかかわりを持つときに対応の仕方がわからないこともあるので、書類に残すなり、共有できる機会がほしい。
・クラスに一つ引継ぎノートがあり、主に子供たちが昼寝をしている間に、子供の様子や保護者対応など様々な伝達事項について引き継ぎを行っている。
・昼礼を毎日行い、簡単な子供の様子や困ったことなどをその場で共有する。Web 及び紙面での共有。

（７）保育に関する対応や業務について

保育に関する対応や業務について、下記の表を提示し、得意分野と苦手分野について尋ねた。

保育に関する対応や業務
【1】年齢や個人の発達に応じた対応
【2】気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応
【3】集団をまとめたり一斉に指導すること
【4】子供に対する適切な言葉がけ
【5】環境の構成
【6】教材・教具の作成

【7】保育の振り返り・子供の育ちを捉えること

【8】行事の企画・運営

【9】ドキュメンテーションの作成

■得意分野

・ドキュメンテーションの作成。毎月作成して、保護者にお知らせを出しており、保護者や他の保育者からも見やすい、わかりやすいという声を聴いている。講習を受講したり、保育雑誌やネットで調べたりしている。
・環境の構成。子供たちの発達・成長してほしい姿を踏まえて環境での働きかけをするのは楽しい。自分も興味があり、本を読んで学びを深めている。具体的には、保育室の棚の位置、おもちゃは何を置くか。大人の動線も考えながら、どういったか形で動きやすくして、子供達の発達を促せるか考えている。
・集団をまとめたり、一斉に指導すること、教材・教具の作成。保育雑誌を見て、作ってみたい、子供と遊んでみたいものをコピーして、それをもとに作っている。
・特別な配慮を必要とする子供への対応。気になる子供が多かったクラスをいくつか受け持ったことがあり、保護者と話をしたり、療育のほうに話を進めることができた。
・得意というか、常に意識しているのは子供への適切な言葉かけ。自分の保育に慣れてきて、「そういうこともあるよね」と冷静になり、感情的にならなくなってきている。
・強いて言うなら、年齢や個人の発達に応じた対応。月齢だけで判断できない、個人の発達が見えてきた。初めのころは年齢で追って、「4 歳児ならこういう保育をしていこう」と知識だけで進める部分もあった。4 歳だけど 3 歳児の姿が見えるからこういうかかわり方をしよう、など、自然に変わってきた。
・学生時代に保育補助のアルバイトをしていたときに、そのときの先生が肯定的な言葉かけをしていた。その姿を見ていて、そういう保育者に自分もなりたいと思った。リフレーミングの研修を受けた時、「走らないよ」というのではなく、「歩こうね」と声をかけるという、違う角度からの声かけが良いと学んだので、常に意識している。
・教材・教具の作成。年齢に合った教材作成が最近少しずつ分かってきた。
・得意なことはまだわからないが、自分の意思が子供に伝わったとき、保育が楽しいと感じる。子供に対する適切な言葉がけは、積極的に試行錯誤しながら取り組めている。
・年齢や個人の発達に応じた対応は、その子その子を見極めて関わるようにしている。

■苦手分野

・子供に対する適切な言葉かけ。子供によって性格も発達も全く異なる。この子にはこの対応で良かったが、この子には別の対応が必要となると、日々苦労している。
・気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応はずっと課題となっている。配慮が必要な子供には、ダメなことはダメとわかりやすい言葉でいけないという考え方の先生がいる一方で、リフレーミングでダメとは言わずに「もっとこうしたほうがいいんじゃない」という話し方をすることもある。そのギャップが難しい。

・教材・教具の作成。作り物が苦手というわけではないが、イメージが出てくるほうではない。複数担任なので、一緒にアイディアは出しつつも得意な先生に意見をいただいている。
・教材・教具の作成。使用しているものはいただきものが多く、壁面も同じクラスの先生にお願いをしている。
・気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応。いろいろな子を受け入れていく中で、配慮が必要な子が各クラスに何人か見られる。一般的に言われるような、例えば自閉症スペクトラムだとしてその子によって特性も違うし、先生によってあの先生との関わりはうまくいったけど、同じことをしても自分だとうまくいかないということもある。自分なりにその子の対応を見つけていくのが大変だと感じている。配慮が必要な子が増えていると感じている。
・集団をまとめたり一斉に指導することが難しい。言葉がけは、うまくいくときもあれば、子供に響かないこともある。環境の構成も毎月悩んでいる。子供たちも変わっていく中で、環境に新しい要素を加えていくことは難しい。
・行事の運営については知らない行事も多く、苦手というより難しい。
・環境の構成は、ものを出すタイミング、置く場所が難しい。遊び一つ一つを区切りつつ、他の子供を見ることができる環境を作るのが難しい。

（8）子供の遊びの場面で必要な資質・能力

子供の遊びの場面で必要な資質・能力について、下記の表を提示し、身についている資質・能力、身につけるのが難しい資質・能力について尋ねた。身についている資質・能力としては、「状況に応じて見守りと直接的な援助を使い分ける」「子供と一緒にやってみて共感する」が挙げられた。身につけるのが難しい資質・能力は、「子供の興味や関心を探る」「子供の興味や関心に応じて、さらに遊びを豊かにする環境の構成を行う」が挙げられている。

子供の遊びの場面で必要な資質（力）
【1】子供の興味や関心を探る
【2】子供の興味や関心に応じて、さらに遊びを豊かにする環境の構成を行う
【3】子供と一緒にやってみて共感する
【4】子供の態度や表情から心情を考察し、それに合わせた援助を考える
【5】状況に応じて見守りと直接的な援助を使い分ける

■身についている資質・能力

・状況に応じて見守りと直接的な援助を使い分けること。今 1 歳児を見ているので言葉で表現できない分、子供達の表情、様子を見ていく中で、毎日関わっているので「この子はこういう子だからこうやって関わってあげたらいいのかな」というのがわかるようになってきた。5 年目以内の時は難しかった。
・状況に応じて見守りと直接的な援助を使い分けること。子供たちが集中しているのか、助けを求めているのか、表情、雰囲気をよく見て感じ取ることができる。
・子供と一緒にやってみて共感することと、状況に応じて見守りと直接的な援助を使い分けること。1 人 1 人の子供達の発達を見たり、遊んでいる中でどんなことができるか、この子はこれは苦手かなとか日々見て取って、指導の中で学んでいっている。その子達の実態を見ないとできないことを、日々様子を捉えて援助をしてきた。5 年目以内のときは難しかった。先輩の先生にアドバイスをもらったり、「ここはこういう用具を出したほうがよかったよ」とご指摘、指導を受けてきた。
・子供と一緒にやってみて共感すること。年中さんクラスが泥団子を作っているのを 3 歳児クラスの子がうらやましそうに見ていたので、一緒にやってみよう、とやりだしたらクラスの半分以上が泥団子づくりに夢中になった。
・子供と一緒にやってみて共感することは心がけている。「楽しいね」「次はこうやったらどうなるかな」と子供達と一緒に遊ぶ中で、次の発展した遊びを考えている。保育の現場の中で力がついている。
・子供と一緒にやってみて共感することの力をつけるには、信頼関係を作るために何事も一緒にやってみること。先生大好き、安心するというのはそこから始まるのかなと感じる。子供達が興味持って遊んでいるものに一緒に参加をして「楽しいね」「ここはどうしていこうか」と話しながら関係を築いていくことを大事にしている。そこを実感する部分もある。研修でもたくさん話をしてもらえる部分もあるが、実際に保育にあたって子供と関わって力をつけると感じる部分が大きい。
・子供の興味や関心を探ることについては、当園の特性もあって、目が行きやすい。一緒にやってみることも、自分が楽しめるようになってきていると実感している。
・子供の関心を探ること。4 歳児クラスだが、教員が入りすぎずに少し離れて見守り、関わるタイミングを見極めて援助している。

■身につけるのが難しい資質・能力（子供の遊びの場面で必要な資質・能力）

・子供の興味や関心に応じて、さらに遊びを豊かにする環境の構成を行うこと。日々の遊びは自分で調べたりもしているが、限界があるので、講師の先生から話を聞いて発展的な遊びの事例を知りたい。
・子供の興味や関心をさぐることや、子供の興味や関心に応じて、さらに遊びを豊かにする環境の構成を行うことは 5 年目以内のことは全然できていなかった。子供達から鬼ごっこをしたいと言われれば、一緒にやって「楽しかったね」で終わっていたが、講習を受けて興味マップを作ることになってからはその力が身につくようになった。
・子供の興味や関心に応じて、さらに遊びを豊かにする環境の構成を行うことについては、まだまだ先輩方に相談している。「こんなことがやりたい」に留まっており、これからだなと思っている。

・子供の興味や関心に応じて、さらに遊びを豊かにする環境の構成については、せっかく遊びが盛り上がってきたところで続かなかったりすることもあり、力量が足りないと感じる。

（9）得意な幼児教育の場面（遊び・活動を通じて子供と関わること）

得意な幼児教育の場面は、「自由遊び」「ごっこ遊び」を挙げる保育者が多かった。子供達の興味・関心にあったおもちゃを用意するなど、遊んでいる様子を楽しめる保育者が多い。

遊び・活動を通じて子供と関わること
【1】集団遊び
【2】自由遊び（子供の好きな遊び）
【3】運動的な遊び
【4】ごっこ遊び
【5】製作・造形活動
【6】お話し・読み聞かせ
【7】音楽表現・リズム活動
【8】自然に関わる活動

■得意な幼児教育の場面

・ごっこ遊び、自由遊び。子供達がおままごとだったり何かになりきって遊んでいるときに、自分達が作ったものが使えるように制作のものを置いておいて、遊びが発展できるようにというのはよくしている。
・自由遊び（子供の好きな遊び）のかかわりが得意。子供達が好きな遊びを選んで行える。同じ世界観、テンションに合わせられるし、思いもよらない遊びも見られる。こちらからのアプローチに対して展開していったり、幅広くできるから得意というか好き。普段車で遊ぶのが好きな子がいて、いつも走らせているだけだが、そういう子と一緒に走らせながら会話も交えると、子供達も車を使って会話を始めて、おままごとまではいかないが物語が生まれたりすることがある。
・お話し・読み聞かせ。本屋さんに行ったとき、今のクラスはこういうのが好きそうだと思うと買ったり、図書館で借りて子供達の反応を見る。3 歳児クラスを持っていたときに子供達が絵本を見つけて「この絵本はおうちにあるの」と聞いてくれたときに、「あるよ」と言うと「これも見たいから持ってきて」とリクエストをしてくれる。私も楽しいが読んでいる間にころころ変わる子供達の表情を見ているのが好き。そういうので楽しんでいる。
・自由遊び（子供の好きな遊び）が得意。子供の年齢、クラスの人数にもよるが、子供がどんなふうに遊ぶかなと年齢に合ったおもちゃ等を出す。子供によって興味関心が違うが、そういうのを見ていると面白い

なと思う。こうやって遊ぶんじゃないかなとこちらが思っていても別の遊び方をする。新しい発見を見ることで自由遊びは見ていても楽しいなと思う。
・音楽表現・リズム活動。ピアノをひくのが好きなほうなのでいろいろな曲を弾く。動物の曲をひいて子供達が象さんなら象さんになりきって遊んだり、いろいろな表現遊びを曲に合わせてやって楽しんでいる。いろいろな曲を弾いて子供がのってきてこの曲はいけるなと思ったらそれで遊んで発展させている。
・自由遊びの中で子供達がブロックを使っていろいろなものを作って見立てる。最近だと園の行事でクラスの保護者がバンドを結成して歌を歌ったり楽器を演奏してくれたことがあった。それを子供達がマネをしてブロックでマイクを作ったり、太鼓を作ったり、タンバリンなどを作って遊んでいた。マットを準備してその上をステージに見立てて、向かい側に椅子を準備してコンサートのような感じにした。子供達はパパ・ママのバンドを見ているから、それになりきって遊んでいた。クラスの自由遊びの中で、そういう設定をして遊ぶというのを考えて実施した。子供達はマイク、ピアノを作ったが、それ以外にも楽器はあるよねと言って、ネットで写真を出してきて壁に貼った。「これは知っている」「家にある」「やったことがある」といってそれを見立てて作ったりした。より子供達のイメージがふくらむように本物を見せてあげるとか、写真を見せてあげるとか、そういうことをするとよりイメージが豊かになるかなと思う。日々やりながら、経験という感じ。
・お話し・読み聞かせ。昨年度に年長を担当していたとき「でた！かっぱおやじ」という本があるが、保育園がテーマでそこにかっぱおやじがいたずらをしに来るというので話が 1 年続く。子供達がすごく興味を持ったので、部屋がぐちゃぐちゃに荒らされたと本と同じような状況を作った。本当にかっぱおやじがいるんだと興味を持って、手紙を持って池にお散歩でお出かけをしたり、「公園にいるから遊びに来い」というので公園に行って、他の先生に手伝ってもらってかっぱおやじに扮してお～いと言ったり。夏祭りにつなげてかっぱ遊園地を作ろうと子供達に意見を出して、きゅうり釣りを作ったり、かっぱのマタを作ったり、コーナー遊びにしてみたり、1 年間を通してかっぱおやじの取組をした。かっぱおやじの絵本はまだ若いときに先輩の先生から「こういう絵本があって面白いよ。子供達は好きだよ」と教えてもらって読んだことがあった。1 年かけての取組は初めてオリジナルで実施した。
・製作・造形と、お話・読み聞かせは、自分自身が好きな活動なので、子供たちに楽しんでもらえる。
・ごっこ遊び、ドッジボールや鬼ごっこなどの遊びの時間が好き。

（１０）苦手なこと・大変なこと（5 年目以内で特に苦手だったこと・大変だったこと）

苦手なこと、大変なことについて尋ねると、「虫が好きではないため、自然に関わる活動が苦手」「経験がないため、自然に欠かさる活動が難しい」「ピアノが苦手なので音楽表現・リズム活動」などもともとの資質・能力、経験に関わる活動のほか、それぞれの子供の個性や考え方を尊重しながら行う集団遊びや、保護者対応、書類書きなどが挙げられている。

・虫が好きではないので、自然にかかわる活動が苦手。

・集団遊び。気分が乗らなかったり、集団遊びが嫌いな子もいるので、みんなをまとめて同じ遊びをするのが難しい。一緒に組んでいる先生と協力して、無理強いせず、その子の個性や考え方を尊重しながら対応できるようになってきたが、5 年目以内のころは難しかった。
・音楽表現・リズム活動。もともとピアノが苦手なので、子供達を見るよりも自分がピアノを弾くことに必死になっている。ピアノや楽器を使わない形でのリズム活動を教えてくれる研修があると助かる。
・自然に関わる活動。年齢に合った題材・活動の選定が難しい。
・保護者対応と記録。人数が少ないので、事務の時間がほとんど取れない。急なお休みや土曜日出勤の振替、有給が重なると人がいない状況になる中、時間のやりくりをし、終わらないと時間外に残って作業するためなかなか早く帰れない。
・書類書き。子供の成長を日々記録する個人記録、経過記録を書くのに時間がかかる。
・自然に関わる活動は、自分がそうした活動をしてきた経験がないため発展させづらい。
・歌やピアノは得意ではないので、同じ学年の先生に助力を頼んでいる。
・表現活動や劇が得意ではない。引っ張りすぎても任せすぎてもだめで、見極めが難しい。

（１１)失敗した経験

失敗した経験については、癇癪を起したり、噛みつきや手が出てしまう子供の受け止め方や対応でうまく対応ができなかった、という意見が挙げられた。

・初めて 3 歳児を持った時、活動になかなか入れなかったり癇癪を起しやすい子もいて、受け止めるのが難しくて悩んだ。
・5 歳児を担任していたとき、すごく反抗的な態度を取り、制作をしていても「できない」と「やりたくない」と怒って泣いたりする子がいた。その気持ちを受け止める余裕がなく、自分自身もぶつかりにいって園児と大喧嘩した。とりあえず落ち着こうということで、隣の部屋に行っていいよと言って、お互いにクールダウンをして落ち着いてから話をしてどうにかなった。自分自身が子供と同じように精神的に下がってしまう感じだった。
・そこまで失敗したなというのはないが、今年度担当している 3 歳児クラスは全体的に 2 歳児クラスのような感じで噛みつきが頻発している。怪我をさせてしまうということは保護者との信頼関係につながるから、春くらいはとにかく止めていた。パンチ、キック、噛みつきが頻発する中で、止めるということを繰り返していた。止めたときに「これがしたかったんだ」と伝える子供の姿を見て、手が出る前に思いを聞くことができたらよかったなと思った。止めてしまったことで不完全燃焼になった。怪我、見守りは難しい部分がある。
・自分のプライベートと保育業務は別にできたら一番良いが、それが無理なときもある。プライベートの問題と、担任間の空気が良くない時期が重なったことがあって、組む先生との価値観、相性によって、クラスの雰囲気も子供達に伝染していくことがあると感じた。

（１２)困りごとの際に、教育要領や教育要領解説を読み返すことがあるか

教育要領や教育要領解説については、読み返すことがほとんどないという意見が多かった一方で、個別の記録を書くとき、ねらいや週案を作るときに参考にしている保育者もいた。

・個別の記録を書くときに言葉の使い方を確認するために読んだほか、小学校に送る要録を書く際に使用した。解説の内容は言葉がかたいのでちょっと難しい。
・ねらいや週案を作るとき、自分に欠けているところがあると思ったら見返してヒントを得ている。先輩保育士をみていて、保育観の違いから「これで良いのかな」と思う時があった。そういうときに読み返して、「これでいいんだ」という指針にしていた。解説が細かくかいてあるので、会議のときも「それに則っていろいろとやっていこうね」ということが言える。
・解説が非常に細かく書いてあって、「どういうことだ？」と思ったときには、主任、園長に「この表現活動はどう進めたらいいのですかね」と相談している。共通している本というか、指針になる。
・ロッカーに入っていて、読み返していない。困ったときはみんなで参考になる本を持ち寄って、発達段階や年間カリキュラムを見返している。
・あまり読まない。月案に書く方針が思い浮かばないときは、インターネットで検索して調べている。
・研修のときに開いた程度。働いていると目の前のことで精いっぱいで読み返す時間がない。
・自治体の研修の際に見直し、園内研修でも見返しているが、学生のときのほうが良く読んでいた。

（１３)保育で参考にしている資料等

保育においては、保育雑誌や、SNS で紹介されたものを参考にしているという意見があった。

・保育雑誌。園で購入しているものや、自分で書店で購入したものなど。他の園の事例や、専門家のインタビューなどを参考にしている。
・保育雑誌に掲載されている指導計画のヒントを参考にして、月案、日案、個別配慮などを書いている。
・SNS で紹介されているものを参考にすることがある。保育関係の人をフォローしているので、たまたま流れてきたものが自分の悩んでいることに当てはまれば、参考にする。
・教材製作については SNS や先輩から情報を得ている。
・SNS で子供が好きそうなダンスや歌を探している。元保育士の方が挙げている動画を見ている。
・同じ園の他のクラスの製作を参考にしている。

（１４)子供の育ち（成長）に気づくとき

どのようなときに子供の育ち（成長）に気づくかを尋ねると、他の子供とうまく関われなかった子が、友達と遊んでいたり、行事のときに泣いていた子が、次の行事では泣かず

に参加できたときなど、目に見えてわかる状況を嬉しく感じるという意見や、職員が子供の行動で悩んでいるときはその子供が成長しているときだという意見があった。

・春頃にはなかなか話せなかった子、子供と関われなかった子が友達と遊んでいたり、目に見えてわかる状況があるとうれしく感じる。行事を通して、前の行事では泣いていたけど、今回の行事では泣かずに参加できたときも成長を感じる。
・職員側が「この子どうしよう」と悩んでいるときは、その子が成長している時だと思う。最近落ち着かなくて遊びこめていないとか、イライラして疲れがたまっているとか、そういうことも子供の成長の一つ。「こうなりたいけどできない」というもどかしさも、成長だと思う。担任同士で話し合って、成長に気づいていける。
・1 歳児クラスで噛みつきが出る子がいたが、その都度、「おもちゃを貸してほしいときは貸してというんだよ」と伝え、その子の気持ちを受け止めながら対応の仕方を伝えたことで、最近になって「貸して」と言ったり、お友達に譲ることも覚えてきた。その子の成長につながったと思えた機会だった。
・出来なかったことができるようになった、やりたがらなかったことにやりたいと思ってもらえるようになった時は、子供の成長を感じる。年 4 回の保護者との面談を機会に、子供の様子を振り返り、気づくことができるようになってきた。
・自分本位な子が、友達とのかかわりを通して、協調性を身に付けていった様子をみて、成長を感じた。普段のクラス会議・学年会議・保護者との会話の中で成長を実感した。

第5章 まとめ

5－1　調査結果からみる園内研修の実施状況、若手保育者の課題

5－1－1 幼児教育施設へのアンケート調査結果

（1）園内研修の実施状況

・令和 5 年度に園内研修実施をしているか聞いたところ、全体の 8 割超が「実施した（実施予定）」と回答し（87.6%）、未実施の園は 10%となっている(図表 7)。

・園内研修の実施頻度は、「1 か月に 1 回程度」が 37.3%と最多となっており、次点で「2~3 か月に 1 回程度」の 34.2%となっている(図表 8)。

・園内研修の実施内容は、「事例を題材にした討議・意見交換」が約 7 割を占め、次いで「外部講師による講義」が半数と高い割合になっている(図表 9)。また、設置形態別でみると「幼稚園」では「教材研究」を実施している割合が 37.8%と他の形態よりも高い(図表 9)。

・「事例を題材にした討議・意見交換」を実施している回答者に対し、実施方法を聞いたところ、「園内の特定の保育事例を取り上げて話し合う（71.9%）」、「各参加者が自分の保育事例について話し合う（66.0%）」と、園内の実際の事例をもとにして実施している割合が高い(図表 10)。

・若手の保育者が発言しやすいと考えられる方法については、「各参加者が自分の保育事例について話し合う（46.4%）」の割合が最も高く、次いで「園内の特定の保育事例をとりあげて話し合う(29.3%)」の割合が約 3 割と高い(図表 11)。今後実施してみたい方法については、「各参加者が自分の保育事例について話し合う（60.1%）」「園内の特定の保育事例をとりあげて話し合う(55.9%)」の割合が高いが、「研修動画等の映像を見て話し合う(47.3%)」の割合も半数近くと高い(図表 12)。

・園内研修の実施形態については、「保育者全員を参加対象とするもの」が 7 割強を占めた(図表 14)。

・園内研修の実施時間帯は、「平日降園後の時間帯（55.3%）」、「午睡の時間帯（33.7%）」と続く。設置形態別で見ると、午睡のある設置体の中では保育所が最も午睡時間帯での実施割合が高かった（71.6%）。午睡時間のない幼稚園では、約 9 割が「平日降園後の時間帯」に実施していると回答した(図表 15)。

・文部科学省が作成した資料や事例集の活用有無については、「活用していない」が約 8 割を占めた(図表 16)。

・園内研修を実施する上での課題については、「研修時間の確保が困難」が約 8 割を占める(図表 18)。

・園内研修以外で子供の様子や保育事例、課題の共有等を実施する時間帯は、「職員会議・ミーティング」が 8 割強となっている（図表 21)。

・園外研修については、約 8 割の施設が「参加させた」と回答している（図表 22)。

（2)若手保育者の課題

・特に若手の保育者に対し、園内研修を通じて最も身に付けてほしいことについて順位をつけてもらったところ、1 位は「保育の振り返り・子供の育ちの捉え方（50.6%)」、2 位は「遊びの充実に関わる具体的な環境の構成の工夫（27.5%)」、3 位は「保育者同士の協力・同僚性（15.0%)」の割合が高い(図表 17)。

・若手保育者の相談体制については、3 割強の施設が「配置している」と回答した(図表 23)。

・若手保育者の課題は、「保育の振り返り・子供の育ちを捉えること（41.8%)」がトップとなっており、「気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応（38.3%)」、「年齢や個人の発達に応じた対応（36.4%)」と続いている。設置形態別で見ると、幼稚園においては「気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応（41.9%)」がトップとなっている（図表 24))。

（3)学校評価の実施状況

・幼稚園・幼保連携型認定こども園・幼稚園型認定こども園の自己評価は、「施設管理者(80.3%)」が目標設定に関わる割合が高い(図表 26)。

・自己評価では「保育の記録（52.2%)」、「保護者に対するアンケート結果（52.2%)」を活用している(図表 28)。

・自己評価の活用方法は「職員会議等で改善の手だてについて 話し合う機会を設けた（65.2%)」が高い(図表 29)。

・関係者評価の実施状況は、「年間１回、年度末に実施（34.4%）」の割合が高い。また、「実施していない」施設は 26.1%となっている(図表 33)。関係者評価を実施していない理由は、「実施する時間がないから」が約 2 割となっている(図表 34)。

・関係者評価の評価委員メンバーについては、約 7 割の園が、評価委員の中に「園児の保護者」を入れている（図表 35)。

・第三者評価については、「実施していない」が 7 割近い(図表 41)。

5－1－2 若手保育者へのアンケート調査結果

（1)若手保育者の課題

・勤務している園での保育業務について、得意な業務と苦手な業務について聞いたところ、回答者の約 6 割が「年齢や個人の発達に応じた対応（得意である 13.6%＋どちらかといえば得意である 52.2%)」と回答している(図表 60)。

・苦手な業務では「行事の企画・運営」がトップとなっており（どちらかといえば苦手である 24.8%＋苦手である 7.2%)、次点で「ドキュメンテーションの作成」となっている（どちらかといえば苦手である 21.4%＋苦手である 9.4%）(図表 60)。

・子供の遊びの場面における実践の度合いでは、回答者の 8 割超が「子供と一緒にやってみて共感する」は実践できていると回答している（実践できている 34.4%＋ある程度実践できている 48.2%、合計 82.6%）(図表 61)。

・遊び・活動における得意・苦手分野は、「自由遊び」は約 7 割が得意であると回答している(得意である 19.0%＋どちらかといえば得意である 52.0%、合計 71.0%）（図表 62)。

・業務で困っていること、悩んでいることは「保護者対応」（よくある 29.4%＋たまにある 47.6%、合計 77.0%）が約 8 割を占める(図表 63)。

（2)園内研修への参加状況

・園内研修への参加頻度は、「2～3 カ月に 1 回程度（22.8%)」の割合が高い。また、「参加していない」は約 3 割を占める(図表 65)。

・参加した園内研修の内容については、「事例を題材にした討議・意見交換（60.4%)」の割合が高い(図表 66)。「事例を題材にした討議・意見交換」の方法は、「「各参加者が自分の保育事例について話し合う（68.4%)」、「園内の特定の保育事例を取り上げて話し合う（64.2%)」が 6 割を超える(図表 67)。

・事例を題材にした討議・意見交換の方法のなかで参加した中で特に自分の思いや意見を言いやすかったものを聞いてみると、「各参加者が自分の保育事例について話し合う（34.4%）」、「園内の特定の保育事例を取り上げて話し合う（22.8%）」が他の方法と比して回答割合が高い（図表 68）。

・若手保育者が園内研修で学びたいことは、「「保育の振り返り・子供の育ちの捉え方（30.3%）」、「気になる子供や特別な支援を必要としている子供への対応（22.5%）」、「遊びの充実に関わる具体的な環境の構成の工夫（18.3%）」の順に回答割合が高かった(図表 70)。

・若手保育者が園内研修に参加していない理由は「研修対象ではないから」「園内研修が実施されていないから」の順に割合が高い(図表 71)。

・園外研修については、「参加した」と回答した割合は半数以上を占める(図表 72)。

・困ったときの相談相手は「先輩（56.6%）」、「主任（45.2%）」、「園長（39.4%）」の順に回答割合が高い(図表 73)。

・子供の育ちに気づくタイミングは「「保育について同僚等と話しているとき（65.8%）」、「保育の振り返り等でエピソードを書いているとき（52.4%）」の割合が高い（図表 77）。

（3）管理職と若手保育者の意識の差

管理職と若手保育者の保育業務に関する意識の差については、若手保育者が「行事の企画・運営」「ドキュメンテーションの作成」を苦手と考えている割合が高いのに対し、管理職は「保育の振り返り・子供の育ちを捉えること」「年齢や個人の発達に応じた対応」「気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応」を若手保育者の課題として挙げており、課題と捉えている保育業務において意識の差があることがわかる(図表 78)。

（4）若手保育者の園内研修の効果

令和５年度に園内研修に参加したと回答した保育者は、保育の対応や業務、子供の遊びの場面、遊び・活動を通じて子供と関わることについて、研修に参加していない保育者よりも「得意である」「実践できている」と回答している割合が高い(図表 81)。

5－1－3 幼児教育施設へのヒアリング調査結果

（1）園内研修実施における工夫点

ヒアリングを行った園では園内研修において様々な工夫を行いながら取り組んでいる。外部講師を招いて行うタイプの研修では、事前に講師からだされたテーマに沿って、参加者がドキュメンテーションを作成してメールで講師に送付して事前に話し合いたいことを共有する事例があった。また多くの園で課題となる実施時間の確保については、学年ごとに空いている時間を見つけて実施し、その間は他の学年担当の職員が保育をフォローする、全員集まらなくても情報共有ができるよう、パソコンやボードを活用し、各自が空き時間に話し合いたいことを記入したり、また、全員揃うことが難しくても実施することを習慣づけているなど、状況に応じて工夫をしながら、積極的に研修を実施しようとしていることがわかった。

（2）若手保育者への指導・課題

若手保育者の指導や相談方法については、人事の際に若手・中堅・ベテランの保育者をバランスよく配置し、お互いのスキルを補えるように考慮している園や、研修以外の場でも、臨機応変に職員が動けるように支え合い、お互いにフォローし合うことができ、若手が発言しやすい環境を整えている。自分から発信するのが難しい場合には、悩みを相談する面談の機会を設けたり、職員室の席の配置を工夫して先輩職員の目が届きやすいようにするなどして、若手保育者に配慮した指導を行っている。

5－1－4 若手保育者へのヒアリング調査結果

（1）保育業務について

・得意な保育業務については、保護者へのお知らせなどのドキュメンテーションの作成、子供達の発達や成長してほしい姿を踏まえて行う環境の構成、常に意識している子供への適切な言葉かけ、などが挙がった。

・子供への適切な言葉かけについては苦手とする保育者もおり、子供によって性格や発達が全く異なるため、日々苦労しているという声もあった。また、教材・教具の作成が苦手な保育者は他の職員からアイディアをもらったり、壁面を同じクラスの先生に依頼するなど、他の保育者からの支援を受けて対応していた。また、特別な配慮を必要とする子供へ

の対応についても、子供によって特性が異なり、その子供に合った対応を見つけていくのが大変であるという意見があった。

・身についている資質・能力は、「子供と一緒にやってみて共感する」を挙げる保育者が多かった。何事も一緒にやってみて信頼関係を構築できる、子供達と一緒に遊ぶ中で次の」発展した遊びを考えるなど、保育の現場の中で資質・能力を身につけることができている。逆に身につけるのが難しい資質・能力は、子供の興味や関心に応じてさらに遊びを豊かにする環境の構成を行うことを挙げ、自分で遊びなどを調べることに限界がある、という意見があった。

・遊びや活動を通じて子供と関わる幼児教育の場面では、「自由遊び」を得意とする保育者が多い。子供によって異なる興味・関心や、保育者が用意した環境から遊びを発展させていく様子など、保育者自身が楽しめているケースが多かった。

（2)研修について

・参加している研修は、きちんと年間計画を立てて実施している園内研修から、職員会議の中で意見交換の場を設けているケース、外部の研修など様々である。参加した中で特に参考になったものは、講師に自分の保育を客観的に見てもらい、悩んでいることについて意見をもらう方法などがあった。

・事例を題材とした討議・意見交換の方法については、各参加者が写真等を提示しながら自分の保育事例について話し合う方法、園内の特定の保育事例を取り上げて話し合う方法がよく行われている。その中でも、園内の特定の保育事例を取り上げて話し合うタイプの研修は意見が出やすい。

・研修で学びたいことは、子供への声のかけ方・かかわり方、遊びの導入時の声のかけ方について知りたいという意見があった。導入時の声かけについては動画であれば遊びが始まる前の様子からわかるため、参考になる。また、体を動かす遊びについては、本や図などからは具体的な動作がわかりづらいので、やはり研修用の動画があるとわかりやすいという声がある。

5－2　まとめ

5－2－1 園内研修の実施状況と工夫

- 園内研修そのものは実施している園が多く、研修の効果は参加した若手保育者の保育業務に対する意識の違いに表れているが、参加できていない若手保育者もいることは課題である。施設側の課題としては時間の確保が困難という園が多くみられる。
- 設置形態別では午睡のある施設は午睡中に、午睡のない施設は園児降園後に実施しているが、保育者全員を対象とした研修を実施するには、事前に内容を共有したり、正規職員以外の職員が保育のフォローに入るなど、何らかの工夫が必要とみられる。
- 研修以外にも日常の業務である職員会議や様々なミーティングの他、面談や職員同士の支え合い等の中で「子供の様子や保育の事例、課題の共有などを行う取組をしている園」が多く見られる。こうした日常の意見交換の場を生かし、その中で発信されている若手保育者の悩みや相談事などを丁寧に受け止め園内研修で取り上げるなど工夫することで、若手が意見を出しやすい雰囲気や環境の醸成につながると考えられる。

5－2－2 園内研修で有効となる資料・テーマ

- 研修で有効となる資料は、園の意見としても若手保育者としても、本や写真よりも保育者の様子も見られ、遊びの前後の様子や導入時の声掛けも把握できる動画がわかりやすいという意見が多い。タブレットを活用して保育の様子を撮影し、動画で振り返りや共有を行っている園もあり、保育の動画は研修の資料としても有効であると考えらえる。
- 研修の内容は自分の園の保育事例をテーマとした研修がわかりやすく、若手保育者にも参考になる。自分の園で取り入れることができそうな他園の事例についても現場で役立つことが予想される。
-

5－2－3 今後の課題

- 園内研修を行っていない園や、園内研修以外に子供の様子や保育の事例、課題の共有等を行う取組を実施していない園が一定数あること、若手保育者の調査においても約3割が「先輩・ベテラン保育者の保育事例を参考にする機会」が「ない」と回答していることなどから、研修の内容に加えて、研修の実施方法や進め方に関する資料も検討していく必要がある。

- 管理職と若手保育者の保育業務の課題に対する意識については、若手保育者は子供と関わる対応について、多くの保育者が「実践できている」と感じ、課題と感じていないが、管理職側は課題と感じているなど、差がみられた。それぞれのイメージしていることや課題、苦手と感じることの「基準」が立場や経験等によって異なると推察される。だからこそ、園内研修でテーマとして取り上げ、事例検討を通して多面的に協議することは、保育者間の相互理解を深め、若手保育者が視野を広げて実践を捉えること、方策をともに検討するなど保育の充実につながると考えられる。
- 今後は、本調査で明らかになった研修の実施や若手保育者の課題に対応するため、現場で活用しやすく、具体的な実践に繋がっていくような資料を作成していくことが重要である。

第6章 参考資料

6－1　管理職向けアンケート

問	設問	選択肢
１．貴施設についてお尋ねします。（令和６年１月１日時点についてお答えください）		
1	施設名をご回答ください。	
2	貴施設の所在地（都道府県）についてご回答ください。	
3	貴施設の設置形態についてご回答ください	1.保育所 2.幼稚園 3.幼保連携型認定こども園 4.保育所型認定こども園 5.幼稚園型認定こども園
4	貴施設の運営主体についてご回答ください。	1.公立 2.学校法人立 3.社会福祉法人立 4.その他（具体的にご記入ください）
5	貴施設の在籍園児数（利用児童数）をご回答ください。 ※学級（クラス）編成上の年齢ごとにご回答ください。 ※半角数値をご入力ください ・0 歳児　人数 ・1 歳児　人数 ・2 歳児　人数 ・3 歳児　人数 ・4 歳児　人数 ・5 歳児　人数	数値
6	貴施設にお勤めの常勤職員数と非常勤職員数をそれぞれご回答ください。 （※半角数値をご入力ください） ※管理職や助教諭、講師等を含む保育者全般の人数に加え、その他事務職員等の人数も含めた合計人数 をお答えください。 ・常勤職員　人数 ・非常勤職員　人数	数値
7	貴施設の幼稚園教諭・保育士・保育教諭（常勤・非常勤問わず）のうち、施設での保育経験が５年以内の若手の人数をお答えください。 （※半角数値をご入力ください） ※以前お勤めになっていた施設での経験も含めた、通算の経験年数でご判断ください。 ※正確な人数がわからない場合はおおよその人数をご回答ください。	数値
２．保育者の育成のために、貴施設で取り組んでいることについてお尋ねします。		
8	貴施設では、今年度（令和５年度。以下同様）、保育者の育成のために「園内研修」を実施しましたか（今年度中に実施予定のものも含む）。	1.実施した（実施予定） 2.実施していない

問 8-2～8-11 は、問 8 で「実施した（実施予定）」と回答した施設にお尋ねします。今年度実施、および今年度中に実施予定の園内研修についてお答えください。		
8-2	貴施設では今年度、どれくらいの頻度で園内研修を実施しましたか。もっとも近いものを一つお選びください。	1.1 カ月に 2 回以上 2.1 カ月に 1 回程度 3.2～3 カ月に 1 回程度 4.半年に 1 回程度 5.1 年に 1 回程度
8-3	貴施設が今年度実施した園内研修の内容として、あてはまるものをすべてお選びください。	1.事例を題材にした討議・意見交換 2.研究保育（相互に保育を見合う取組） 3.外部講師による講義 4.園長や管理職による講話 5.教材研究 6.遊び等の実技演習 7.その他（具体的にご記入ください）
	（問 8-3 で「事例を題材にした討議・意見交換」を選択した方にお聞きします） ①事例を題材にした討議・意見交換の方法として、貴施設で実施したものをすべてお選びください。	1.各参加者が自分の保育事例について話し合う（概略や写真等を提示しながら進める） 2.園内の特定の保育事例をとりあげて話し合う（研究保育の協議を含む） 3.冊子や事例集等に掲載されている事例について話し合う 4.外部講師から提供される事例について話し合う 5.研修動画等の映像を見て話し合う 6.特になし 7.その他（具体的にご記入ください）
	（問 8-3 で「事例を題材にした討議・意見交換」を選択した方にお聞きします） ②今年度実施した「事例を題材にした討議・意見交換」のうち、特に若手の保育者が発言しやすいと考えられるものを一つお選びください。	1.各参加者が自分の保育事例について話し合う（概略や写真等を提示しながら進める） 2.園内の特定の保育事例をとりあげて話し合う（研究保育の協議を含む） 3.冊子や事例集等に掲載されている事例について話し合う 4.外部講師から提供される事例について話し合う 5.研修動画等の映像を見て話し合う 6.特になし 7.その他（具体的にご記入ください）
	（問 8-3 で「事例を題材にした討議・意見交換」を選択した方にお聞きします） ③今後、自園で実施してみたいと思う「事例を題材にした討議・意見交換」をすべてお選びください。	1.各参加者が自分の保育事例について話し合う（概略や写真等を提示しながら進める） 2.園内の特定の保育事例をとりあげて話し合う（研究保育の協議を含む） 3.冊子や事例集等に掲載されている事例について話し合う 4.外部講師から提供される事例について話し合う 5.研修動画等の映像を見て話し合う 6.特になし 7.その他（具体的にご記入ください）
	（問 8-3 で「事例を題材にした討議・意見交換」を選択した方にお聞きします） ④事例を題材にした討議・意見交換を園内研修で行ううえで、どんな情報やツール（好事例集、写真、動画 等）があればさらに研修を充実させることができると思いますか。ご自由にお書きください。	自由記述
8-4	貴施設では、年間の研究テーマを設定するような継続的な園内研修を実施していますか。	1.実施している 2.実施していない

8-5	貴施設が今年度実施した園内研修の形態として、あてはまるものをすべてお選びください。一部の保育者が参加するものについては、具体的な参加者をお書きください。	1.保育者全員を参加対象とするもの 2.一部の保育者を参加対象とするもの（学年代表・クラス代表が参加、フルタイム の保育者が参加 等） 3.希望者を参加対象とするもの 4.その他（具体的にご記入ください）
8-6	貴施設が今年度実施した園内研修は、以下のいずれの時間帯に実施しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。	1.午睡の時間帯【保育所・認定こども園のみ】 2.平日降園後の時間帯（18 時まで） 3.平日夜間（18 時以降） 4.土曜日（開園日） 5.休園日 6.その他（具体的にご記入ください）
8-7	園内研修を行うにあたり、文部科学省が作成した資料や事例集を活用しましたか。活用した場合、具体的な資料名がお分かりになりましたらご記入ください。	1.活用した 2.活用していない
8-8	特に若手の保育者に対し、園内研修を通じて身に付けてほしいことは何ですか。優先度の高いものから 3 つお選びください。 ・1 番目【 】 ・2 番目【 】 ・3 番目【 】	・保育の振り返り・子供の育ちの捉え方 ・遊びの充実に関わる具体的な環境の構成の工夫 ・教材や子供の遊びの特性（学びの可能性） ・行事の運営方法 ・ドキュメンテーションの作成方法 ・保育記録の作成方法 ・年齢や個人の発達に応じた対応 ・気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応 ・集団をまとめたり一斉に指導したりすること ・子供への適切な言葉がけ ・保育者同士の協力・同僚性 ・その他
	※優先順 3 番目までに「その他」を選んだ場合、具体的な内容をご記入ください。	自由記述
8-9	問 8-8 でご回答いただいた内容を身に付けてもらうために、園内研修で行っている工夫がありましたら、ご自由にお書きください。（なるべく具体的にお書きください）	自由記述
8-10	園内研修を実施するうえでの課題について、あてはまるものをすべてお選びください。	1.研修時間の確保が困難 2.研修への意欲が保育者によって異なる 3.指導者・ファシリテーターの確保が困難 4.研修の成果を実感しづらい 5.予算の確保が困難 6.研修の進め方（まとめの方向性・結論がはっきりしない等） 7.（事例を題材にした討議・意見交換で）自由な発言や意見交換が行われづらい 8.（一部の保育者が参加する研修で）参加していない保育者への内容の共有 9.特に課題はない 10.その他（具体的にご記入ください）
	園内研修を実施するうえでの課題を解決するために行っている工夫や方策がありましたら、課題の内容と併せてお書きください。（なるべく具体的にお書きください。）	自由記述
8-11	今後、園内研修をより充実させるために取組んでみたいことがございましたら、ご自由にお書きください。	自由記述

-	貴施設が園内研修を実施していない理由としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.研修時間が確保できないため 2.どのように研修を行えばよいかわからないため 3.指導やファシリテートができる教職員がいないため 4.予算が確保できないため 5.園外研修に参加させているため 6.研修の必要性を感じていないため 7.わからない 8.その他（具体的にご記入ください）
２．保育者の育成のために、貴施設で取り組んでいることについてお尋ねします。(2		
9	貴施設では今年度、保育者の育成のために「園内研修以外で子供の様子や保育の事例、課題の共有等を行う取組」を実施しましたか（今年度中に実施予定のものも含む）。	1.実施した（実施予定） 2.実施していない
9-2	貴施設では、園内研修以外でいつ、子供の様子や保育の事例、課題の共有等を行う取組を実施していますか。	1.職員会議・ミーティング朝会 2.終礼 3.業務の合間・業務をしながら 4.掲示物や資料で事例等を共有している 5.その他（具体的にご記入ください）
9-3	問 9-2 でご回答いただいた「子供の様子や保育の事例、課題の共有等を行う取組」について、詳しい取組内容をお書きください。（なるべく具体的にお書きください。）また、施設として特に工夫していることがありましたら併せてお書きください。	自由記述
２．保育者の育成のために、貴施設で取り組んでいることについてお尋ねします。(3)		
10	貴施設では今年度、保育者の育成のために「若手の保育者」を園外研修に参加させましたか（今年度中に参加予定のものも含む）。	1.参加させた（予定含む） 2.参加させていない
10-2	貴施設において、若手の保育者が参加した園外研修の内容や成果を、園内で共有するために行っている取組や工夫がありましたら、お書きください。（なるべく具体的にお書きください。）	自由記述
11	貴施設では、若手の保育者が保育について悩んだり困ったりしたときに相談できる先輩保育者（管理職以外）を、若手の保育者一人ひとりに対し配置していますか。 例：メンター制度、エルダー制度、OJT 制度等	1.配置している 2.配置していない
12	その他に、若手の保育者が保育について悩んだり困ったりしたときに相談しやすくするための体制づくり・工夫を行っていましたら、ご自由にお書きください。（なるべく具体的にお書きください。）	自由記述

13	ご回答者様から見て、貴施設の若手の保育者の課題はどんなことですか。以下の項目から、特に課題だと思うことについて、あてはまるものをすべてお選びください。	1.年齢や個人の発達に応じた対応 2.気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応 3.集団をまとめたり一斉に指導すること 4.子供に対する適切な言葉がけ 5.環境の構成 6.教材・教具の作成 7.保育の振り返り・子供の育ちを捉えること 8.行事の企画・運営 9.ドキュメンテーションの作成 10.特に課題はない 11.その他
	その他をお選びいただいた場合、具体的にご記入ください	自由記述
13-2	上記でご回答いただいた若手の保育者の課題のうち、最も大きな課題だと思うものを一つお選びください。	1.年齢や個人の発達に応じた対応 2.気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応 3.集団をまとめたり一斉に指導すること 4.子供に対する適切な言葉がけ 5.環境の構成 6.教材・教具の作成 7.保育の振り返り・子供の育ちを捉えること 8.行事の企画・運営 9.ドキュメンテーションの作成 10.特に課題はない 11.その他
３．貴施設における学校評価の実施状況についてお尋ねします。		
【自己評価について】 自己評価の実施状況についてお尋ねします。		
14	自己評価における目標設定に関わった方として、あてはまるものをすべてお選びください。	1.経営陣（理事など） 2. 施設管理者（園長・副園長・教頭） 3.リーダークラスの教諭（主幹保育教諭など現場の取りまとめ） 4.現場クラスの教諭 5.専門職（看護師、栄養士など） 6.事務担当者（事務長、事務職員） 7.その他（具体的にご記入ください）
15	貴園の自己評価の評価項目・指標等として、あてはまるものをすべてお選びください。	1.教育課程・指導 2.保健管理 3.安全管理 4.特別支援教育 5.組織運営 6.研修（資質向上の取組） 7.教育目標・学校評価 8.情報提供 9.保護者、地域住民等との連携 10.子育て支援 11.預かり保育 12.教育環境整備 13.その他（具体的にご記入ください）

16	貴園が自己評価で評価に活用している資料としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.指導計画（週次） 2.指導計画（月次） 3.指導計画（学期） 4.指導計画（年間） 5.園の要覧 6.保育の記録（日誌、子どもの個別記録等） 7.園児の活動の写真、ビデオ、作品 8.園児に対するアンケート結果 9.園児からの意見聴取 10.保護者に対するアンケート結果 11.保護者からの意見聴取 12.地域住民に対するアンケート結果 13.地域住民に対する意見聴取 14.その他（具体的にご記入ください）
17	貴園における自己評価の活用方法としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.職員会議等で改善の手だてについて 話し合う機会を設けた 2.保護者や地域住民等と改善の手だてについて 話し合う機会を設けた 3.改善のための具体的な取組に活かした 4.その後の基本方針や目標設定に反映した 5.その他（具体的にご記入ください）
18	自己評価を実施するにあたり参考にしているガイドライン等としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.文部科学省「幼稚園における学校評価ガイドライン〔平成 23 年改訂〕」 2.全幼研「実効性のある学校評価の実施に向けてー幼児教育の質向上につなげる学校評価ガイドブックー」 3.自治体が作成しているガイドライン 4.保育団体等が作成・公開しているガイドライン 5.園独自で作成しているガイドライン 6.評価に関する市販の書籍や冊子等 7.特になし 8.その他（具体的にご記入ください）
19	貴園における自己評価結果の公表方法としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.直接説明する機会を設定 2.園だより等に掲載 3.園内の掲示板等に掲示 4.園の要覧や園ガイドに掲載 5.園のホームページに掲載 6.メールで配信 7.地域の広報誌や回覧に掲載 8.地域の掲示板や公共施設に掲示 9.公表していない 10.その他（具体的にご記入ください）
20	貴園における自己評価を実施するにあたっての課題としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.評価における目標の設定 2.評価における目標の共有 3.評価項目や評価指標の設定 4.評価指標の数値化 5.アンケート等の実施や回収 6.報告書類の作成 7.評価結果の公表 8.評価結果の分析・活用 9.職員の多忙感 10.評価の意義の職員への浸透や評価に関する知識の向上 11.特に課題や困難はなかった 12.その他（具体的にご記入ください）
３．貴施設における学校評価の実施状況についてお尋ねします。(2)		
【関係者評価について】関係者評価の実施状況についてお尋ねします。		

21	貴園では関係者評価をどれくらいの頻度で実施していますか。	1.年間２回以上実施 2.年間１回、年度末に実施 3.年間１回、年度末以外に実施 4.２年に１回実施 5.３年に１回実施 6.上記以下の頻度で実施 7.実施していない
21-2	貴園が関係者評価を実施していない理由としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.実施は義務ではないから 2.実施の必要性を感じないから 3.実施の方法がわからないから 4.評価結果の分析・活用方法がわからないから 5.実施する時間的余裕がないから 6.実施やとりまとめを担える職員がいないから 7.評価結果の公表をしたくないから 8.教職員からの理解や協力を得られないから 9.保護者や地域住民等からの理解や協力を得られないから 10.評価委員の選定や確保が困難であるから 11.評価にかかる費用の負担が重いから 12.開始するきっかけがつかめないから 13.次年度以降の実施に向けて準備中 14.その他（具体的にご記入ください）
22	貴園における関係者評価の評価委員のメンバーとしてあてはまるものをすべてお選びください。	1.園児の保護者 2.自治会等関係者 3.学校教育法施行規則第 49 条に基づく学校評議員 4.接続する小学校の教職員や大学の研究者 5.社会福祉施設・団体関係者 6.卒園児の保護者 7.社会教育施設・団体関係者 8.その他（具体的にご記入ください）
23	貴園が関係者評価で評価に活用している資料としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.指導計画（週次） 2.指導計画（月次） 3.指導計画（学期） 4.指導計画（年間） 5.園の要覧 6.保育の記録（日誌、子どもの個別記録等） 7.園児の活動の写真、ビデオ、作品 8.学校行事や保育等の参観 9.園児に対するアンケート結果 10.園児からの意見聴取 11.保護者に対するアンケート結果 12.保護者からの意見聴取 13.地域住民に対するアンケート結果 14.地域住民に対する意見聴取 15.管理職との対話 16.管理職以外の教職員との対話 17.自己評価の結果 18.その他（具体的にご記入ください）
24	貴園における関係者評価の活用方法としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.職員会議等で改善の手だてについて 話し合う機会を設けた 2.保護者や地域住民等と改善の手だてについて話し合う機会を設けた 3.改善のための具体的な取組に活かした 4.その後の基本方針や目標設定に反映した 5.その他（具体的にご記入ください）

25	関係者評価を実施するにあたり参考にしているガイドライン等としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.文部科学省「幼稚園における学校評価ガイドライン〔平成 23 年改訂〕」 2.全幼研「実効性のある学校評価の実施に向けてー幼児教育の質向上につなげる学校評価ガイドブックー」 3.自治体が作成しているガイドライン 4.保育団体等が作成・公開しているガイドライン 5.園独自で作成しているガイドライン 6.評価に関する市販の書籍や冊子等 7.特になし 8.その他（具体的にご記入ください）
26	貴園における関係者評価結果の公表方法としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.直接説明する機会を設定 2.園だより等に掲載 3.園内の掲示板等に掲示 4.園の要覧や園ガイドに掲載 5.園のホームページに掲載 6.メールで配信 7.地域の広報誌や回覧に掲載 8.地域の掲示板や公共施設に掲示 9.公表していない 10.その他（具体的にご記入ください）
27	貴園における関係者評価を実施するにあたっての課題としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.アンケート等の実施や回収 2.評価結果の公表 3.評価結果の分析・活用 4.職員の多忙感 5.評価の意義の職員への浸透や評価に関する知識の向上 6.職員と保護者や地域住民等との意識のずれ 7.関係者評価委員の選任 8.特に課題や困難はなかった 9.その他（具体的にご記入ください）
３．貴施設における学校評価の実施状況についてお尋ねします。(3)		
【第三者評価について】第三者評価の実施状況についてお尋ねします。		
28	貴園では第三者評価をどれくらいの頻度で実施していますか。	1.年間２回以上実施 2.年間１回、年度末に実施 3.年間１回、年度末以外に実施 4.２年に１回実施 5.３年に１回実施 6.上記以下の頻度で実施 7.実施していない
28-2	貴園が第三者評価を実施していない理由としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.実施は義務ではないから 2.実施の必要性を感じないから 3.実施の方法がわからないから 4.評価結果の分析・活用方法がわからないから 5.実施する時間的余裕がないから 6.実施やとりまとめを担える職員がいないから 7.評価結果の公表をしたくないから 8.教職員からの理解や協力を得られないから 9.保護者や地域住民等からの理解や協力を得られないから 10.評価委員の選定や確保が困難であるから 11.評価にかかる費用の負担が重いから 12.開始するきっかけがつかめないから 13.次年度以降の実施に向けて準備中 14.その他（具体的にご記入ください）

29	貴園における第三者評価の実施体制としてあてはまるものを一つお選びください。	1.関係者評価の評価者の中に、園運営に関する外部の専門家を加え実施 2.一定の地域内の複数の園が協力して、互いの園の職員を評価者として実施 3.園運営に関する外部の専門家を中心とする評価チームを編成し実施 4.その他（具体的にご記入ください）
30	第三者評価の項目・指標の策定に関わった方としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.経営陣（理事など） 施設管理者（園長・副園長・教頭） 2.リーダークラスの教諭（主幹保育教諭など現場の取りまとめ） 3.現場クラスの教諭専門職（看護師、栄養士など） 4.事務担当者（事務長、事務職員） 5.その他（具体的にご記入ください）
31	貴園が第三者評価で評価指標としている資料としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.指導計画（週次） 2.指導計画（月次） 3.指導計画（学期） 4.指導計画（年間） 5.園の要覧 6.保育の記録（日誌、子どもの個別記録等） 7.園児の活動の写真、ビデオ、作品 8.園児に対するアンケート結果 9.園児からの意見聴取 10.保護者に対するアンケート結果 11.保護者からの意見聴取 12.地域住民に対するアンケート結果 13.地域住民に対する意見聴取 14.その他（具体的にご記入ください）
32	第三者評価を実施するにあたり参考にしているガイドライン等としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.文部科学省「幼稚園における学校評価ガイドライン〔平成 23 年改訂〕」 2.全幼研「実効性のある学校評価の実施に向けてー幼児教育の質向上につなげる学校評価ガイドブックー」 3.自治体が作成しているガイドライン 4.保育団体等が作成・公開しているガイドライン 5.園独自で作成しているガイドライン 6.評価に関する市販の書籍や冊子等 7.特になし 8.その他（具体的にご記入ください）
33	貴園における第三者評価結果の公表方法としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.直接説明する機会を設定 2.園だより等に掲載 3.園内の掲示板等に掲示 4.園の要覧や園ガイドに掲載 5.園のホームページに掲載 6.メールで配信 7.地域の広報誌や回覧に掲載 8.地域の掲示板や公共施設に掲示 9.公表していない 10.その他（具体的にご記入ください）

34	貴園における第三者評価を実施するにあたっての課題としてあてはまるものをすべてお選びください。	1.アンケート等の実施や回収 2.評価結果の公表 3.評価結果の分析・活用 4.職員の多忙感 5.評価の意義の職員への浸透や評価に関する知識の向上 6.職員と保護者や地域住民等との意識のずれ 7.関係者評価委員の選任 8.特に課題や困難はなかった 9.その他（具体的にご記入ください）
35	最後に、ご回答者様についてご記入ください。 ・お名前 ・職名 ・お電話番号 ・メールアドレス	
36	本調査事業では、若手の保育者の資質・能力の向上に関して特徴的な取組を行っている施設に対し、ヒアリング調査(対面もしくはオンラインで 1 時間程度)を予定しております。ヒアリングへのご協力が可能でしたら「はい」をご選択ください。	1.はい 2.いいえ

6－2　若手保育者向けアンケート

問	設問	選択肢
SC1	あなたの性別をお答えください。	1. 女性 2. 男性 3. その他 4. 回答しない
SC2	あなたの現在のご年齢をお答えください。	数値
SC3	あなたの職業をお知らせください。	1.会社・団体の経営者・役員 2.会社員（契約社員／派遣社員含む） 3.公務員 4.自営業・自由業 5.専業主婦・主夫 6.パート・アルバイト 7.学生 8.無職／リタイア 9.その他
SC4	あなたの現在の職種をお答えください。	1.経営 2.営業・営業事務 3.一般事務・受付・秘書 4.財務・会計・経理 5.人事 6.法務 7.広報 8.商品企画・マーケティング 9.技術（IT 関連） 10.研究 11.接客／販売／サービス 12.クリエイティブ系 13.専門職（弁護士／医師／会計士／税理士など） 14.幼稚園教諭・保育士 ・保育教諭 15.小学校教諭 16.中学校教諭 17.高等学校教諭 18.大学講師・准教授・教授 19.その他
SC5	あなたが現在お勤めの施設をお答えください。	1. 保育所 2. 幼稚園 3. 幼保連携型認定こども園 4. 保育所型認定こども園 5. 幼稚園型認定こども園 6. 地方裁量型認定こども園 7. 認可外保育施設 8. いずれにもあてはまらない
１．はじめに、ご自身についてお尋ねします。（令和６年１月１日時点についてお答えください）		
1	あなたがお勤めの施設の所在地（都道府県）をお答えください。	
2	あなたがお勤めの施設の運営主体をお選びください。	1. 公立 2. 学校法人立 3. 社会福祉法人立 4. その他
3	あなたがお勤めの施設の在籍園児数（利用児童数）として、あてはまるものをお選びください。	1. 1～50 人 2. 51～100 人

		3. 101～200 人 4. 201 人以上
4	あなたが保有している免許・資格について、あてはまるものをお選びください。	1. 幼稚園教員免許を保有 2. 保育士資格を保有 3. 幼稚園教員免許・保育士資格のいずれも保有
5	あなたの雇用形態についてお答えください。	1. 常勤 2. 非常勤
6	あなたは現在担任を持っていますか（一人担任と複数担任のいずれも含みます）。	1. 担任を持っている 2. 担任を持っていない
7	（6 で 1.と回答した場合） あなたが担任をしているクラスの園児数（児童数）は何人ですか。	数値
8	あなたは現在、主に何歳児の保育を担当していますか。 ※学級（クラス）編成上の年齢でご回答ください。	1. 0 歳児 2. 1 歳児 3. 2 歳児 4. 3 歳児 5. 4 歳児 6. 5 歳児 7. 決まった年齢はない
9	あなたが今までに保育を経験したことのある子供 の年齢として、あてはまるものをすべてお選びください（現在担当されている子供も含みます）。 ※学級（クラス）編成上の年齢でご回答ください。	1. 0 歳児 2. 1 歳児 3. 2 歳児 4. 3 歳児 5. 4 歳児 6. 5 歳児
10	あなたは幼稚園教諭・保育士・保育教諭として、通算何年お仕事をされていますか。 ※1 年未満の方は 1 年とお書きください。 ※以前お勤めになっていた施設でのご経験も含めた、通算の期間をお答えください。	数値
2．あなたが、お勤めの保育所・幼稚園・認定こども園で普段取り組んでいる保育についてお尋ねします。		
11	あなたは、保育に関する以下の対応や業務について、どのように感じますか。 【1】年齢や個人の発達に応じた対応 【2】気になる子供や特別な配慮を必要とする子供への対応 【3】集団をまとめたり一斉に指導すること 【4】子供に対する適切な言葉がけ 【5】環境の構成 【6】教材・教具の作成 【7】保育の振り返り・子供の育ちを捉えること 【8】行事の企画・運営 【9】ドキュメンテーションの作成 【10】その他（FA）	1. 得意である 2. どちらかといえば得意である 3. どちらともいえない 4. どちらかといえば苦手である 5. 苦手である

12	あなたは、子供の遊びの場面において、以下の項目をどれだけ実践できていると思いますか。 【項目】 【1】子供の興味や関心を探る 【2】子供の興味や関心に応じて、さらに遊びを豊かにする環境の構成を行う 【3】子供と一緒にやってみて共感する 【4】子供の態度や表情から心情を考察し、それに合わせた援助を考える 【5】状況に応じて見守りと直接的な援助を使い分ける	1.実践できている 2. ある程度実践できている 3. どちらともいえない 4. あまり実践できていない 5. 実践できていない
13	あなたは、以下の遊び・活動を通じて子供と関わることについて、どのように感じますか。 【項目】 【1】集団遊び 【2】自由遊び（子供の好きな遊び） 【3】運動的な遊び 【4】ごっこ遊び 【5】製作・造形活動 【6】お話し・読み聞かせ 【7】音楽表現・リズム活動 【8】自然に関わる活動	1. 得意である 2. どちらかといえば得意である 3. どちらともいえない 4. どちらかといえば苦手である 5. 苦手である
14	あなたは、以下の項目に関して、困ったり悩んだりすることがありますか。 【項目】 【1】保護者対応 【2】事故防止・事故発生時の対応 【3】保育記録の作成 【4】指導要録・保育要録の作成 【5】長期の指導計画（年間計画・月案）の作成 【6】短期の指導計画（週案・日案）の作成 【7】お便り等書類作成 【8】小学校や地域との連携 【9】園内清掃	1. よくある 2. たまにある 3. どちらともいえない 4. あまりない 5. まったくない
15	あなたは、普段のご自身の業務量は適切だと思いますか。	1. とてもそう思う 2. そう思う 3. どちらともいえない 4. そう思わない 5. まったくそう思わない
３．研修への参加状況についてお尋ねします。		
16	あなたは今年度（令和５年度、~~以干~~以降同様。）、どれくらいの頻度で園内研修に参加しましたか（今年度中に参加予定のものも含みます）。 ※「園内研修」とは、ある程度の人数の保育者が一堂に会し、まとまった時間実施する研修を指します。	1. １カ月に２回以上 2. １カ月に１回程度 3. 2～3 カ月に１回程度 4. 半年に１回程度 5. １年に１回程度 6. 参加していない
16 で園内研修に参加したと回答した方にお尋ねします。（今年度参加した園内研修についてお答えください（今年度中に参加予定のものも含む）） ※「園内研修」とは、ある程度の人数の保育者が一堂に会し、まとまった時間実施する研修を指します。		
17	あなたが今年度参加した園内研修の内容として、あてはまるものをすべてお選びください。	1. 事例を題材にした討議・意見交換 2. 研究保育（相互に保育を見合う取組） 3. 外部講師による講義

		4. 園長や管理職による講話 5. 教材研究 6. 遊び等の実技演習 7. その他
18	事例を題材にした討議・意見交換の方法として、以下のそれぞれにあてはまるものをお選びください。 18-1：【この 1 年間で参加したことがあるもの（複数回答可）】 18-2：【今年度参加したものの中で、特に自分の思いや意見を言いやすかったもの 1 つ】 18-3：【今後やってみたいと思うもの（複数回答可）】	1. 各参加者が自分の保育事例について話し合う（概略や写真等を提示しながら進める） 2. 園内の特定の保育事例をとりあげて取り上げて話し合う（研究保育の協議を含む） 3. 冊子や事例集等に掲載されている事例について話し合う 4. 外部講師から提供される事例について話し合う 5. 研修動画等の映像を見て話し合う 6. その他 7. 特になし
19	あなたが園内研修を通じて学びたいことや、もっと知りたいと思うことはなんですか。優先度の高いものから 3 つお選びください。 1 番目【○】 2 番目【○】 3 番目【○】	1. 保育の振り返り・子供の育ちの捉え方 2. 遊びの充実に関わる具体的な環境の構成の工夫 3. 教材や子供の遊びの特性（学びの可能性） 4. 行事の運営方法 5. ドキュメンテーションの作成方法 6.保育記録の作成方法 7. 年齢や個人の発達に合わせた対応 8. 気になる子供や特別な支援を必要としている子供への対応 9. 集団をまとめたり一斉に指導すること 10. 子供への適切な言葉がけ 11. その他
16 で園内研修に参加していないと回答した方にお尋ねします。		
20	園内研修に参加していない理由としてあてはまるものをお選びください。	1. 参加する時間が取れないから 2. 必要性を感じていないから 3. 研修対象ではないから 4. 園内研修が実施されていないから 5. その他 6. わからない
21	あなたは今年度、園外研修に参加しましたか（今年度中に参加予定のものも含みます）。	1. 参加した 2. 参加していない
４．あなたが保育の対応で困った時の対応等についてお尋ねします。		
22	あなたは、保育の対応で困ったり悩んだりしたとき、施設内でどなたに相談していますか。	1. 園長 2. 副園長・教頭 3. 主任 4. 先輩 5. 同期 6. その他 7. 相談していない
23	いつ相談していますか。	1. 職員会議・ミーティング 2. 朝会 3. 終礼 4. メンター制度、エルダー制度、OJT 制度等による定期的な相談機会 5. 園内研修 6. 業務の合間・業務をしながら 7. その他

24	あなたがお勤めの施設では、先輩やベテラン保育者の保育事例を見聞きし、参考にする機会がありますか。そうした機会としてあてはまるものをすべてお選びください。	1. 園内研修 2. 職員会議・ミーティング 3. 朝会 4. 終礼 5. メンター制度、エルダー制度、OJT 制度等による定期的な相談機会 6. 業務の合間・業務をしながら 7. その他 8. そうした機会はない
25	あなたは、ご自身の日々の保育を振り返っていますか。（園内研修やミーティング等で振り返りを行う場合も含みます） 振り返っている場合、いつどのように振り返っているか、具体的にお答えください。	1. 振り返っている（具体的な方法） 2. 振り返っていない
26	あなたは普段、どんなときに子供の育ちに気付くことが多いですか。あてはまるものをすべてお選びください。	1. 保育の振り返り等でエピソードを書いているとき 2. 保育について同僚等と話しているとき 3. 自分の保育記録に対する主任や園長等のコメントを読むとき 4. 自分の保育記録を、幼児期に育みたい資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の視点で分析するとき（一人で行う場合、他者と一緒に行う場合どちらも含む） 5. その他 6. わからない
ヒアリング調査へのご協力のお願い		
27	本調査事業では、若手の保育者が現場で抱えている悩み事・課題や、研修への参加状況等について、ヒアリング調査(オンラインで 2 時間程度)を予定しております。ヒアリング調査は 5 名 1 組のグループでのインタビューを予定しております。 ご協力が可能でしたら「はい」をご選択ください。	1. はい 2. いいえ